

令和 4 年度 神戸市内地域組織基礎調査

自治会

調査結果報告書

令和 5 年 3 月

神戸市



## 【目次】

<b>(1) 調査概要</b> .....	<b>1</b>
① 調査の目的 .....	1
② 調査対象 .....	1
③ 調査方法等 .....	1
④ 調査の対象と回収状況 .....	1
⑤ 調査結果の表示方法 .....	2
<b>(2) 団体の活動</b> .....	<b>3</b>
① 地域の世帯数（問1②） .....	3
② 加入世帯数（問1②） .....	3
③ 自治会の区域（問1③） .....	4
④ 法人格の有無（問1④） .....	5
⑤ 加入世帯数の変化（問2） .....	6
⑦ 加入促進のための取り組み（問3） .....	7
⑧ 自治会を退会するケースの有無（問4） .....	8
⑨ 退会を防ぐための取り組み（問5） .....	9
⑩ 実施している活動（問6） .....	10
⑪ 今後特に力を入れたい活動（問6） .....	12
⑫ 1世帯あたりの会費（問8） .....	13
⑬ 直近年度の決算の収入額（問9） .....	13
<b>(3) 利用施設と集まりの開催状況</b> .....	<b>14</b>
① 定期的に利用している施設（問7） .....	14
② 集まりの状況（主な利用対象者と開催頻度）（問7） .....	14
<b>(4) デジタル技術の活用</b> .....	<b>15</b>
① デジタル技術の活用状況と今後の活用意向（問11） .....	15
② デジタル技術活用のために市に求める支援（問12） .....	16
③ デジタル技術活用のために参加したい講習会（問13） .....	16
<b>(5) 他団体との連携</b> .....	<b>17</b>
① 他団体との連携の状況（問15） .....	17
② 他団体と連携した取組事例（問16） .....	18
③ 他団体と連携して実現したいこと（アイデア）（問17） .....	19
<b>(6) 活動を進めていくための課題</b> .....	<b>20</b>
① コロナ禍での活動で苦労していること（問10） .....	20
② 活動を進めていくための課題（人材面）（問14①） .....	21
③ 活動を進めていくための課題（運営面）（問14②） .....	21
④ 活動への住民の参加状況の課題（問14③） .....	22
⑤ 地域住民への情報伝達における課題（問14④） .....	22
<b>(7) 団体が活動している地域の状況等</b> .....	<b>23</b>

① 住民の居住年数の特徴（問19①） .....	23
② 住民同士の交流の状況（問19②） .....	23
③ 住民による地域活動の活発さの状況（問20） .....	24
④ 活発になっている理由（問21） .....	24
⑤ 以前に比べて活発でなくなった理由（問22） .....	25
⑥ 活動している地域の課題（問23） .....	26
⑦ 課題解決のために今後力を入れて取り組むことが必要なこと（問24） .....	27
<b>(8) 今後の活動に向けて .....</b>	<b>28</b>
① 活動の現状についての満足度（問25） .....	28
② 団体が担う役割の今後についての考え（問26） .....	28
④ 団体の活動を活発にしていくために必要なこと（問27） .....	29
⑤ 加入促進にあたって市に期待する取り組み（問29） .....	29
⑥ 市に相談したいことや支援を希望すること（問30） .....	30
⑦ 法人格取得への関心（問31） .....	30
⑧ 自治会支援に関わる神戸市の取り組みの認知状況や利用状況（問32） .....	31
<b>(10) 代表の活動状況 .....</b>	<b>32</b>
① 代表（回答者）の状況（問40） .....	32
② 代表の選出方法（問33） .....	34
③ 代表の任期や定年の定め（問34） .....	34
④ 代表になってからの年数（問35） .....	35
⑤ 地域活動のための月間活動日数（問38） .....	35
⑥ 地域活動の担い手として参加したきっかけ（問36） .....	36
⑦ 地域活動に参加してよかったこと（問37） .....	36
⑧ 会長として特に感じる負担（問39） .....	37
<b>(11) 自由意見（問28） .....</b>	<b>38</b>
① 自治会加入の促進や退会防止での工夫 .....	38
② 運営での工夫 .....	39
③ コロナ禍において新たに取組んだこと .....	40

（資料）調査票

## (1) 調査概要

### ① 調査の目的

神戸市では、おおむね3年ごとに、市内で活動されている地域組織のみなさまの活動実態及び課題などを把握するためアンケート調査を実施している。

前回の調査（令和元年度）以降、新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、対面での活動が制限されたり、感染防止対策が必要となるなど、地域活動の実施にあたっては様々な工夫をされるとともに、様々な地域課題への対応や、デジタル技術の活用等、新たな取組にもチャレンジされていると考えられる。そこで、地域組織の活動に携わっている市民の取り組みや感じていることを把握し、今後の施策に活用する。

### ② 調査対象

下記の団体を対象とする。

	概要	備考
自治会	様々な地域課題を住民自ら解決するために結成された住民自治組織で、地域の実情に応じ、クリーンステーションの清掃、防火・防犯活動、高齢者や障がい者への福祉活動、親睦行事の催しなどの活動を行っている。	神戸市に登録している自治会を対象とした。マンション管理組合は対象外とした。

### ③ 調査方法等

調査方法	調査対象団体の代表者に調査票を郵送配付し、郵送で回収した。
調査期間	令和4年10月11日（火）～11月11日（金）

### ④ 調査の対象と回収状況

	発送数	未着数	有効発送数	有効回収数	回収率
全市	2,230	9	2,221	1,330	59.9%
東灘区	159	1	158	100	63.3%
灘区	144		144	89	61.8%
中央区	107		107	47	43.9%
兵庫区	209		209	128	61.2%
北区	332	3	329	211	64.1%
長田区	275		275	154	56.0%
須磨区	248	1	247	140	56.7%
垂水区	404	3	401	211	52.6%
西区	352	1	351	242	68.9%
不明				8	

## ⑤調査結果の表示方法

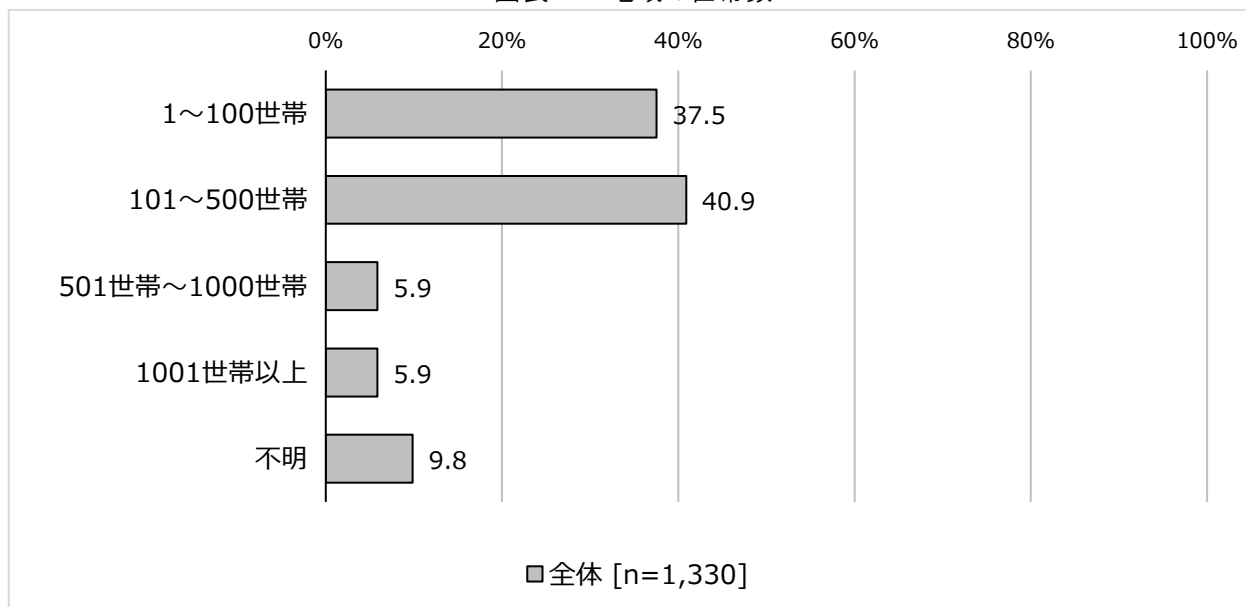
- ・比率は、小数点第2位を四捨五入し、小数点第1位までの百分率（%）で表しています。このため、合計が100%にならない場合もあります。
- ・各設問のサンプルサイズは、“n=●”として記載しています。
- ・〔複数回答〕とある設問は、2つ以上の選択肢を回答することが可能な設問です。このため、各回答の合計比率が100%を超える場合があります。

## (2) 団体の活動

### ①地域の世帯数（問1②）

地域の世帯数は、「101世帯～500世帯」が40.9%、「1～100世帯」が37.5%となっている。最大は9,000世帯となっている。

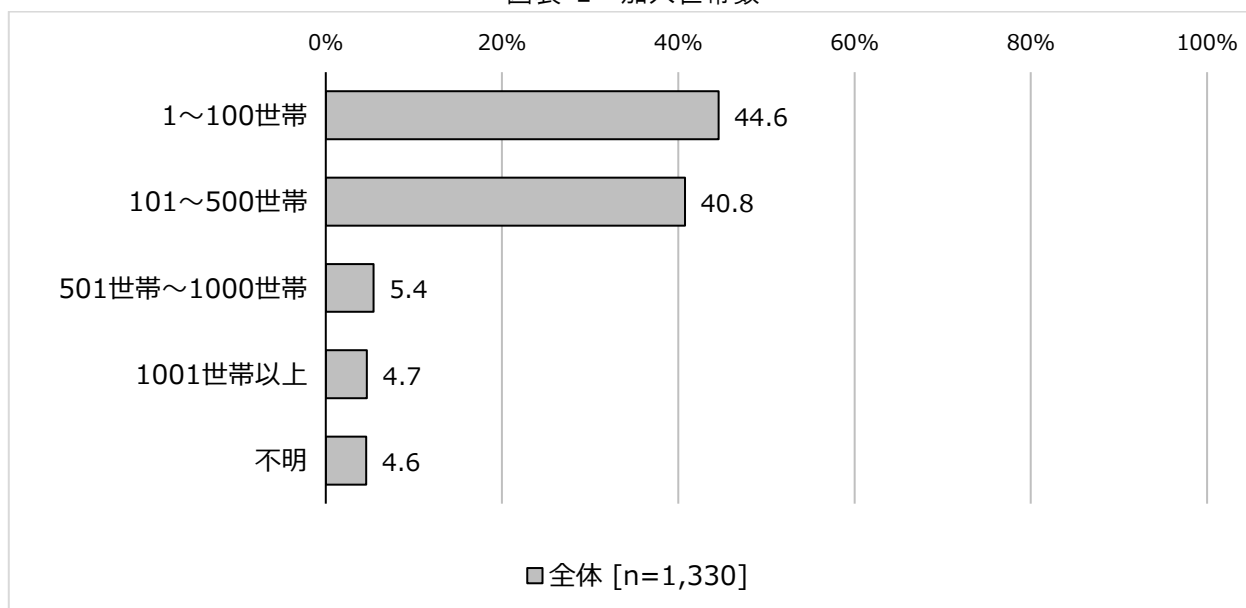
図表 1 地域の世帯数



### ②加入世帯数（問1②）

加入世帯数は、「1～100世帯」が44.6%「101世帯～500世帯」が40.8%となっている。最大は7,400世帯となっている。

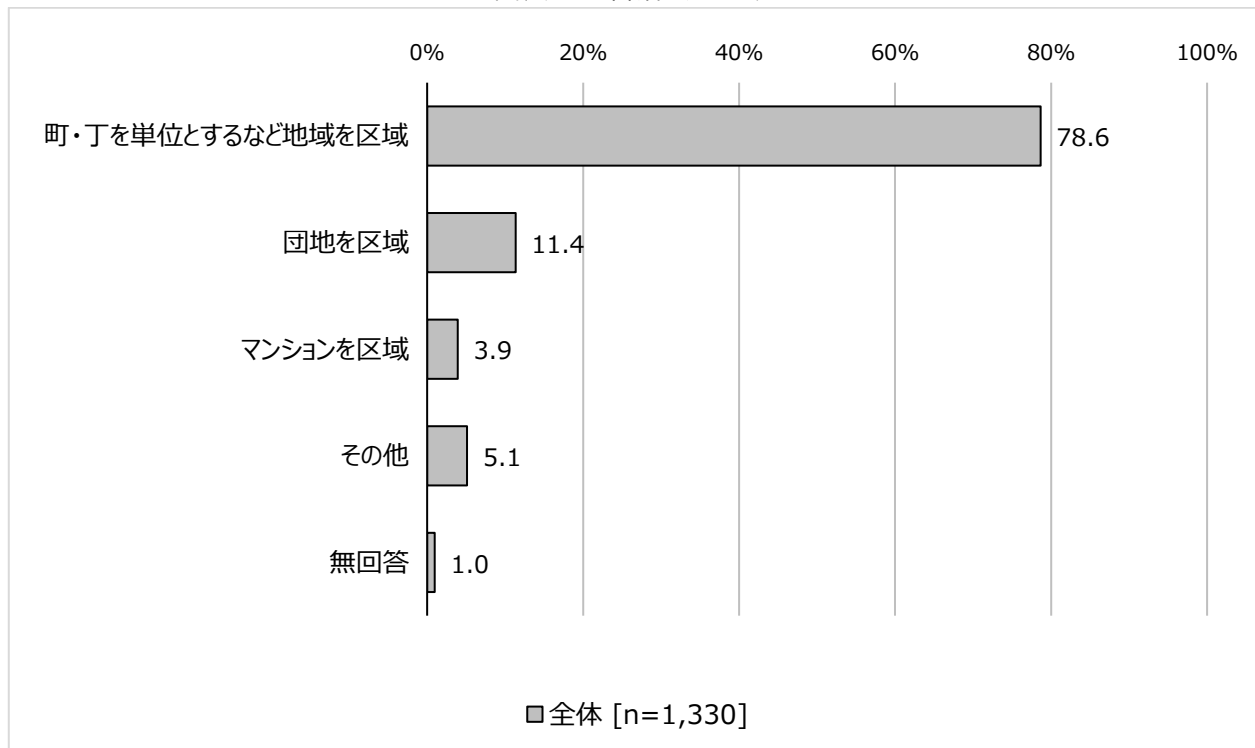
図表 2 加入世帯数



### ③自治会の区域（問1③）

自治会の区域は、「町・丁を単位とするなど地域を区域」が78.6%と最も多く、次いで「団地を区域」が11.4%、「その他」が5.1%などとなっている。

図表 3 自治会の区域

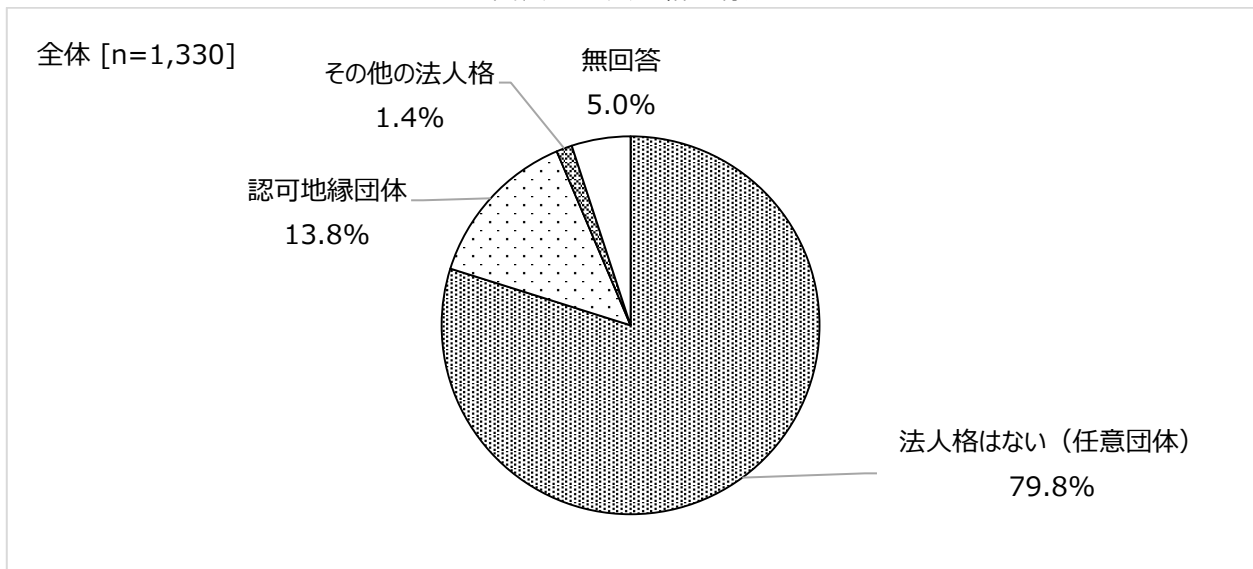




#### ④法人格の有無（問1④）

法人格の有無は、「法人格はない（任意団体）」が79.8%、「認可地縁団体」が13.8%、「その他の法人格」が1.4%となっている。

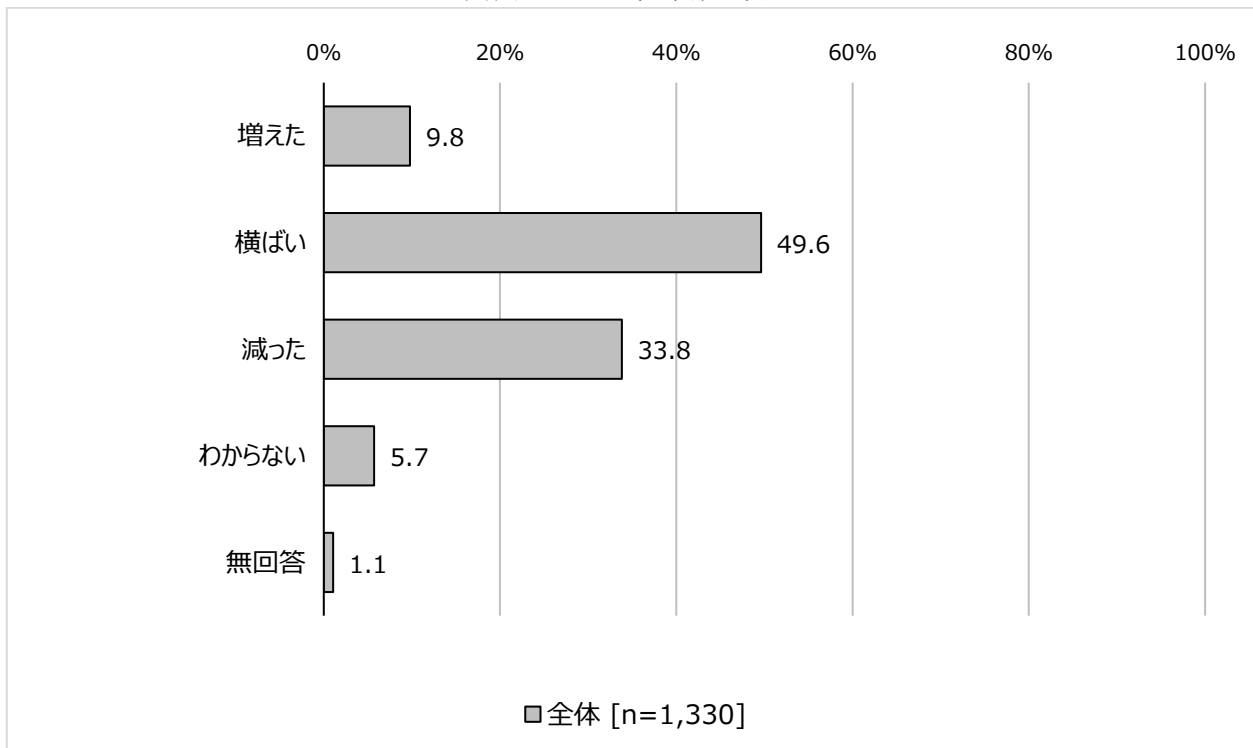
図表 4 法人格の有無



### ⑤ 加入世帯数の変化（問2）

加入世帯数の変化は、「横ばい」が49.6%と最も多く、次いで「減った」が33.8%、「増えた」が9.8%などとなっている。

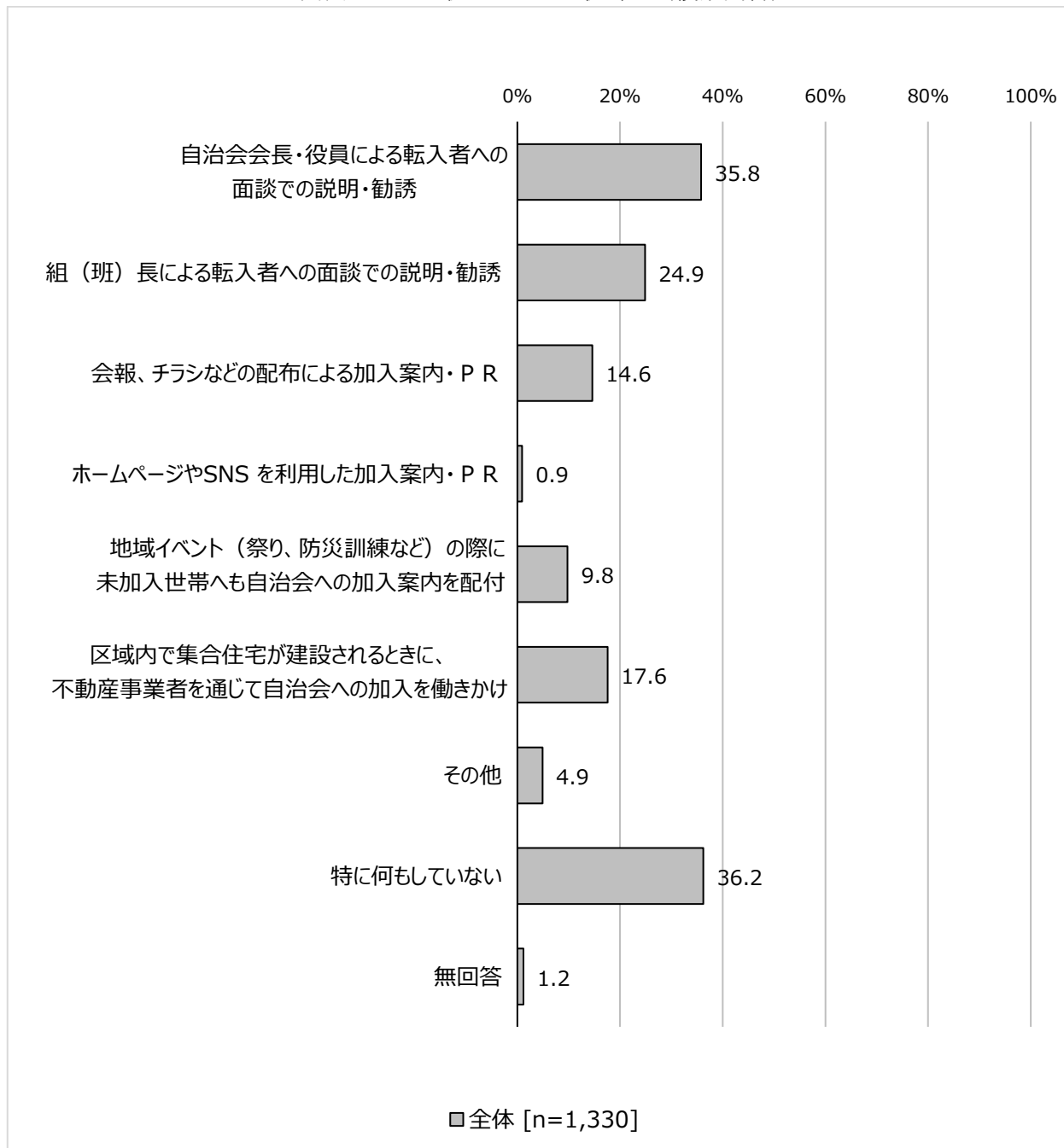
図表 5 加入世帯数の変化



### ⑦加入促進のための取り組み（問3）

加入促進のための取り組みは、「特に何もしていない」が36.2%と最も多く、次いで「自治会会長・役員による転入者への面談での説明・勧誘」が35.8%、「組（班）長による転入者への面談での説明・勧誘」が24.9%などとなっている。

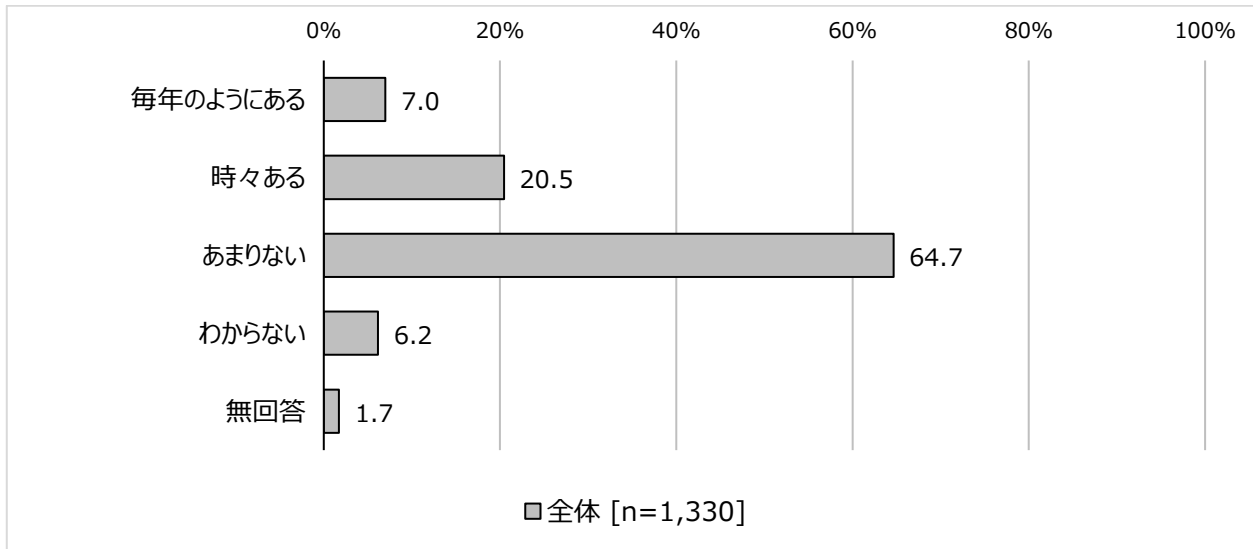
図表 6 加入促進のための取り組み〔複数回答〕



### ⑧自治会を退会するケースの有無（問4）

自治会を退会するケースの有無は、「あまりない」が64.7%と最も多く、次いで「時々ある」が20.5%、「毎年のようにある」が7.0%などとなっている。

図表 7 自治会を退会するケースの有無



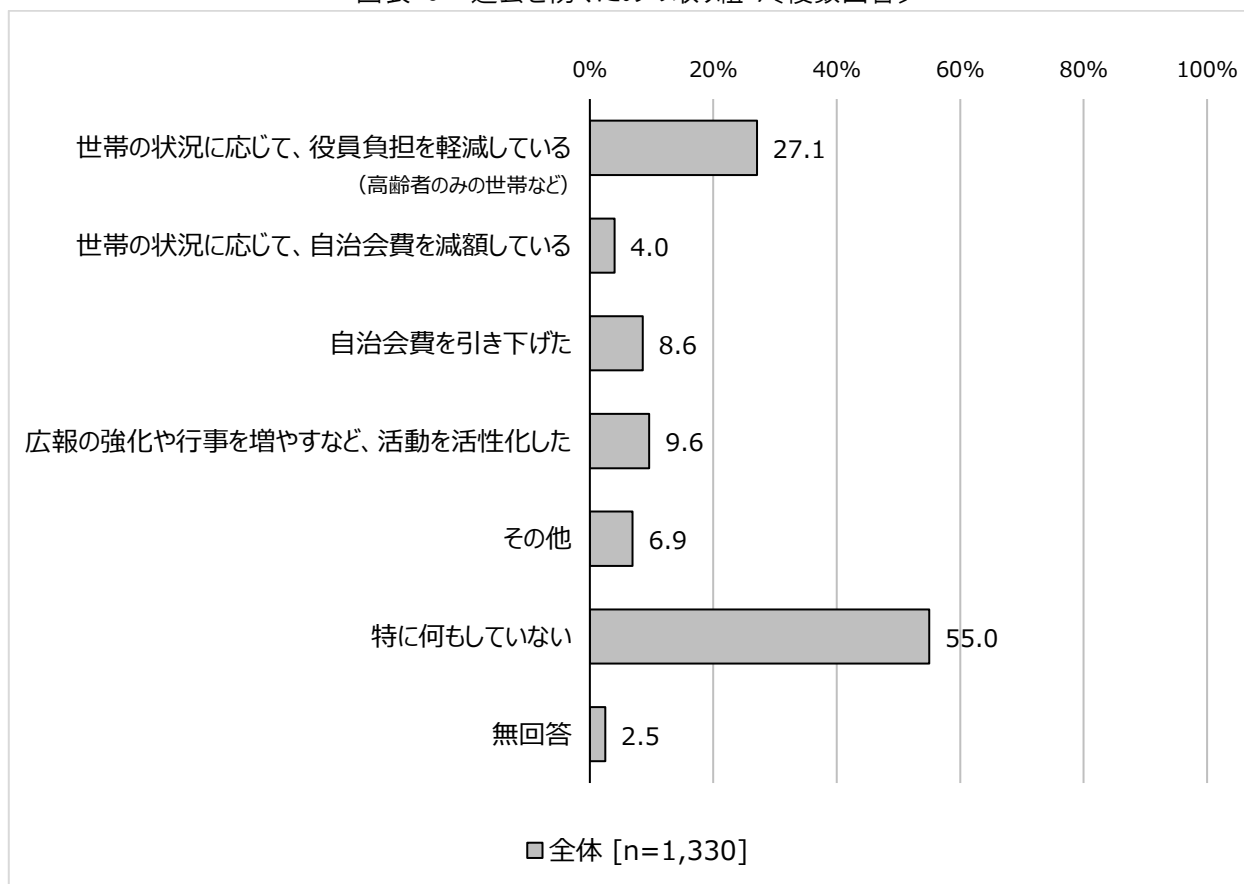
図表 8 自治会を退会するケース

自治会を退会するケース（地域外への転居や死亡を除く）	
加入メリット	<ul style="list-style-type: none"> <li>・加入するメリットを感じない。</li> <li>・コロナ禍で、多くの人が集まるイベントが難しくなっている。</li> <li>・自治会活動に参加しない。</li> <li>・日中の不在が多い。</li> <li>・地域行事等に関心がない。</li> </ul>
役員負担	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢である。</li> <li>・役員を担いたくない。</li> <li>・輪番制で役があたる。</li> <li>・役員の業務が負担である。</li> </ul>
会費	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自治会費を支払いたくない。</li> <li>・会費を払えない。</li> <li>・非会員との差がないので会費を払いたくない。</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近隣と交流したくない。</li> <li>・近隣とのトラブルがある。</li> <li>・入院する。</li> <li>・施設に入所する。</li> </ul>

### ⑨ 退会を防ぐための取り組み（問5）

退会を防ぐための取り組みは、「特に何もしていない」が55.0%と最も多く、次いで「世帯の状況に応じて、役員負担を軽減している（高齢者のみの世帯など）」が27.1%、「広報の強化や行事を増やすなど、活動を活性化した」が9.6%などとなっている。

図表 9 退会を防ぐための取り組み〔複数回答〕

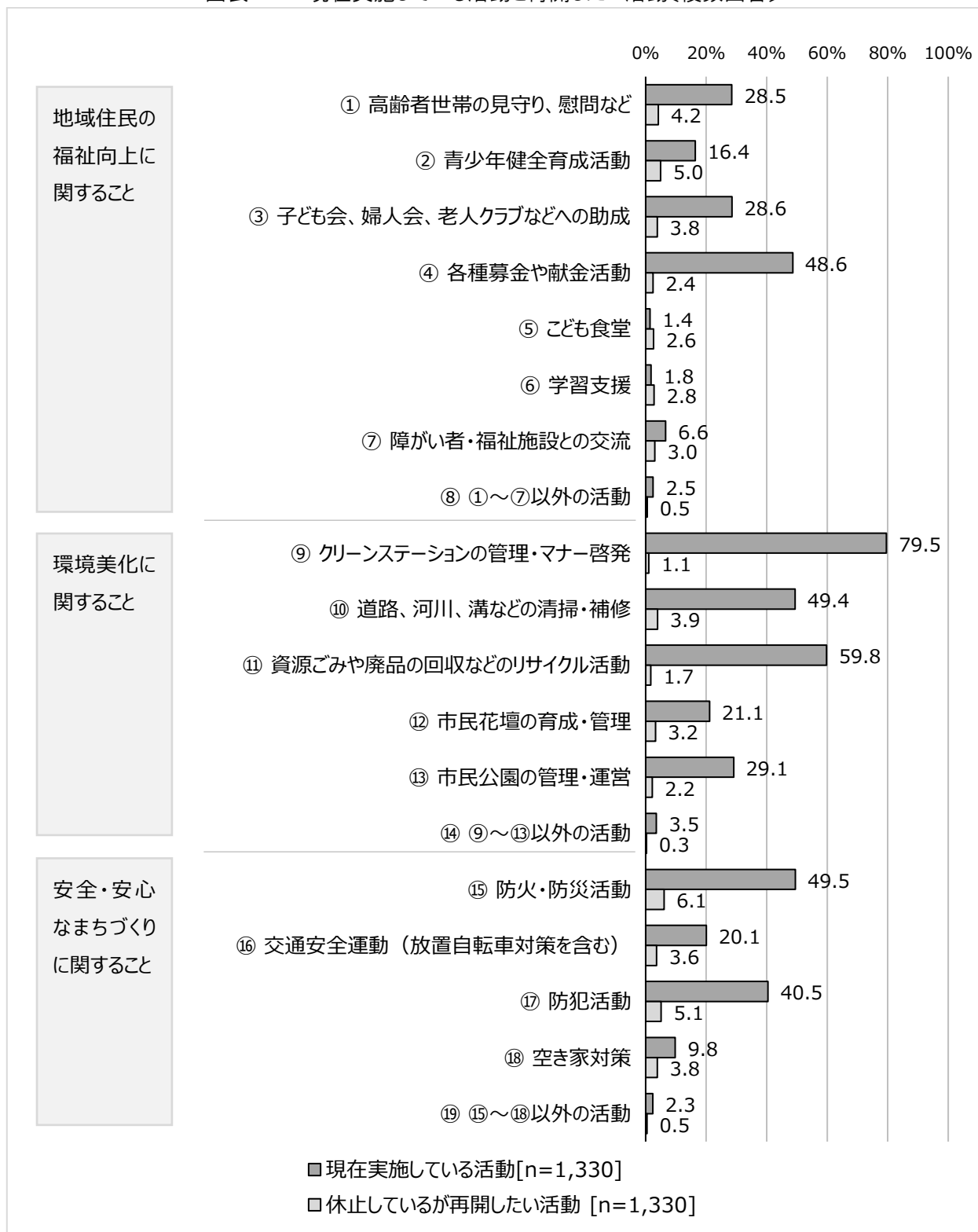


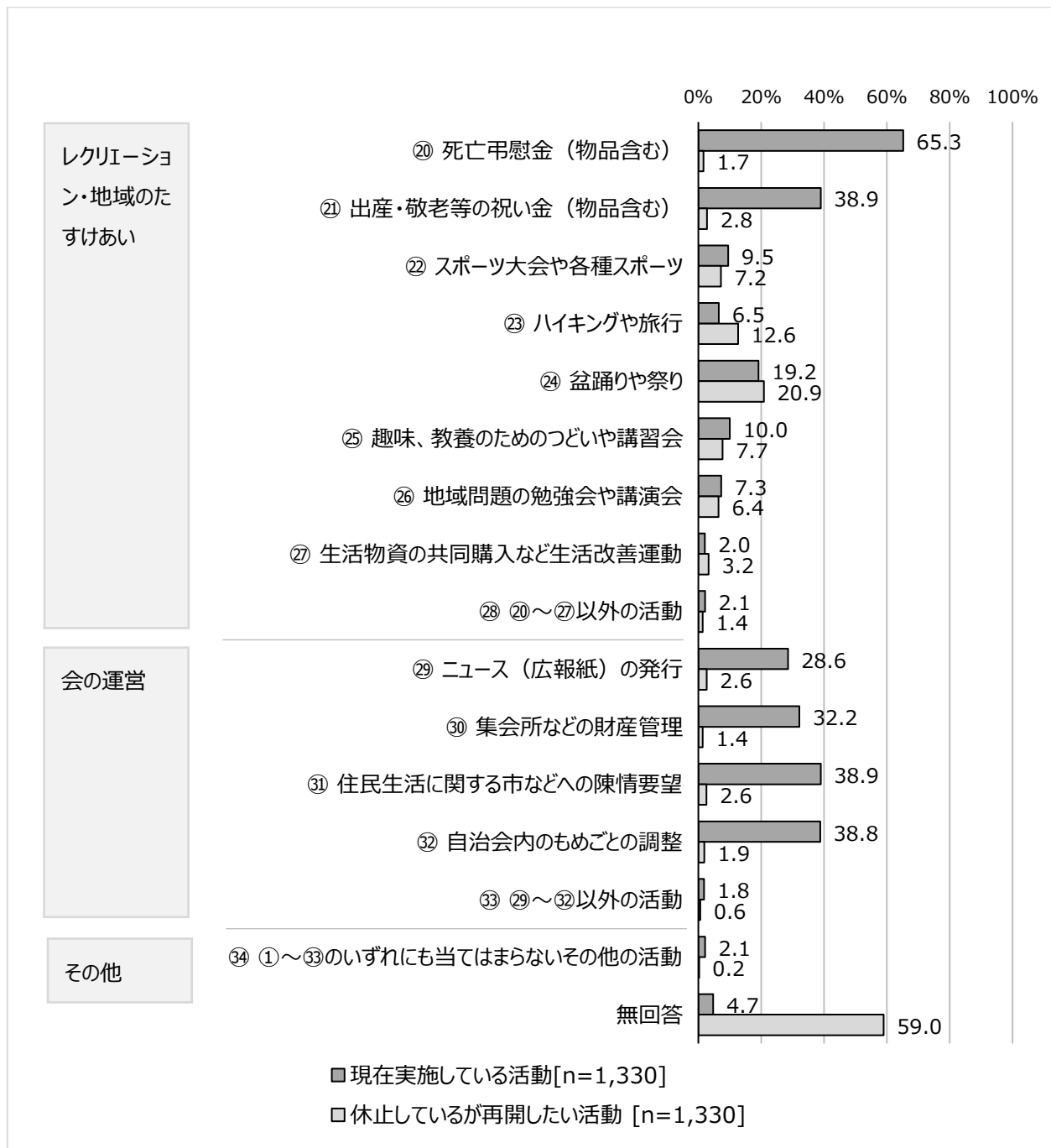
## ⑩実施している活動（問6）

現在実施している活動は、「⑨ クリーンステーションの管理・マナー啓発」が79.5%と最も多く、次いで「⑩ 死亡弔慰金（物品含む）」が65.3%、「⑪ 資源ごみや廃品の回収などのリサイクル活動」が59.8%などとなっている。

休止しているが再開したい活動は、「⑭ 盆踊りや祭り」が20.9%と最も多く、次いで「⑮ ハイキングや旅行」が12.6%、「⑯ 趣味、教養のためのつどいや講習会」が7.7%などとなっている。

図表 10 現在実施している活動と再開したい活動〔複数回答〕

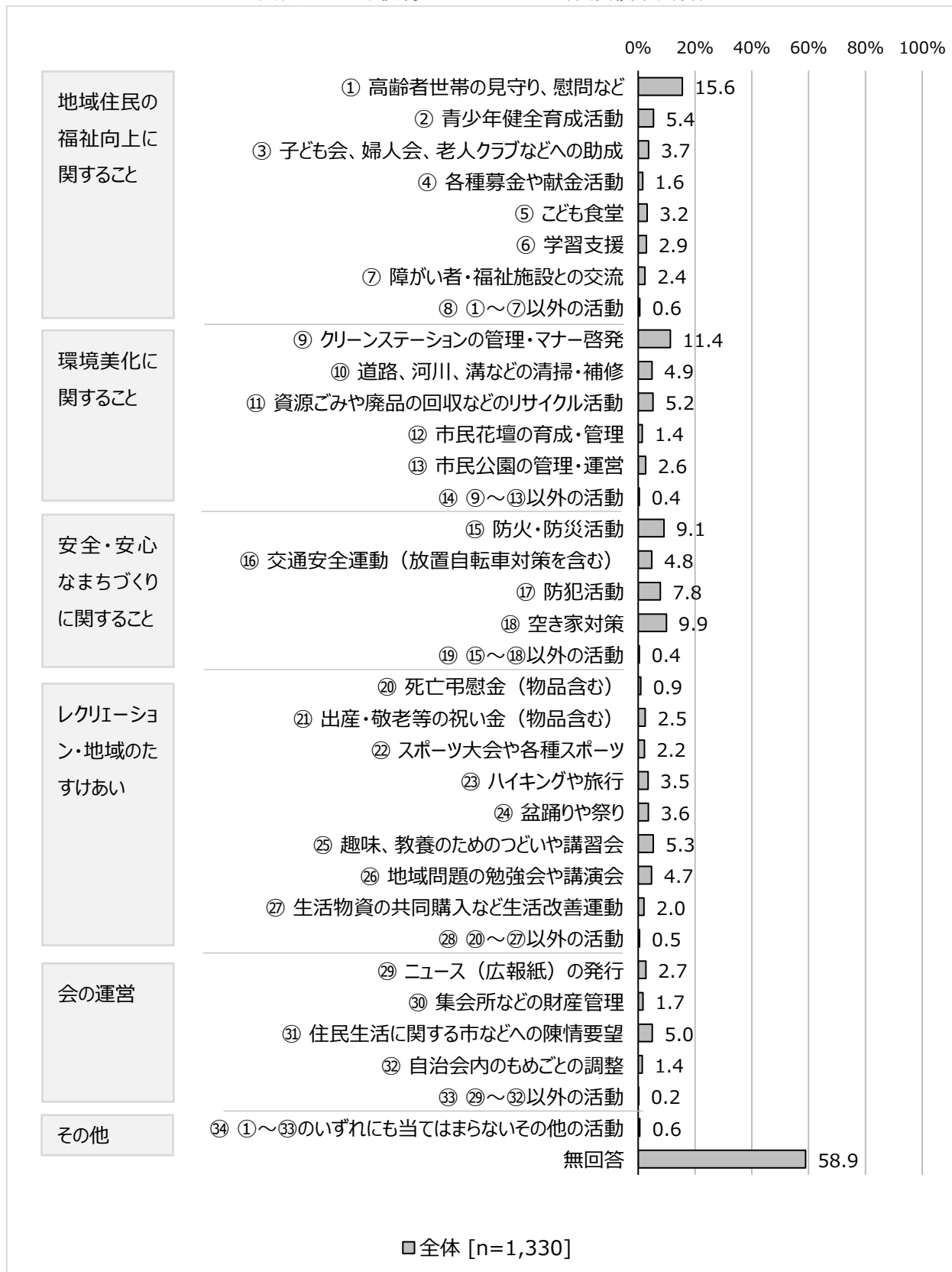




### ⑪今後特に力を入れたい活動（問6）

今後特に力を入れたい活動は、「① 高齢者世帯の見守り、慰問など」が15.6%と最も多く、次いで「⑨ クリーンステーションの管理・マナー啓発」が11.4%、「⑱ 空き家対策」が9.9%などとなっている。

図表 11 今後特に力を入れたい活動〔複数回答〕

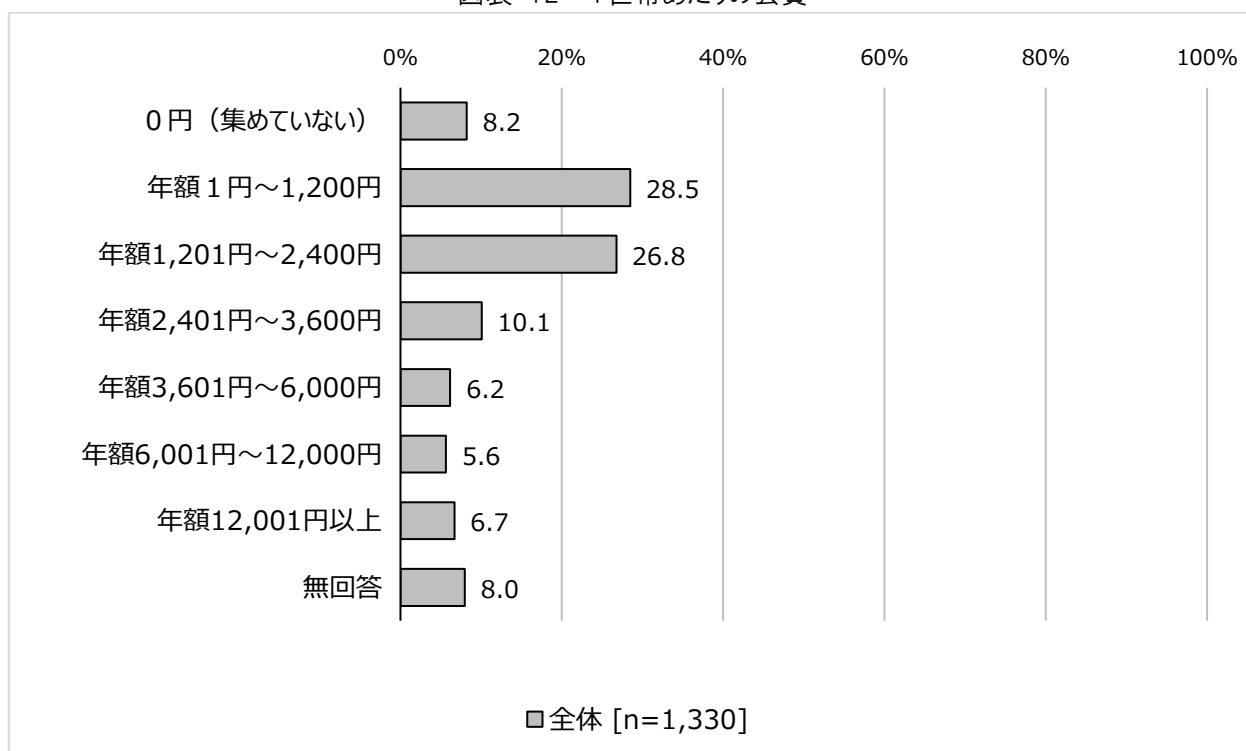




### ⑫ 1世帯あたりの会費（問8）

1世帯あたりの会費は、「年額1円～1,200円」が28.5%と最も多く、次いで「年額1,201円～2,400円」が26.8%、「年額2,401円～3,600円」が10.1%などとなっている。

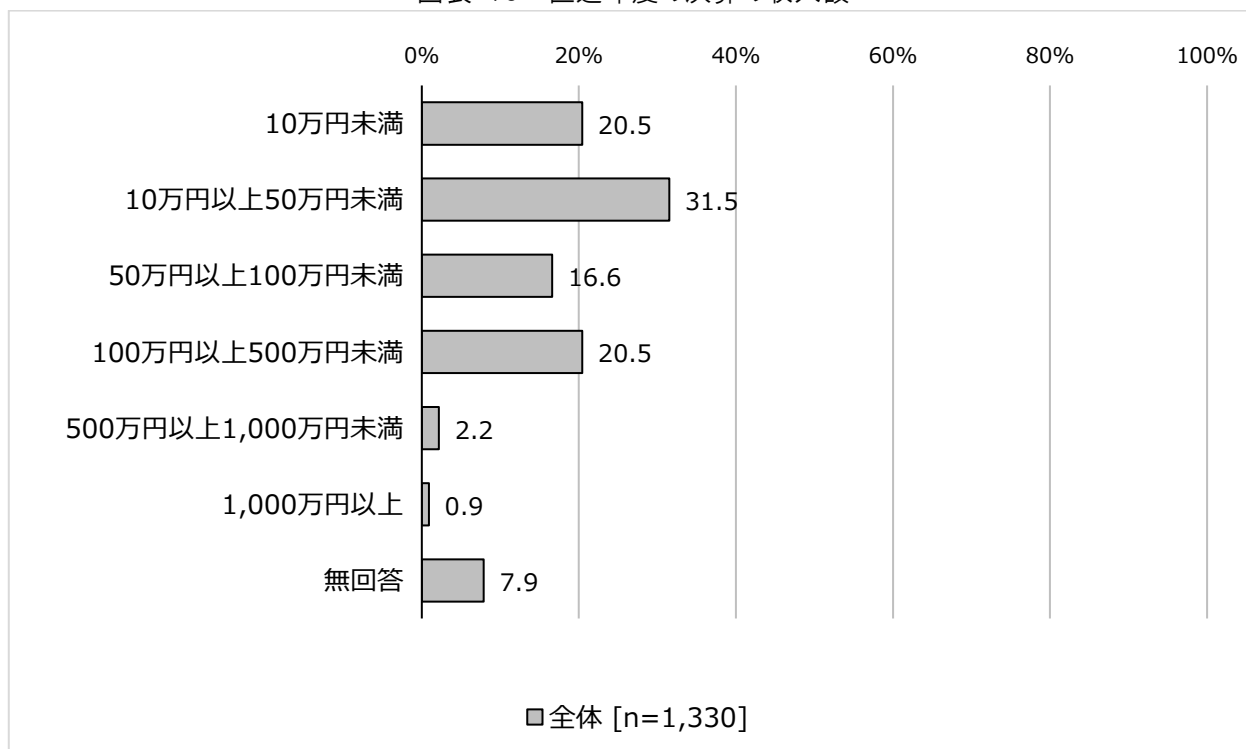
図表 12 1世帯あたりの会費



### ⑬ 直近年度の決算の収入額（問9）

直近年度の決算の収入額は、「10万円以上50万円未満」が31.5%と最も多く、次いで「10万円未満」と「100万円以上500万円未満」が20.5%などとなっている。

図表 13 直近年度の決算の収入額



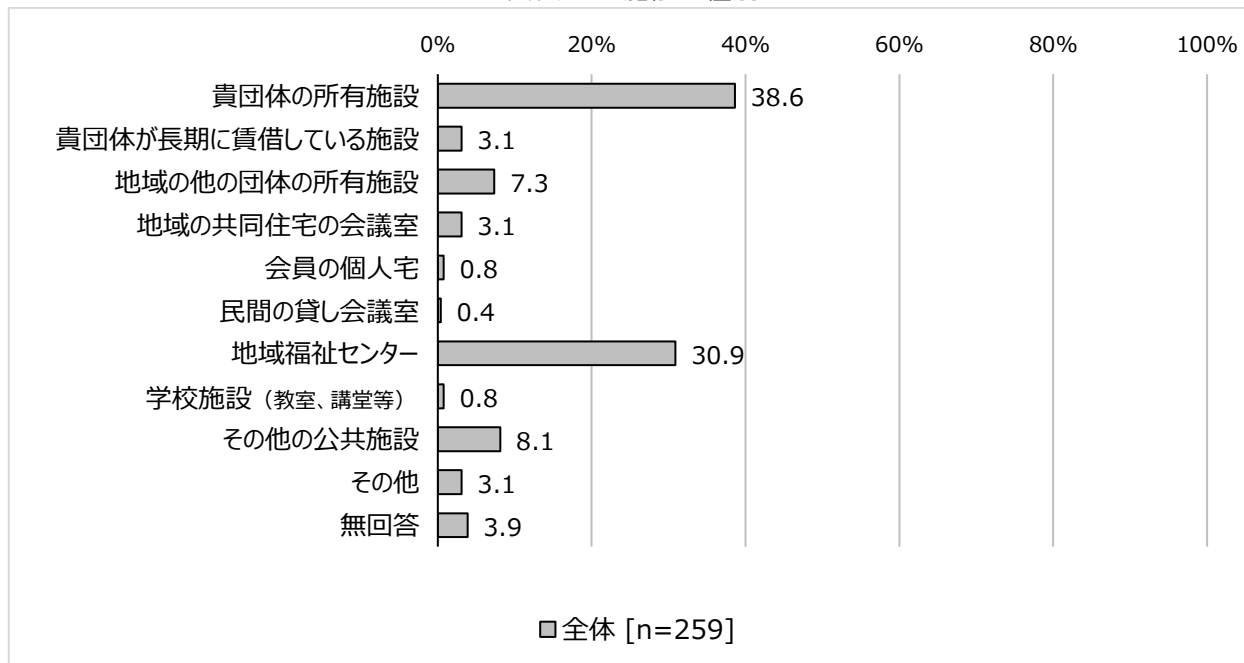
### (3) 利用施設と集まりの開催状況

#### ① 定期的にご利用している施設（問7）

自治会が定期的にご利用している施設として259施設の回答があった。

施設の種別は、「貴自治体の所有施設」が38.6%と最も多く、次いで「地域福祉センター」が30.9%となっている。

図表 14 施設の種別



#### ② 集まりの状況（主な利用対象者と開催頻度）（問7）

定期的で開催している集まりとして494件の回答があった。

主な利用対象者は、「どなたでも」が233件と最も多く、月1回の開催の集まりが多くなっている。次いで、「高齢者」を対象とする集まりが158件で、月1回の開催の集まりが多くなっている。

図表 15 集まりの状況(主な利用対象者と開催頻度)

主な利用対象	合計	開催頻度 (月当たりの開催日数)						
		月1回未満	月1回	月2回	月3回	月4回	月5回以上	無回答
合計 [n=494]	494	13	195	85	11	74	49	67
	100.0	2.6	39.5	17.2	2.2	15.0	9.9	13.6
どなたでも [n=233]	233	3	92	47	7	31	21	32
	100.0	1.3	39.5	20.2	3.0	13.3	9.0	13.7
子ども [n=30]	30	1	4	1	1	5	14	4
	100.0	3.3	13.3	3.3	3.3	16.7	46.7	13.3
親子 [n=23]	23	1	13	3	0	2	1	3
	100.0	4.3	56.5	13.0	0.0	8.7	4.3	13.0
高齢者 [n=158]	158	4	69	26	2	26	10	21
	100.0	2.5	43.7	16.5	1.3	16.5	6.3	13.3
その他 [n=22]	22	2	7	4	1	5	1	2
	100.0	9.1	31.8	18.2	4.5	22.7	4.5	9.1
無回答[n=28]	28	2	10	4	0	5	2	5
	100.0	7.1	35.7	14.3	0.0	17.9	7.1	17.9

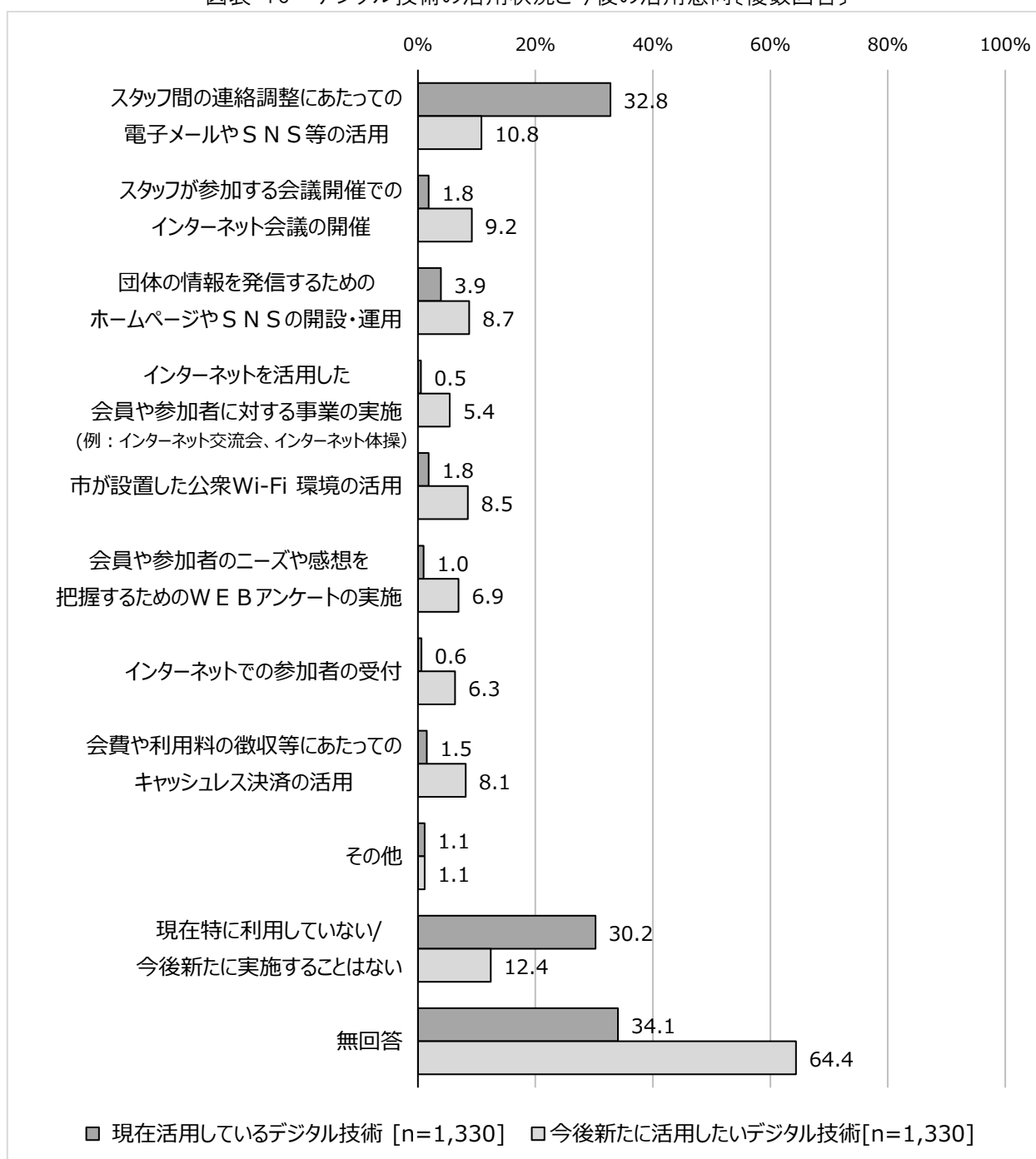
## (4) デジタル技術の活用

### ① デジタル技術の活用状況と今後の活用意向（問 11）

現在活用しているデジタル技術は、「スタッフ間の連絡調整にあたっての電子メールやSNS等の活用」が32.8%と最も多く、次いで「現在特に利用していない」が30.2%、「団体の情報を発信するためのホームページやSNSの開設・運用」が3.9%などとなっている。

今後新たに活用したいデジタル技術は、「今後新たに実施することはない」が12.4%と最も多く、次いで「スタッフ間の連絡調整にあたっての電子メールやSNS等の活用」が10.8%、「スタッフが参加する会議開催でのインターネット会議の開催」が9.2%などとなっている。

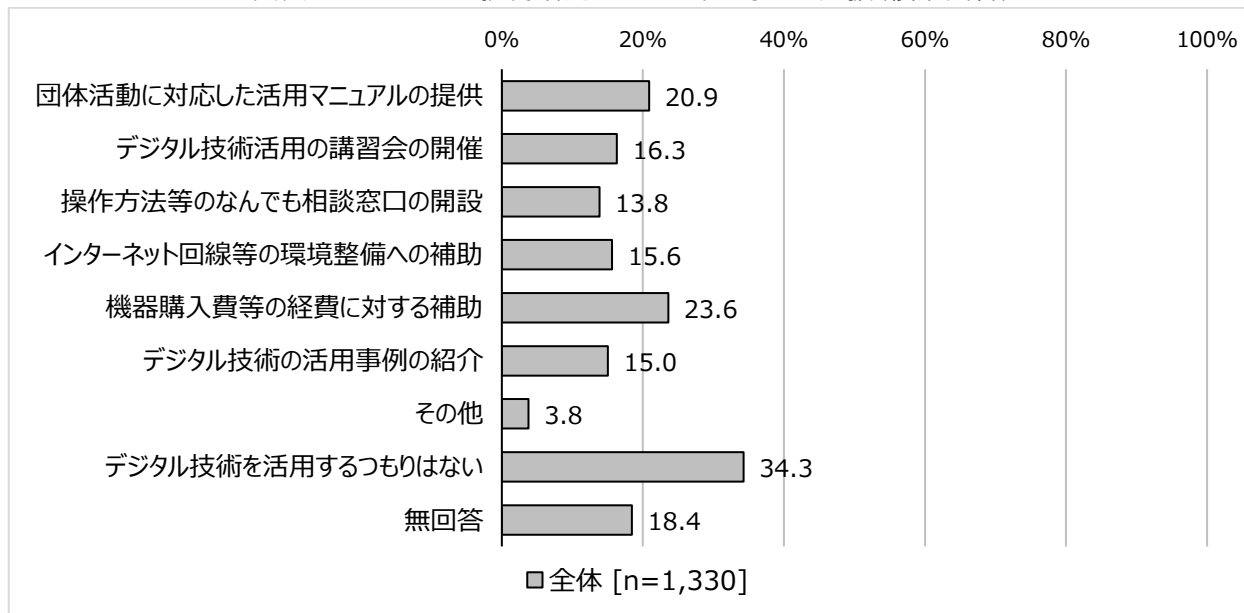
図表 16 デジタル技術の活用状況と今後の活用意向〔複数回答〕



## ② デジタル技術活用のために市に求める支援（問 12）

デジタル技術活用のために市に求める支援は、「デジタル技術を活用するつもりはない」が34.3%と最も多く、次いで「機器購入費等の経費に対する補助」が23.6%「団体活動に対応した活用マニュアルの提供」が20.9%などとなっている。

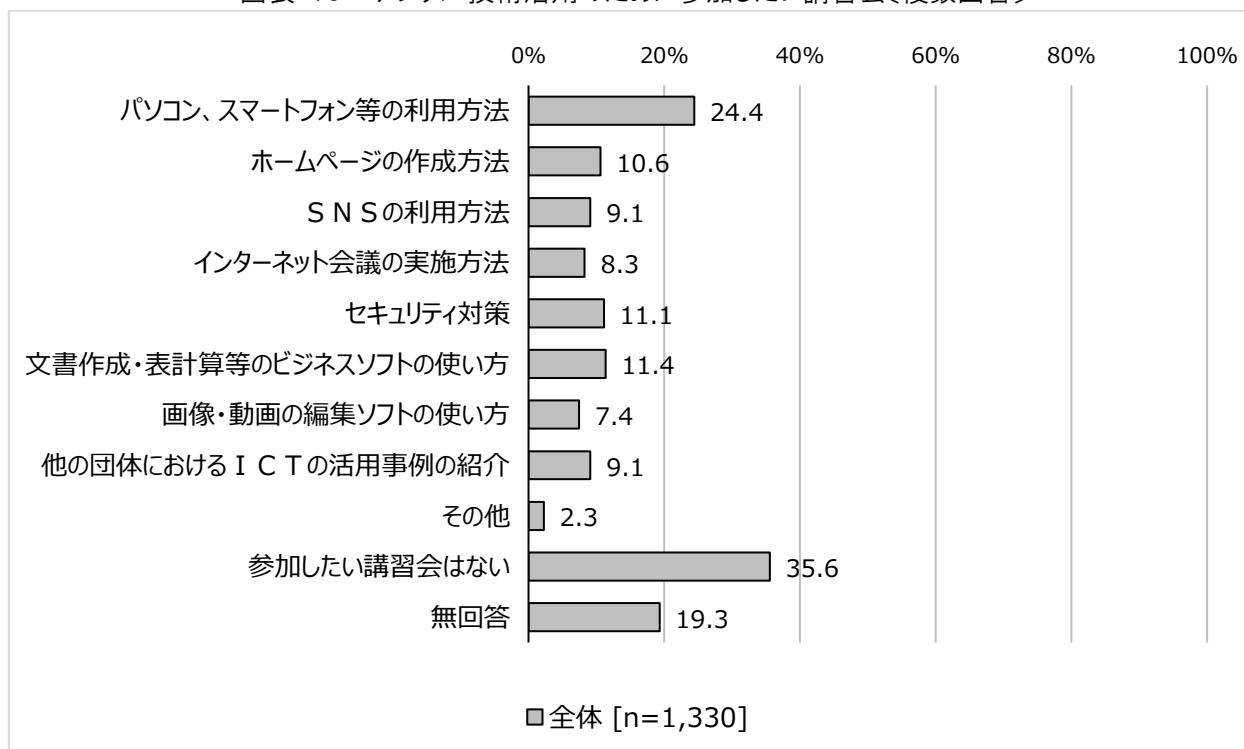
図表 17 デジタル技術活用のために市に求める支援〔複数回答〕



## ③ デジタル技術活用のために参加したい講習会（問 13）

デジタル技術活用のために参加したい講習会は、「参加したい講習会はない」が35.6%と最も多く、次いで「パソコン、スマートフォン等の利用方法」が24.4%、「文書作成・表計算等のビジネスソフトの使い方」が11.4%などとなっている。

図表 18 デジタル技術活用のために参加したい講習会〔複数回答〕



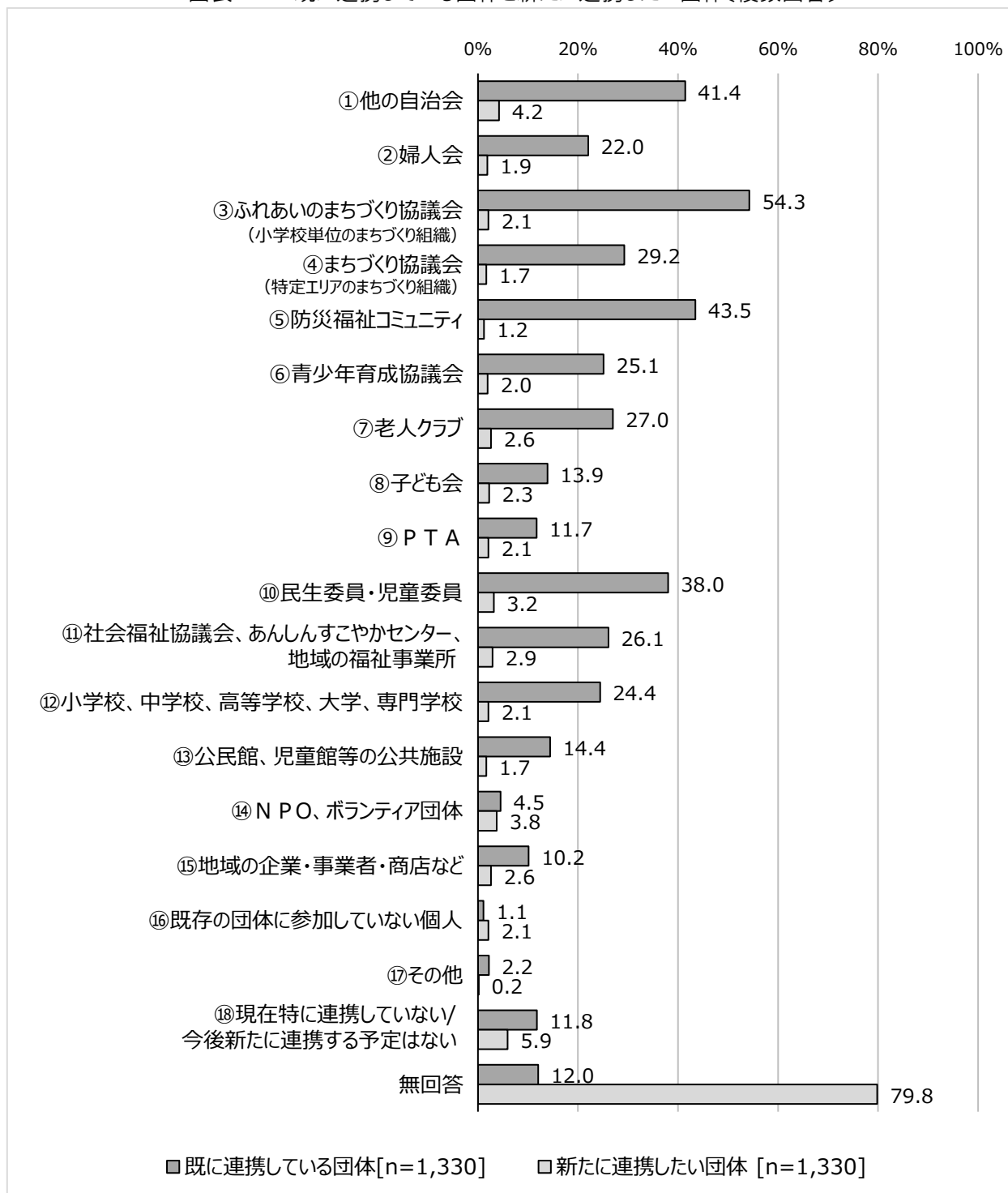
## (5) 他団体との連携

### ①他団体との連携の状況（問 15）

既に連携している団体は、「③ふれあいまちづくり協議会（小学生単位のまちづくり組織）」が54.3%と最も多く、次いで「⑤防災福祉コミュニティ」が43.5%、「①他の自治会」が41.4%などとなっている。

新たに連携したい団体は、「⑱今後新たに連携する予定はない」が5.9%と最も多く、次いで「①他の自治会」が4.2%、「⑭NPO、ボランティア団体」が3.8%などとなっている。

図表 19 既に連携している団体と新たに連携したい団体〔複数回答〕



## ②他団体と連携した取組事例（問16）

他団体と連携した取組として、次のような取組事例があげられた。

図表 20 他団体と連携した取組事例

連携先	連携内容（例）
他の自治会	花見、七夕、夏まつり、運動会、文化祭、クリスマス、もちつき大会、とんどまつり、地域のまつり、広域共通イベントの企画・実施、ふれまち給食、ラジオ体操、グラウンドゴルフ、旅行、地域猫問題、公園管理、一斉清掃、河川清掃、池の管理、鳥獣被害対策、資源回収、クリーンステーションの共同運営、不法投棄対策、コミュニティバスの運行、バス路線の新設促進、放置自転車対策、下校時の見守り、防犯パトロール、防犯カメラの設置、年末夜警、防災訓練、防災リーダー研修、災害時用井戸掘削の費用支出、開発に対する意見集約、道路工事の説明会、町内の要望事項の検討、行事の周知、自治会館の運営管理
婦人会	祭り、盆踊り、ふれあい喫茶、健康ウォーク、子供の見守り、地域清掃、公園清掃、自治会館内と周辺の清掃、福祉センターの清掃、資源ごみの回収、募金
ふれまち協	夏祭り、盆踊り、敬老会、文化祭、もちつき大会、ラジオ体操、バーベキュー大会、グラウンドゴルフ大会、子供みこしの助成、健康講演会、福祉講座、ふれあい喫茶、防犯パトロール、防災訓練、防災空地の設置、市民防災リーダー研修、公園管理、地域福祉センターの清掃、まち歩き、まちづくり計画の策定
まちづくり協議会	盆踊り、敬老会、演芸会、地域清掃、商店会のイベントへの参加、防災訓練、まちづくり構想づくり、新築マンション等の着工前協議
防災福祉コミュニティ	防犯パトロール、防災訓練、市民防災リーダー研修、ハザードマップの説明会
青少年育成協議会	盆踊り、夜店、ラジオ体操、こどもキャンプ、ゲームフェスティバル、コンサート、子ども学習会、小学校を中心とした催し物の実施、パトロール、防災訓練、交通指導、トライやるウィーク
老人クラブ	地蔵盆、グラウンドゴルフ、バス旅行、誕生会、輪投げ、カフェ、子どもの見守り、資源回収、公園清掃、災害時要援護者の支援体制づくり
子ども会	運動会、ハロウィン、もちつき大会、ラジオ体操、生物観察会（身近な生物とのふれあい）、河川清掃
P T A	夏祭り、ラジオ体操、登下校見守り、資源回収
民生・児童委員	地域の高齢者の近況報告、独居高齢者への訪問
社協、福祉施設等	ふれあい喫茶、認知症に対する取り組み、認知症防止講習会、徘徊する高齢者への対応
学校	ふれあいランチ、昔の暮らし体験学習への参画、生徒達と農業体験（田植、稲刈）、子供たちの登下校の見守り、清掃活動、地域パトロール、防災訓練通学路の安全点検、着任した校長に町内や公園などを案内
公民館、児童館等	ハロウィン、文化祭、児童の保育
N P O 等	夏まつり、冬まつり、健康体操、朝活こども体操、小学生の通学の見守り活動、地域清掃活動、耕作放棄地の再生、防災教室
事業者・商店	グラウンドゴルフ大会、河川の草刈り、地域清掃活動、消防訓練、協賛金

③ 他団体と連携して実現したいこと（アイデア）（問 17）

他団体と今後連携して実現したいこと（アイデア）として次のような回答があげられた。

図表 21 他団体と連携して実現したいこと(アイデア)

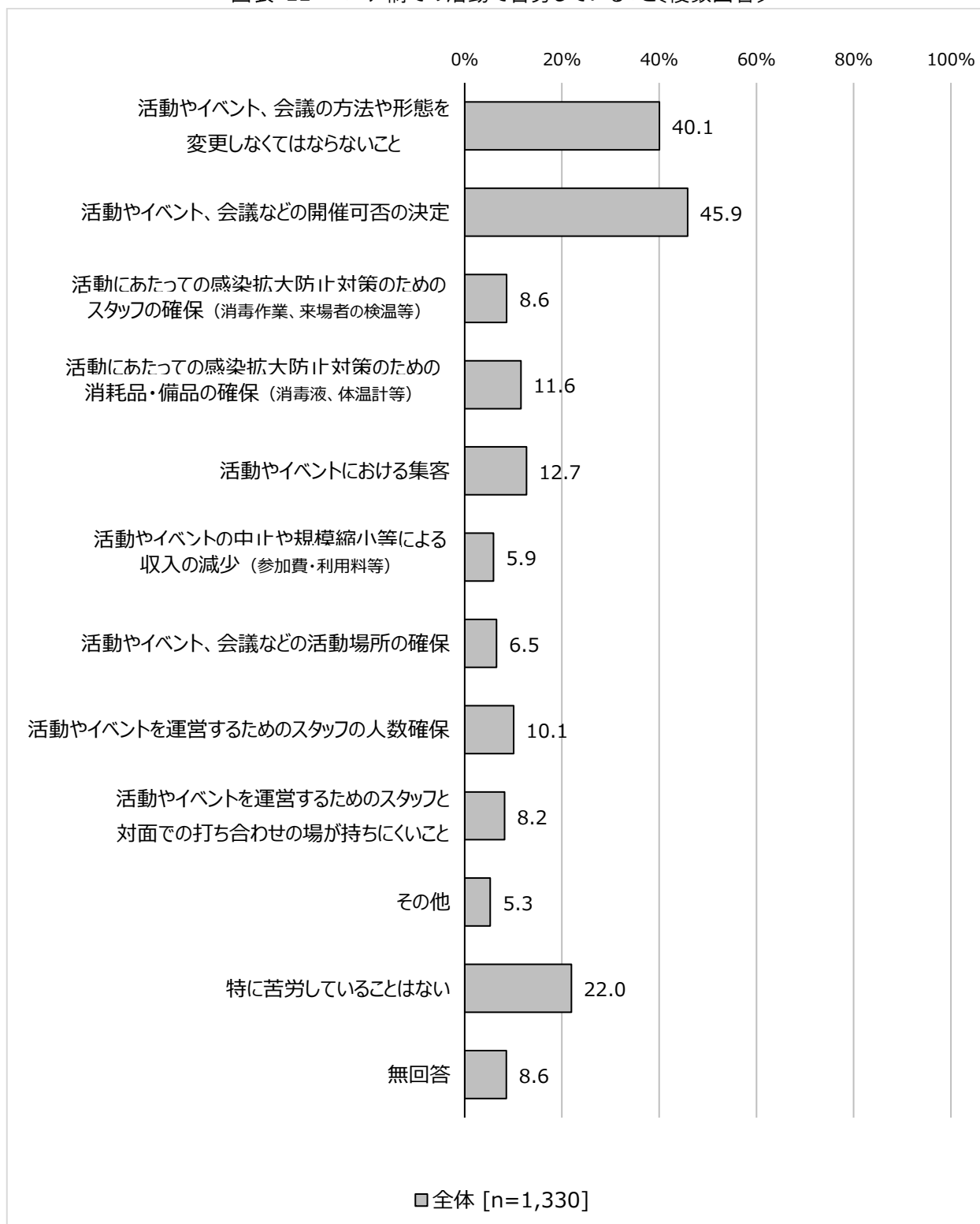
連携したい相手	連携して実現したいこと（アイデア）（例）
他の自治会	祭りの共同運営、もちつきの共同作業、子どもが参加できる行事、地区内主要道路の整備(快適な歩行の向上)、コミュニティーゾーンの具現化、情報交換（活動内容等）
婦人会	夏まつり、小旅行、資源回収
ふれまち協	盆踊り、運動会、気軽に集まり世間話ができるお茶会、ふれあい喫茶、1人暮らしの方の見守り、グラウンドゴルフ、ソフトボール大会、公共施設の見学、パソコン講習会、自転車マナーの向上、防災訓練、日帰り研修
防災福祉コミュニティ	防災訓練、地域のことについての意見交換
青少年育成協議会	イベントのお手伝い
老人クラブ	独居高齢者を見守り、ICT講習会
子ども会	子どもといっしょにごみ拾い、防災・防犯に関する取組
P T A	自治会イベントへの参加要請
民生・児童委員	高齢者を見守る「向こう3軒両隣活動」
社協、福祉施設等	高齢者を見守る「向こう3軒両隣活動」、見守り活動の充実、認知症、ひきこもりの予防、農福連携事業、地域介護のビジョン作成
N P O 等	イベントの開催協力、イベントの参加者募集でのオンライン活用、防災訓練の指導、野菜づくり、外国人居住者・会員とのコミュニケーションプラン、外国人との交流・相互理解、自主防災学習会、まち歩き学習会
事業者・商店街	盆踊り、地蔵盆、ものづくり体験、さつまいもの栽培
団体に参加していない個人	インターネットでの事務、イベントの画像記録

## (6) 活動を進めていくための課題

### ① コロナ禍での活動で苦労していること（問 10）

コロナ禍での活動で苦労していることは、「活動やイベント、会議などの開催可否の決定」が45.9%と最も多く、次いで「活動やイベント、会議の方法や形態を変更しなくてはならないこと」が40.1%、「特に苦労していることはない」が22.0%などとなっている。

図表 22 コロナ禍での活動で苦労していること〔複数回答〕

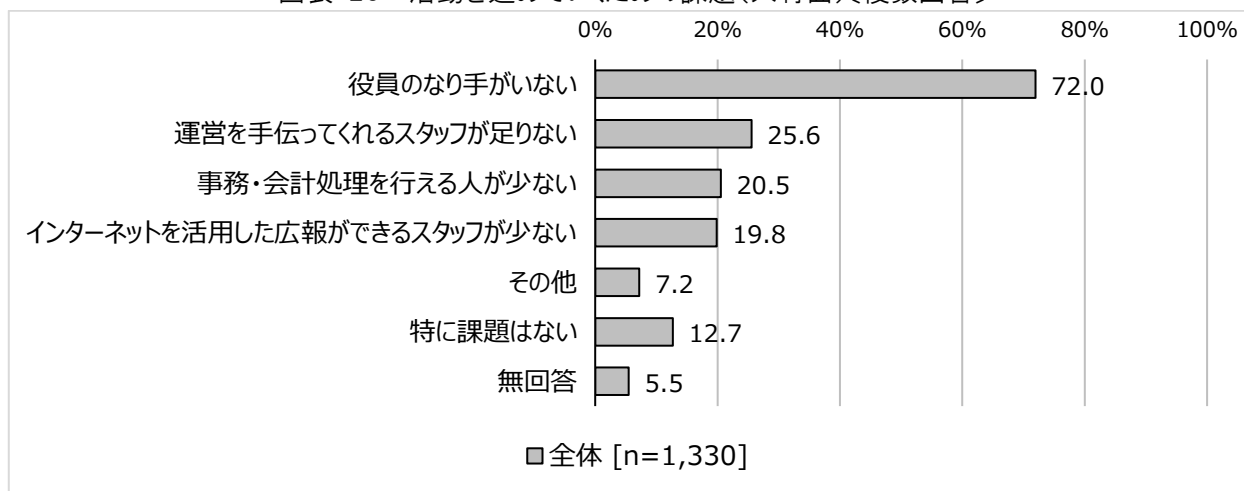




## ②活動を進めていくための課題（人材面）（問 14①）

活動を進めていくための課題（人材面）は、「役員のなり手がいない」が72.0%と最も多く、次いで「運営を手伝ってくれるスタッフが足りない」が25.6%、「事務・会計処理を行える人が少ない」が20.5%などとなっている。

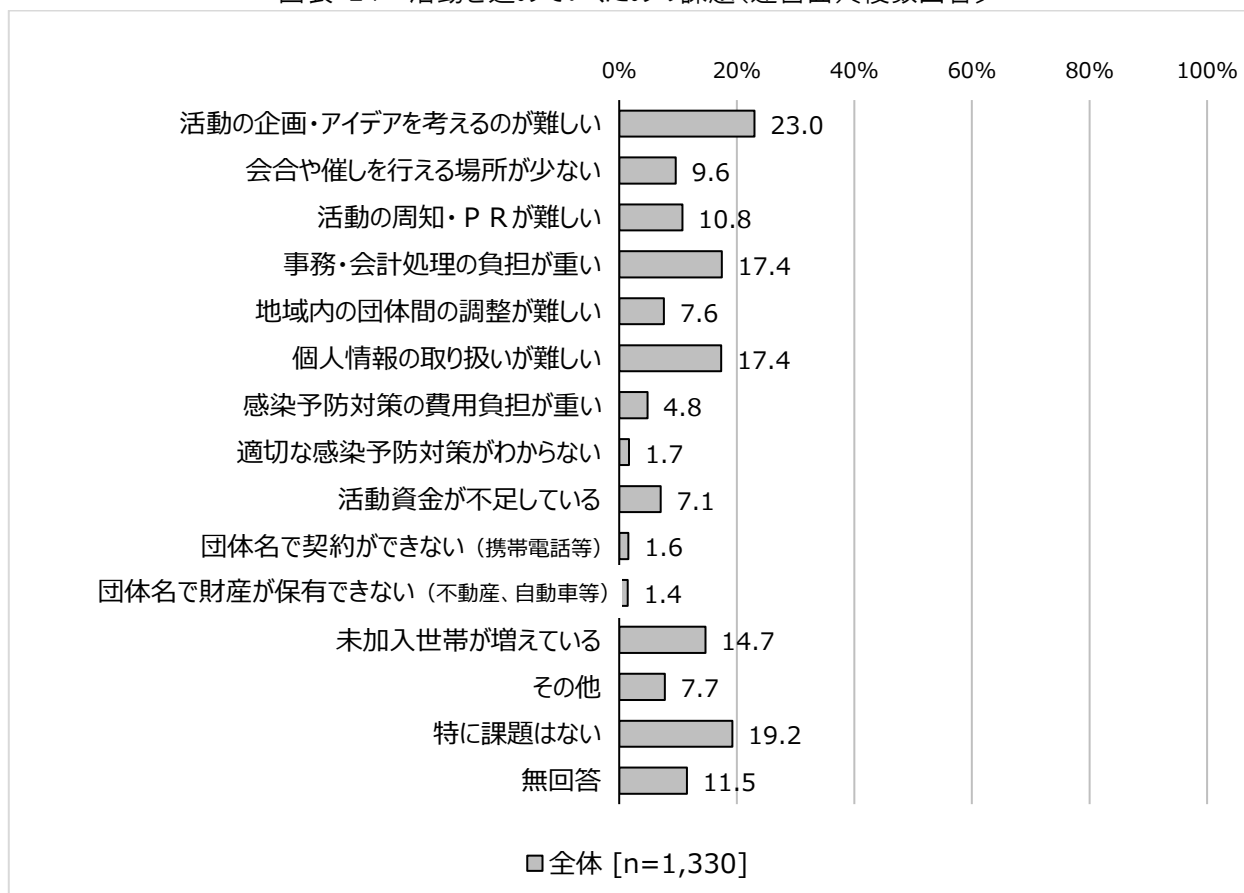
図表 23 活動を進めていくための課題（人材面）〔複数回答〕



## ③活動を進めていくための課題（運営面）（問 14②）

活動を進めていくための課題（運営面）は、「活動の企画・アイデアを考えるのが難しい」が23.0%と最も多く、次いで「特に課題はない」が19.2%、「事務・会計処理の負担が重い」と「個人情報の取り扱いが難しい」が17.4%などとなっている。

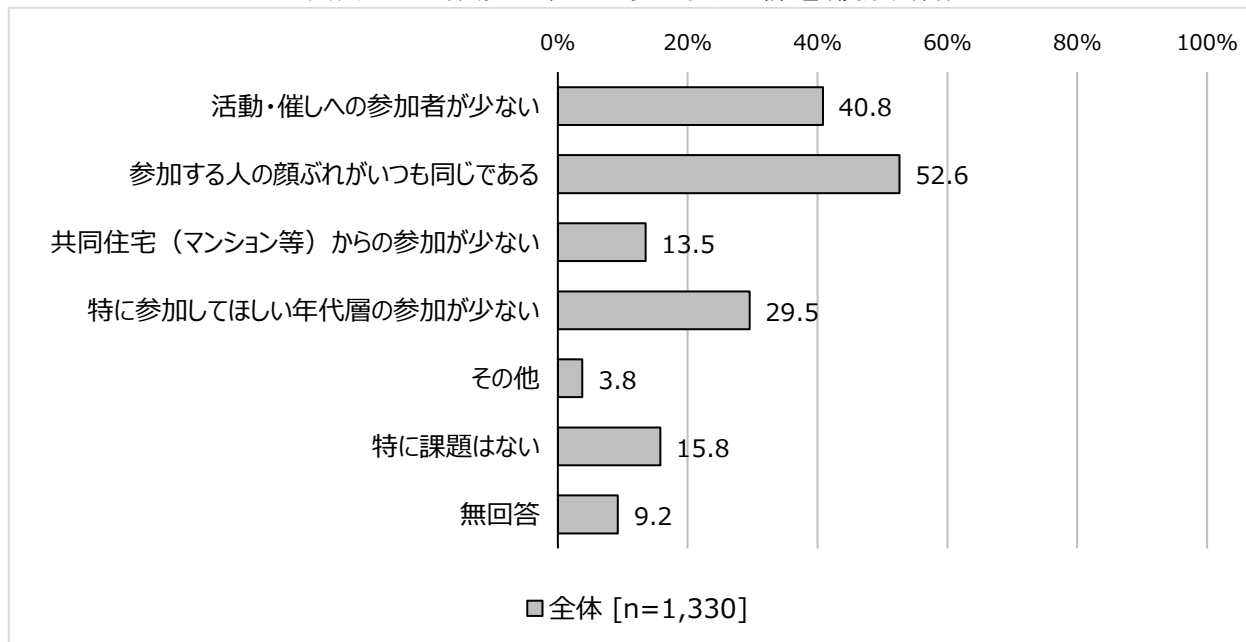
図表 24 活動を進めていくための課題（運営面）〔複数回答〕



#### ④活動への住民の参加状況の課題（問 14③）

活動への住民の参加状況の課題は、「参加する人の顔ぶれがいつも同じである」が52.6%と最も多く、次いで「活動・催しへの参加者が少ない」が40.8%、「特に参加してほしい年代層の参加が少ない」が29.5%などとなっている。

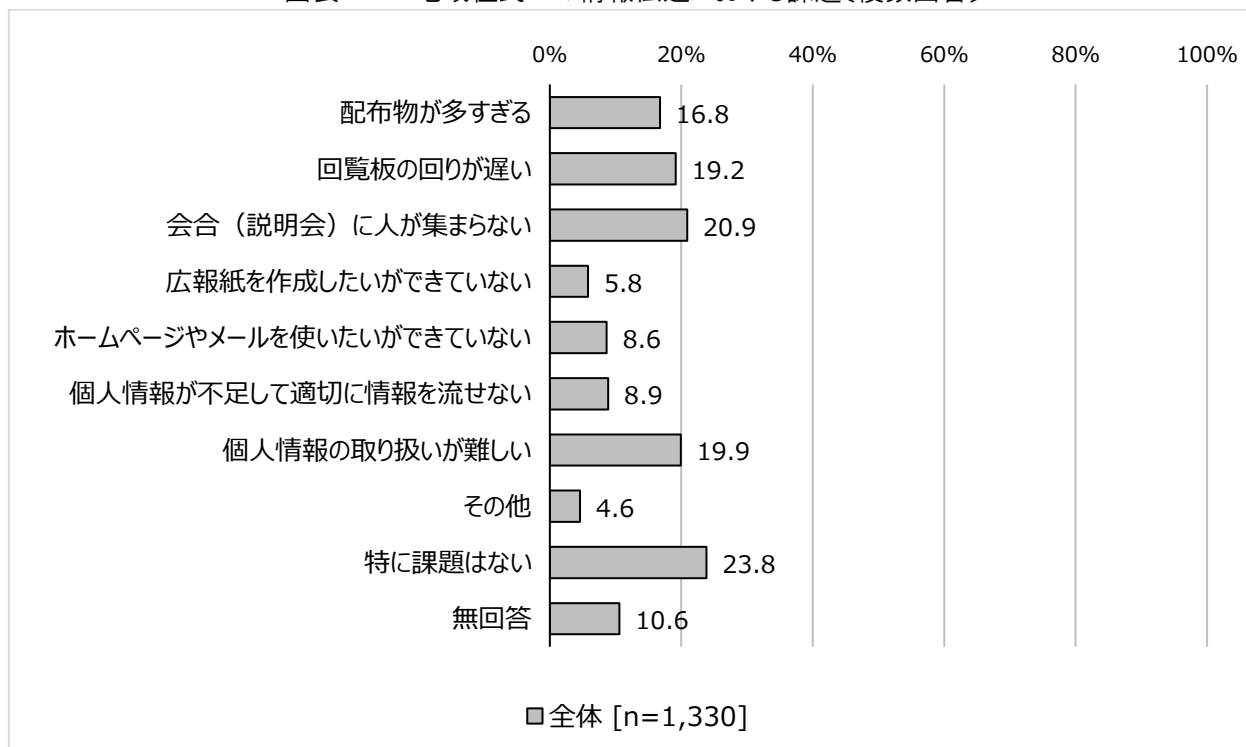
図表 25 活動への住民の参加状況の課題〔複数回答〕



#### ⑤ 地域住民への情報伝達における課題（問 14④）

地域住民への情報伝達における課題は、「特に課題はない」が23.8%と最も多く、次いで「会合（説明会）に人が集まらない」が20.9%、「個人情報の取り扱いが難しい」が19.9%などとなっている。

図表 26 地域住民への情報伝達における課題〔複数回答〕

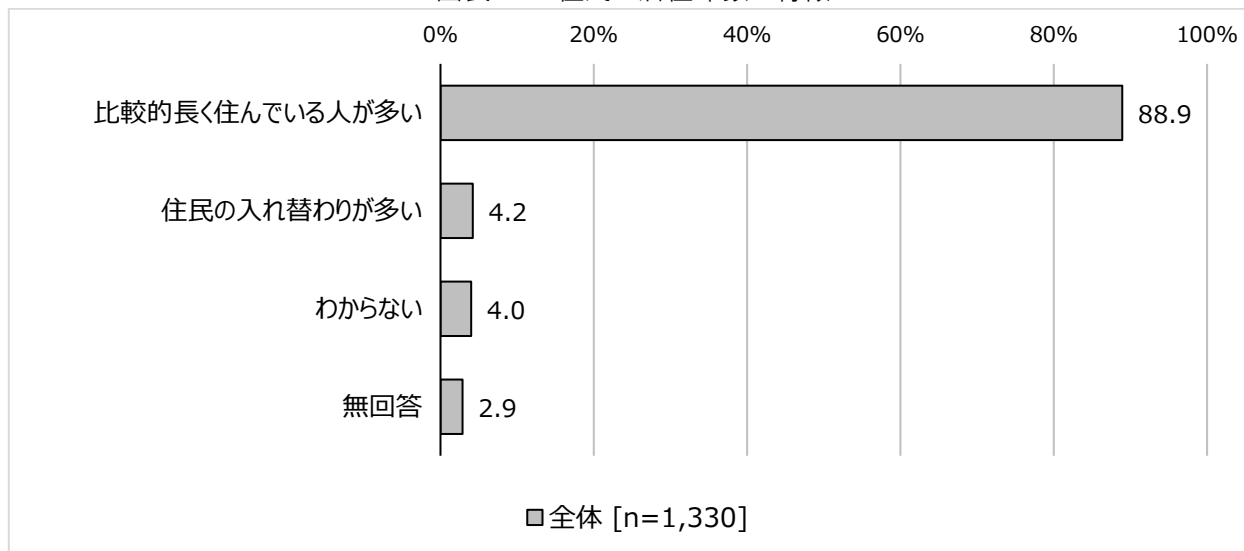


## (7) 団体が活動している地域の状況等

### ①住民の居住年数の特徴（問 19①）

住民の居住年数の特徴は、「比較的長く住んでいる人が多い」が88.9%と最も多くなっている。

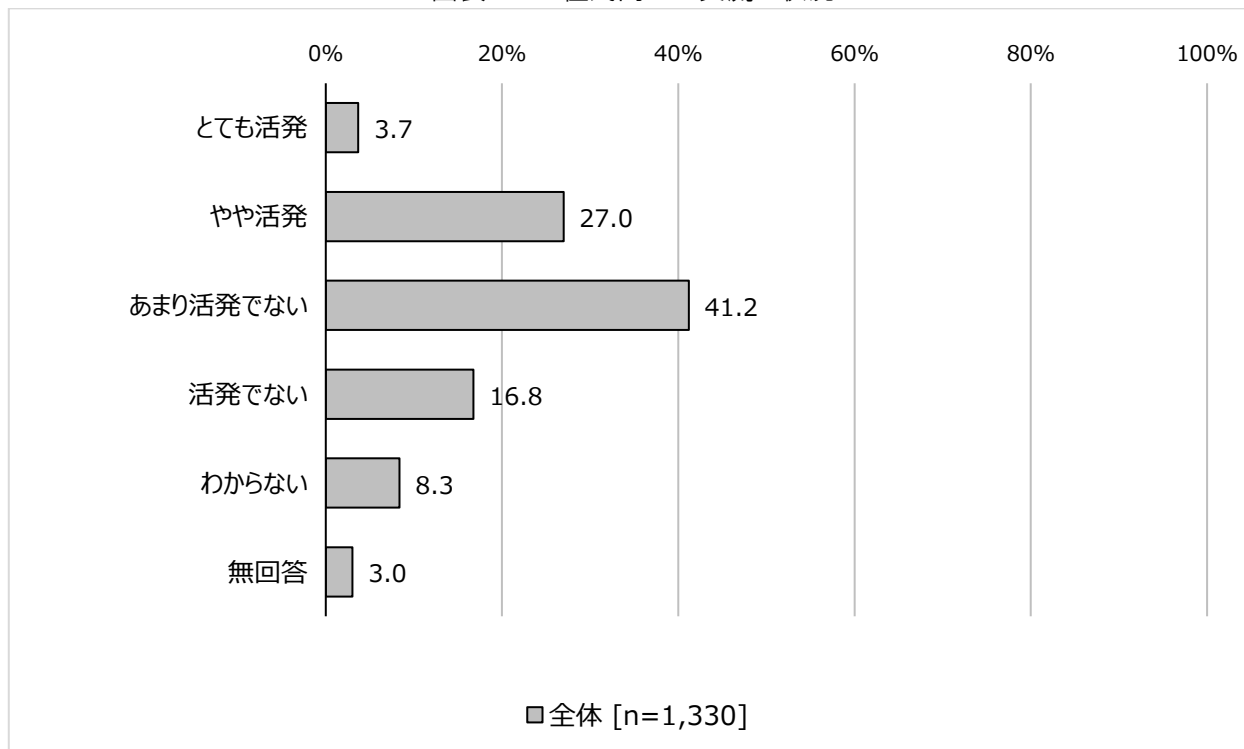
図表 27 住民の居住年数の特徴



### ②住民同士の交流の状況（問 19②）

住民同士の交流の状況は、「あまり活発でない」が41.2%と最も多く、次いで「やや活発」が27.0%、「活発でない」が16.8%などとなっている。

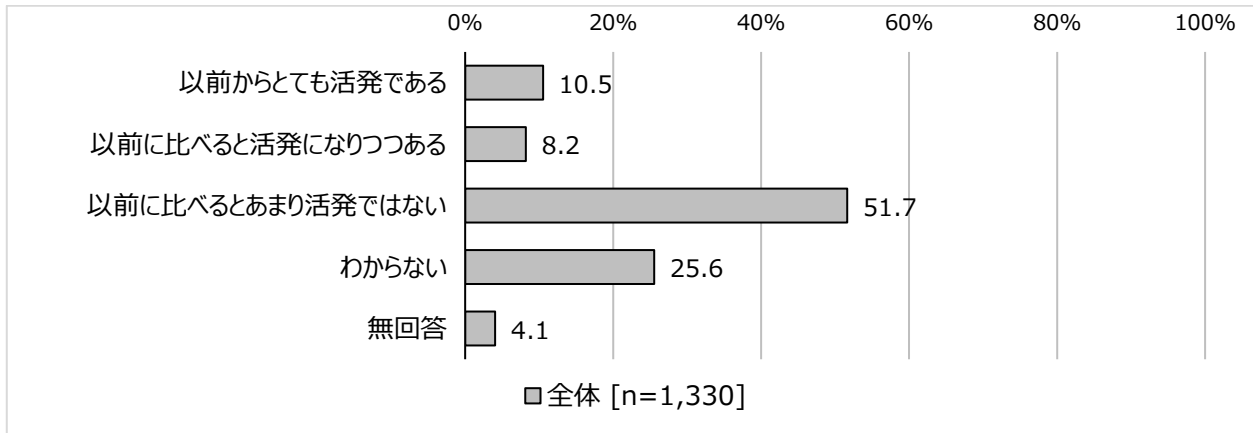
図表 28 住民同士の交流の状況



### ③住民による地域活動の活発さの状況（問 20）

住民による地域活動の活発さの状況は、「以前に比べるとあまり活発ではない」が51.7%と最も多く、次いで「わからない」が25.4%、「以前からとても活発である」が10.5%などとなっている。

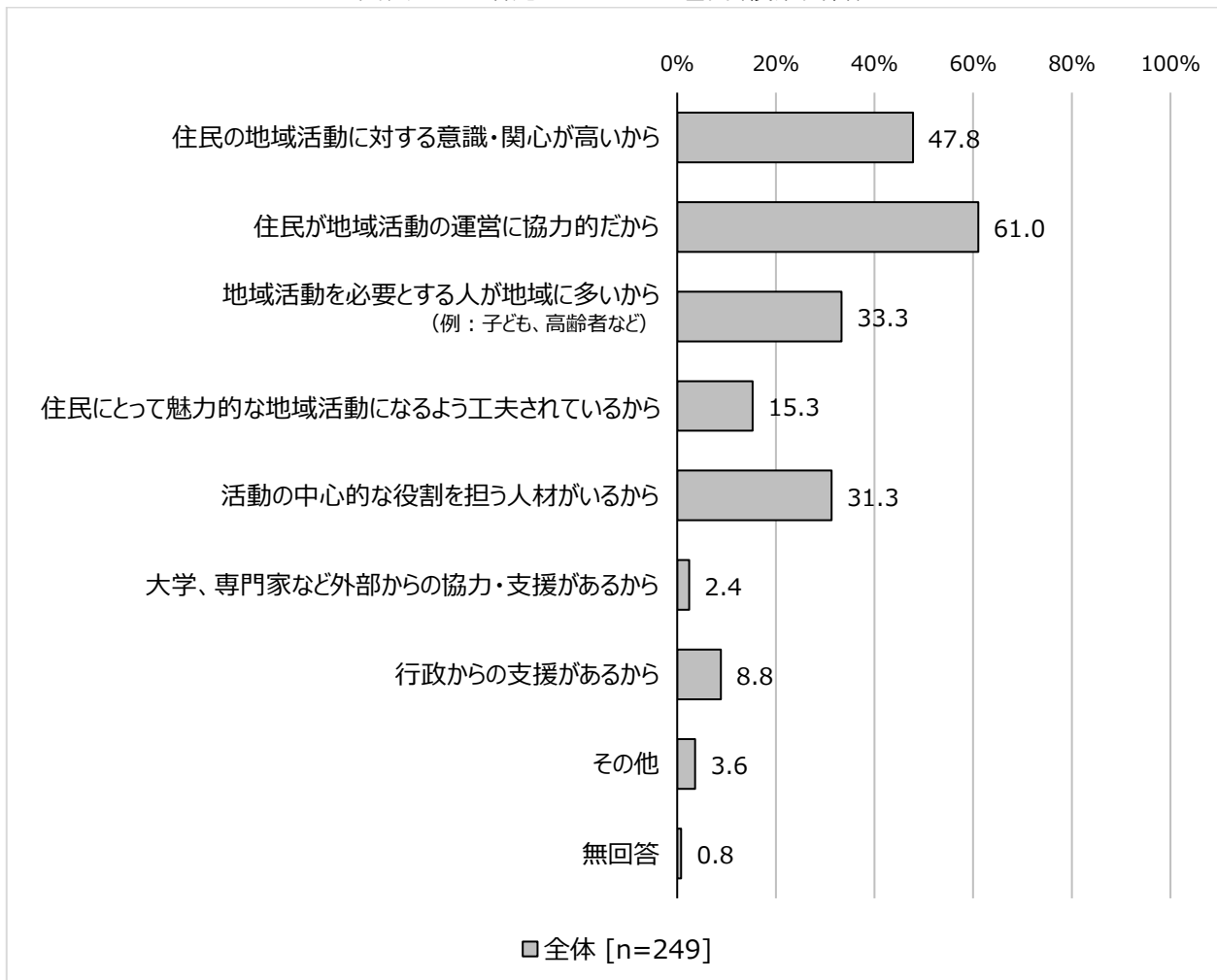
図表 29 住民による地域活動の活発さの状況



### ④活発になっている理由（問 21）

活発になっている理由は、「住民が地域活動の運営に協力的だから」が61.0%と最も多く、次いで、「住民の地域活動に対する意識・関心が高いから」が47.8%、「地域活動を必要とする人が地域に多いから（例：子ども、高齢者など）」が33.3%などとなっている。

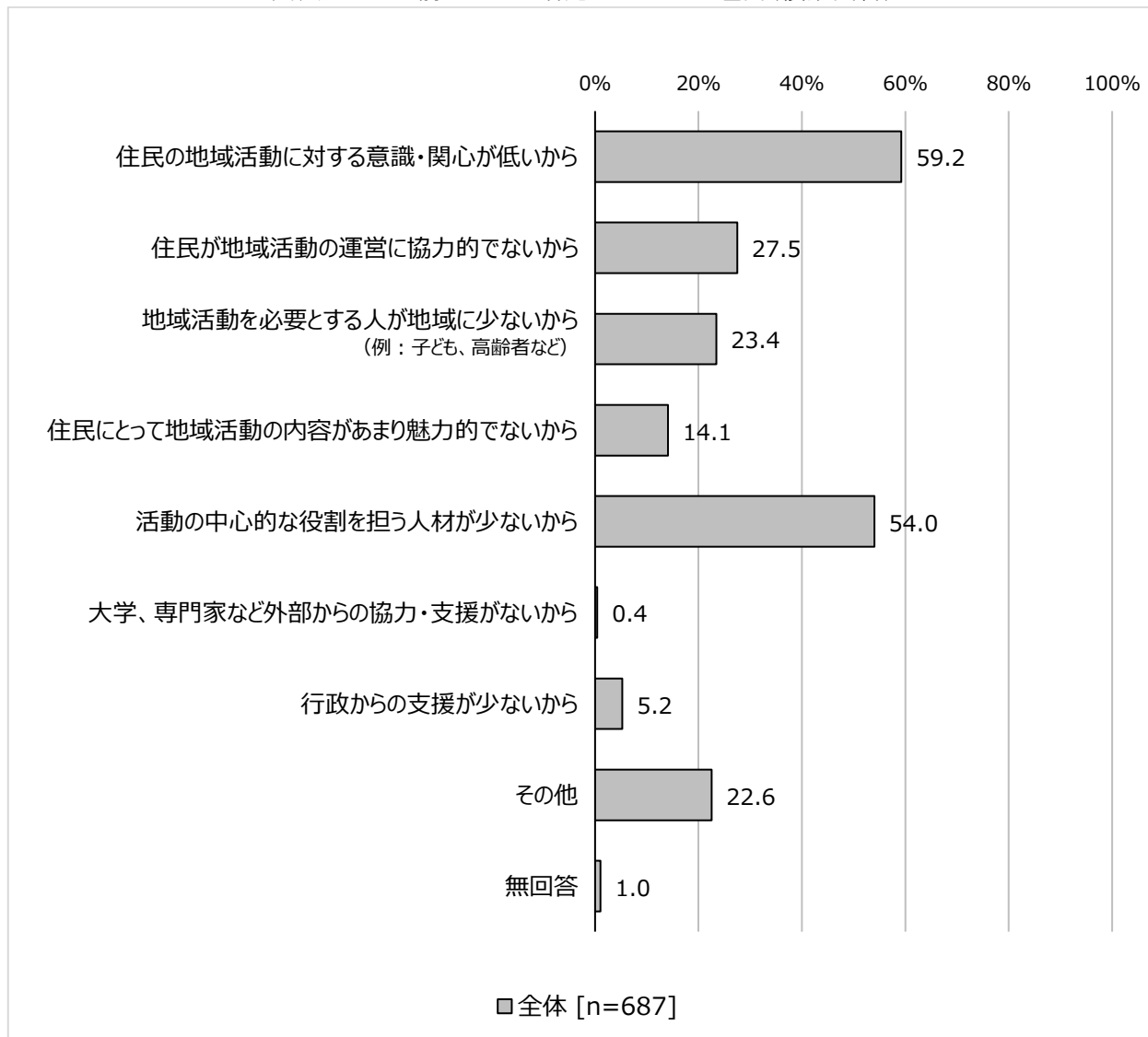
図表 30 活発になっている理由〔複数回答〕



### ⑤以前に比べて活発でなくなった理由（問 22）

以前に比べて活発でなくなった理由は、「住民の地域活動に対する意識・関心が低いから」が59.2%と最も多く、次いで「活動の中心的な役割を担う人材が少ないから」が54.0%、「住民が地域活動の運営に協力的でないから」が27.5%などとなっている。

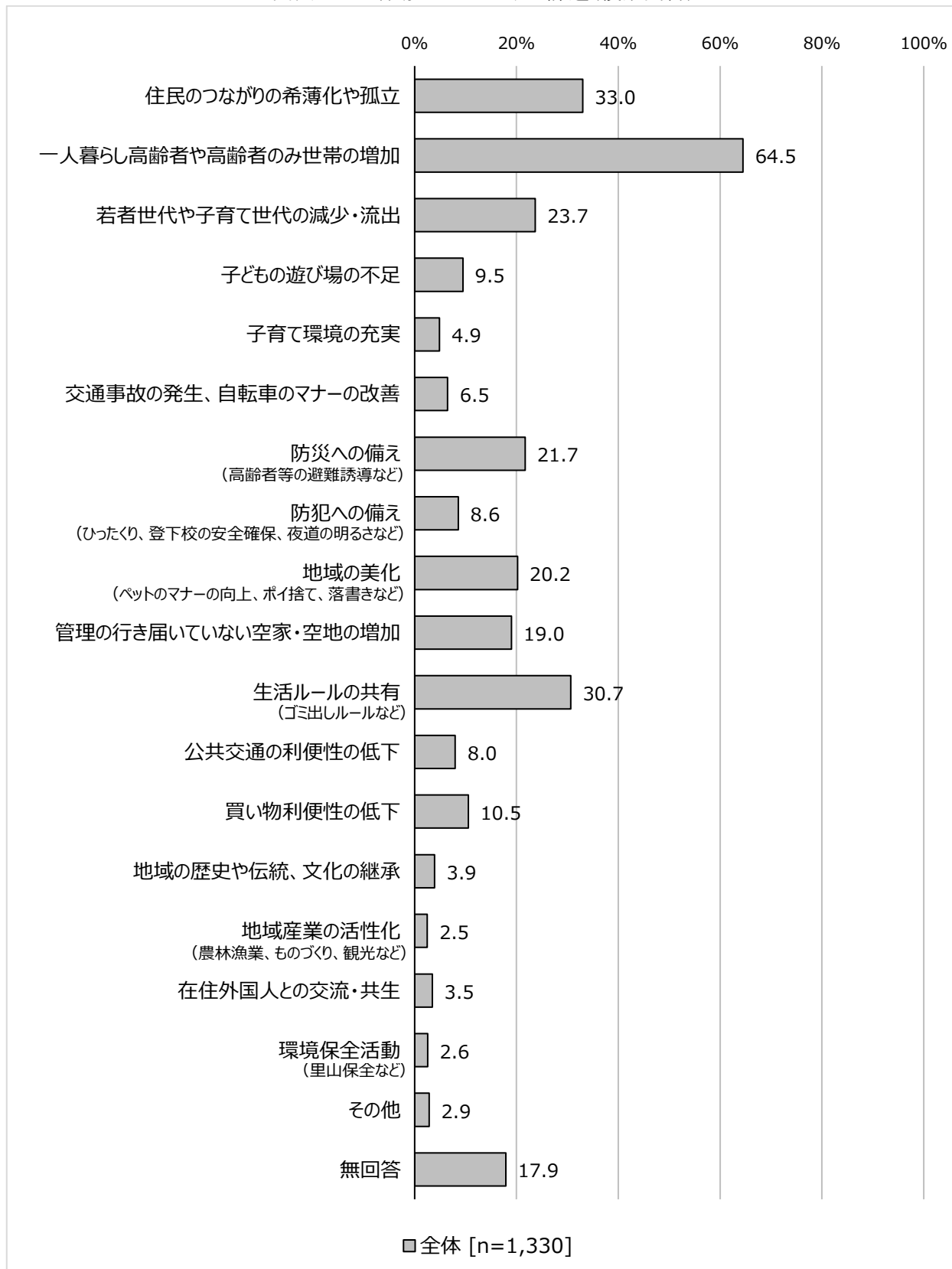
図表 31 以前に比べて活発でなくなった理由〔複数回答〕



## ⑥活動している地域の課題（問 23）

活動している地域の課題は、「一人暮らし高齢者や高齢者のみ世帯の増加」が64.5%と最も多く、次いで「住民のつながりの希薄化や孤立」が33.0%、「生活ルールの共有（ゴミ出しルールなど）」が30.7%などとなっている。

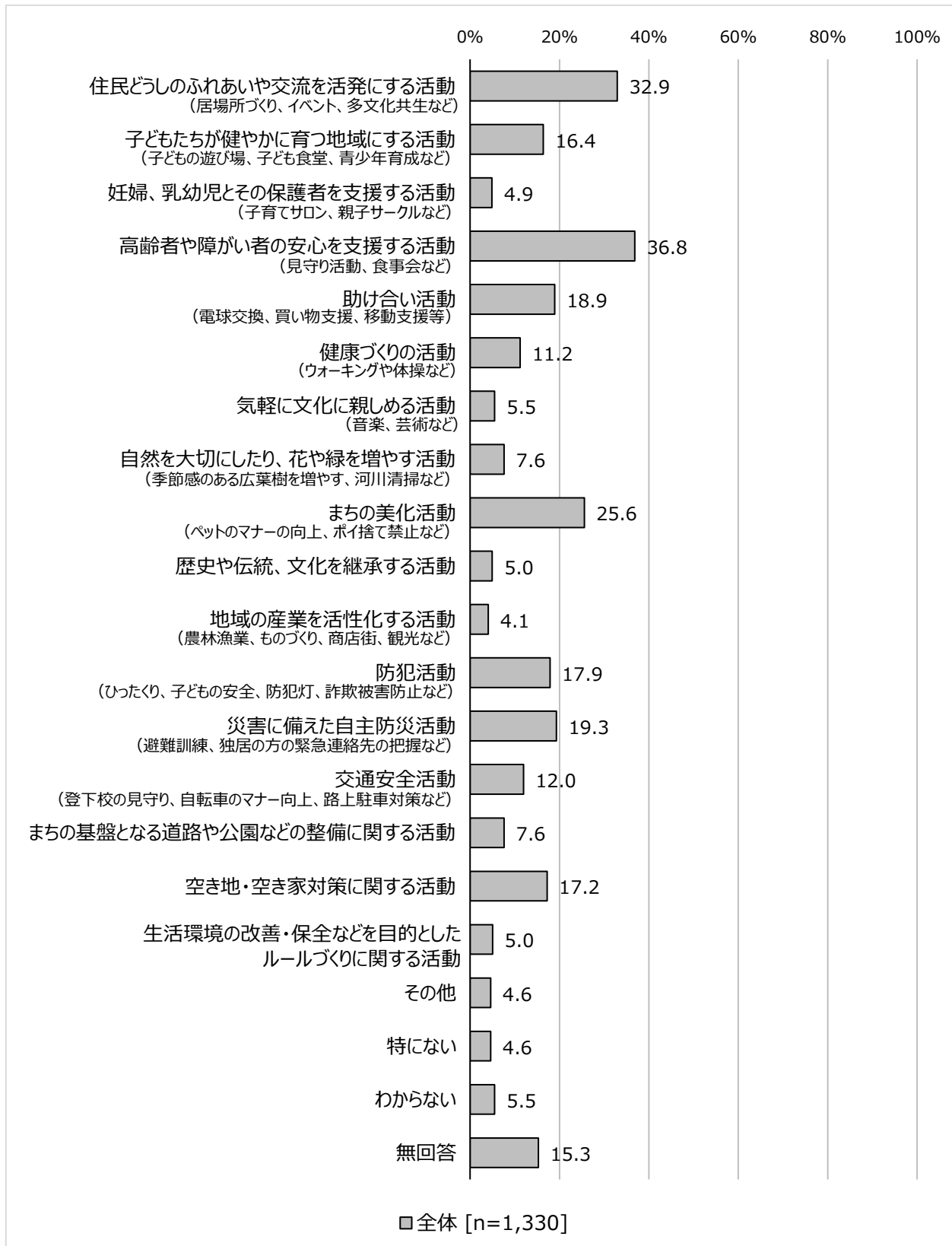
図表 32 活動している地域の課題〔複数回答〕



⑦ 課題解決のために今後力を入れて取り組むことが必要なこと（問 24）

課題解決のために今後力を入れて取り組むことが必要なことは、「高齢者や障がい者の安心を支援する活動（見守り活動、食事会など）」が36.8%と最も多く、次いで「住民どうしのふれあいや交流を活発にする活動（居場所づくり、イベント、多文化共生など）」が32.9%、「まちの美化活動（ペットのマナーの向上、ポイ捨て禁止など）」が25.6%などとなっている。

図表 33 課題解決のために今後力を入れて取り組むことが必要なこと〔複数回答〕

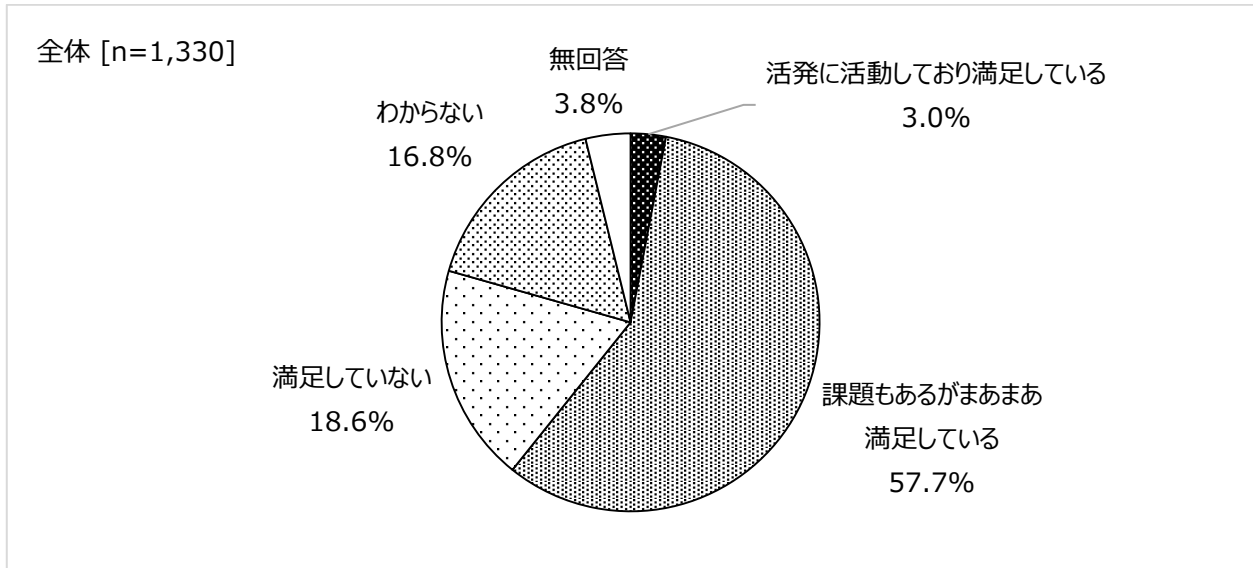


## (8) 今後の活動に向けて

### ①活動の現状についての満足度（問 25）

活動の現状についての満足度は、「課題もあるがまあまあ満足している」が57.7%と最も多く、次いで「満足していない」が18.6%、「わからない」が16.8%などとなっている。

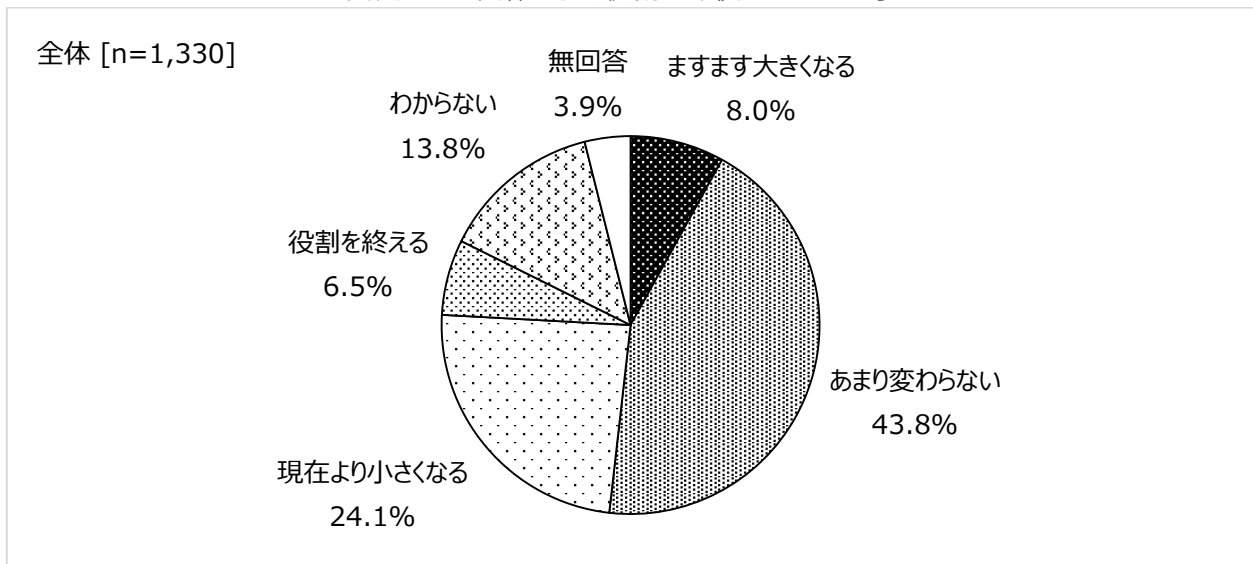
図表 34 活動の現状についての満足度



### ②団体が担う役割の今後についての考え（問 26）

団体が担う役割の今後についての考えは、「あまり変わらない」が43.8%と最も多く、次いで「現在より小さくなる」が24.1%、「わからない」が13.8%などとなっている。

図表 35 団体が担う役割の今後についての考え

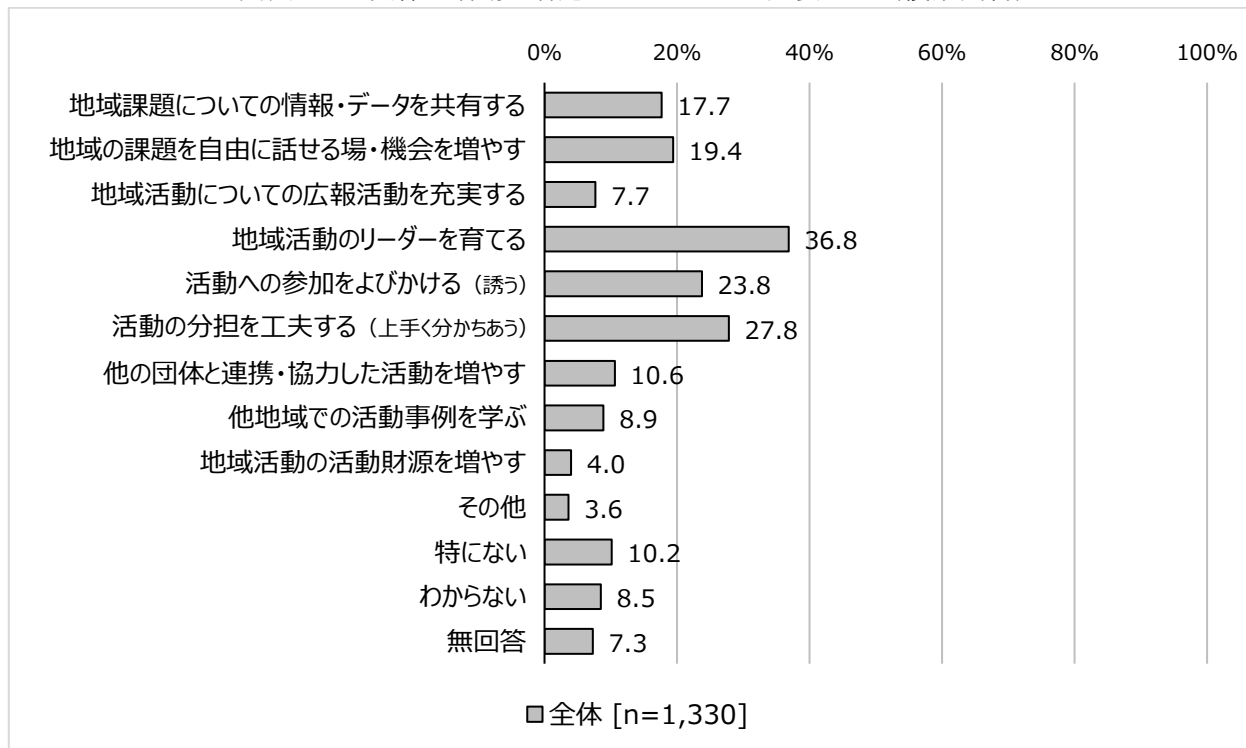




#### ④団体の活動を活発にしていくために必要なこと（問 27）

団体の活動を活発にしていくために必要なことは、「地域活動のリーダーを育てる」が36.8%と最も多く、次いで「活動の分担を工夫する（上手く分かち合う）」が27.8%、「活動への参加をよびかける（誘う）」が23.8%などとなっている。

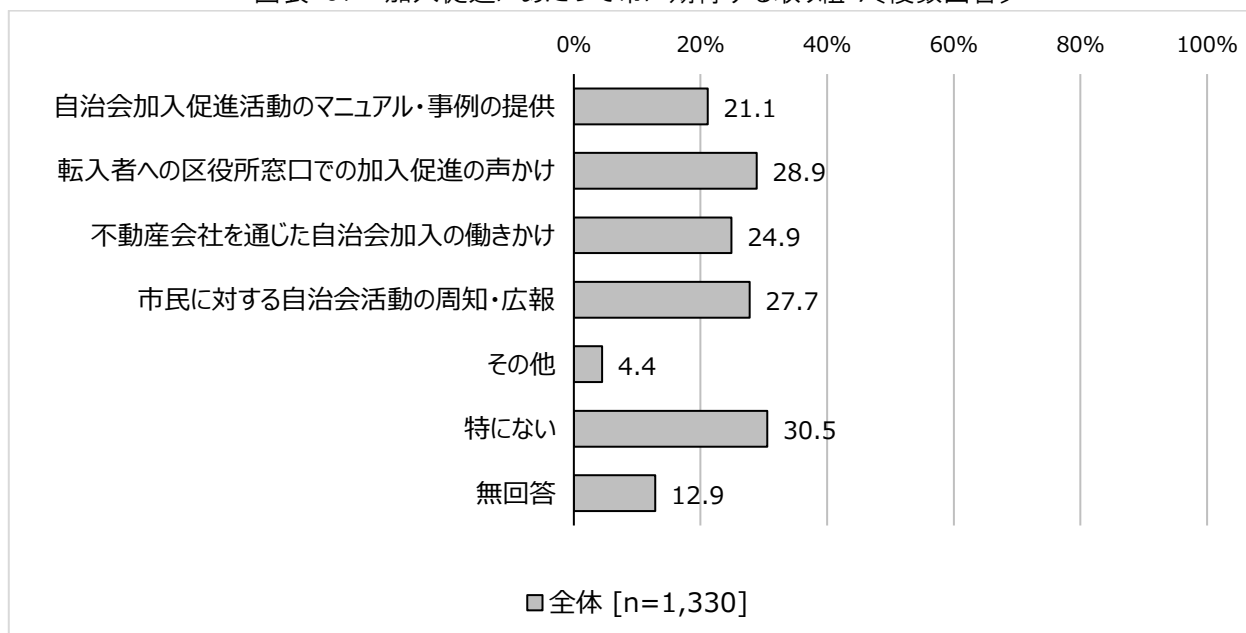
図表 36 団体の活動を活発にしていくために必要なこと〔複数回答〕



#### ⑤加入促進にあたって市に期待する取り組み（問 29）

加入促進にあたって市に期待する取り組みは、「特にない」が30.5%と最も多く、次いで「転入者への区役所窓口での加入促進の声かけ」が28.9%、「市民に対する自治会活動の周知・広報」が27.7%などとなっている。

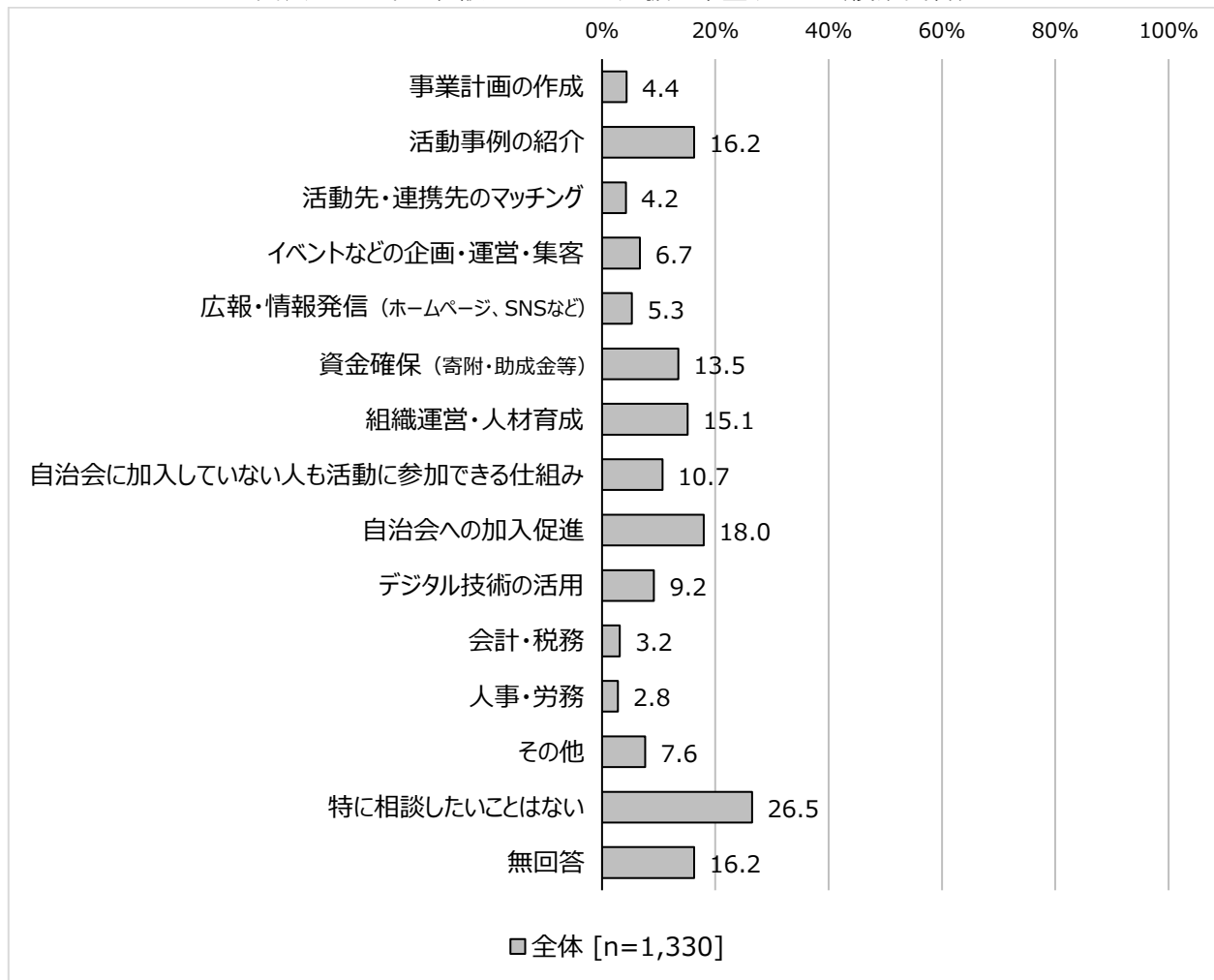
図表 37 加入促進にあたって市に期待する取り組み〔複数回答〕



## ⑥ 市に相談したいことや支援を希望すること（問 30）

市に相談したいことや支援を希望することは、「特に相談したいことはない」が26.5%と最も多く、次いで、「自治会への加入促進」が18.0%、「活動事例の紹介」が16.2%などとなっている。

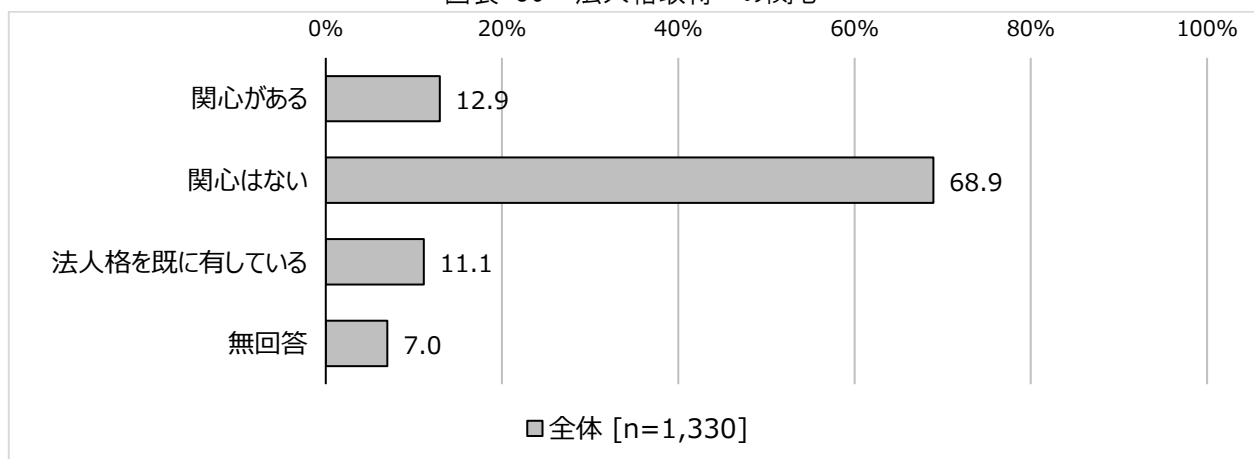
図表 38 市に相談したいことや支援を希望すること〔複数回答〕



## ⑦ 法人格取得への関心（問 31）

法人格取得への関心は、「関心はない」が68.9%と最も多く、次いで、「関心がある」が12.9%、「法人格を既に有している」が11.1%となっている。

図表 39 法人格取得への関心



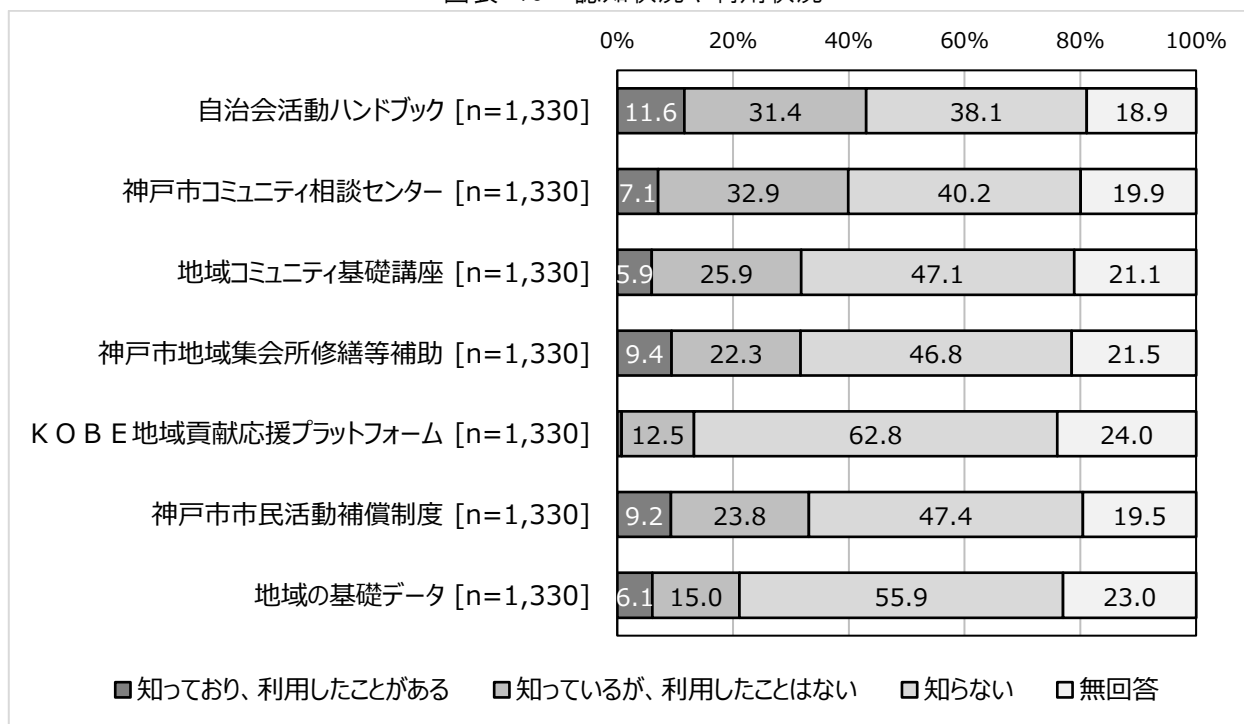
### ⑧自治会支援に関わる神戸市の取り組みの認知状況や利用状況（問 32）

自治会支援に関わる神戸市の取り組みの認知状況や利用状況は、「知っており、利用したことがある」の割合が高いのは「自治会ハンドブック」の11.6%となっている。

「知っているが、利用したことはない」の割合が高いのは「神戸市コミュニティ相談センター」の32.9%となっている。

一方、「知らない」の割合が高いのは「KOBE地域貢献応援プラットフォーム」の62.8%となっている。

図表 40 認知状況や利用状況



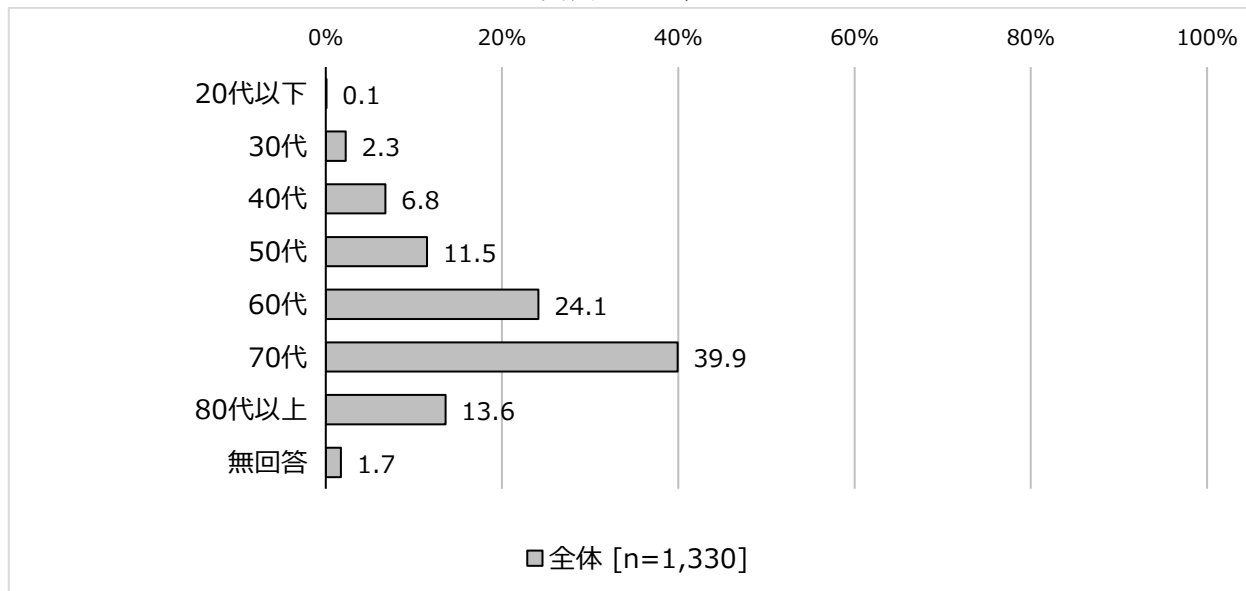
## (10) 代表の活動状況

### ①代表（回答者）の状況（問 40）

#### (ア) 年代

年代は、「70代」が39.9%と最も多く、次いで「60代」が24.1%、「80代以上」が13.6%などとなっている。

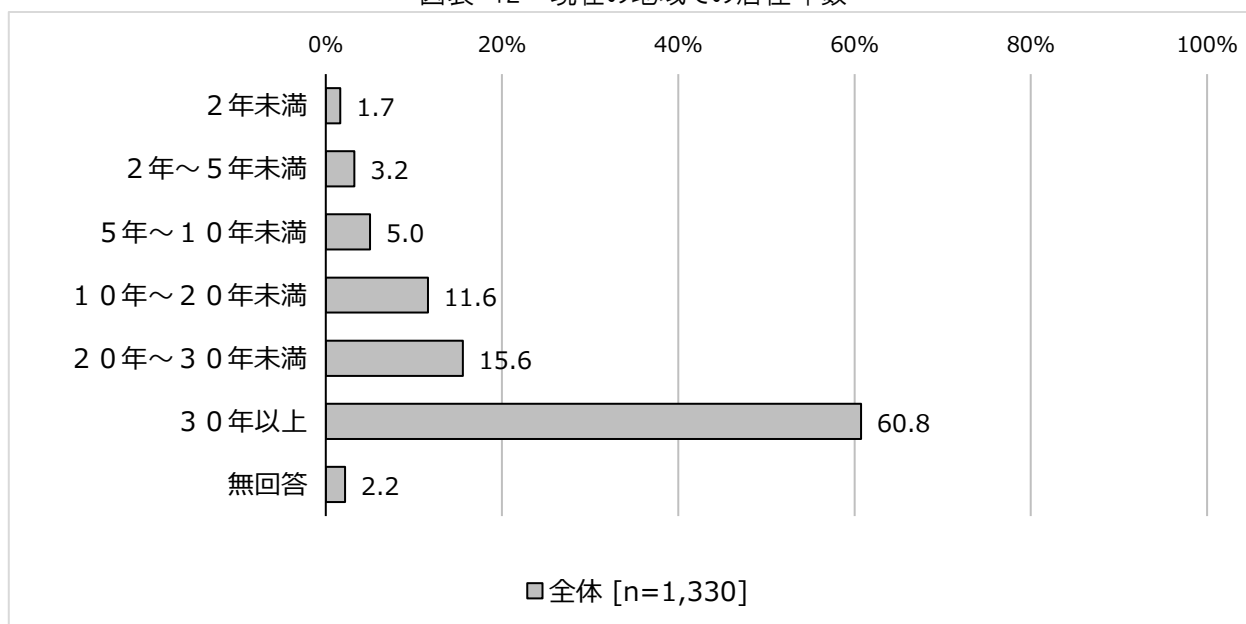
図表 41 年代



#### (イ) 現在の地域での居住年数

現在の地域での居住年数は、「30年以上」が60.8%と最も多く、次いで「20年～30年未満」が15.6%、「10年～20年未満」が11.6%などとなっている。

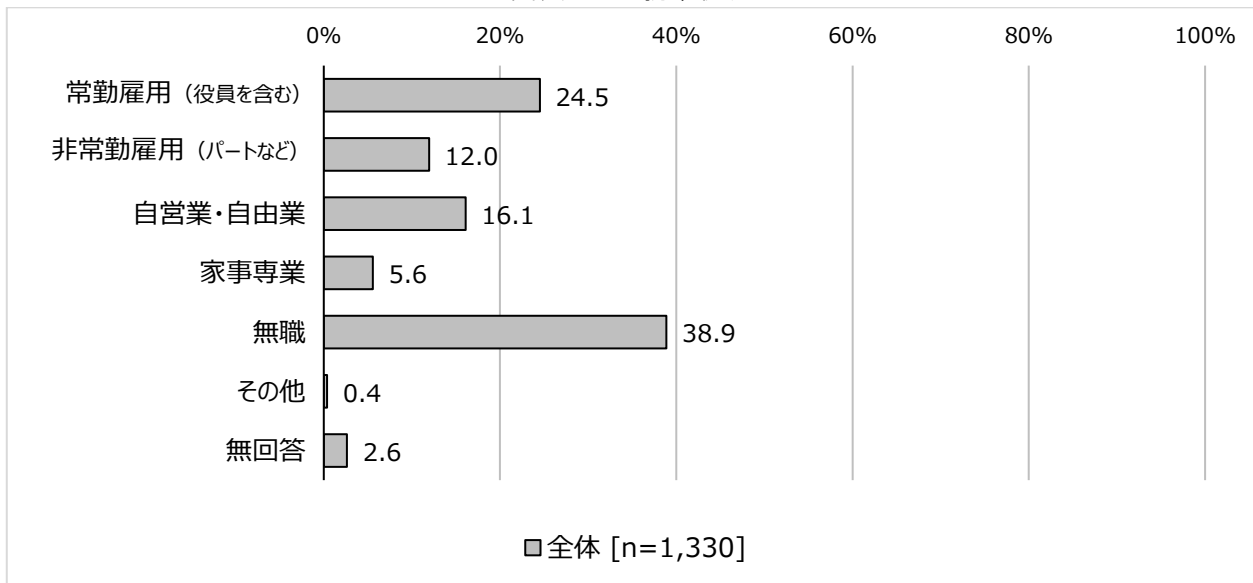
図表 42 現在の地域での居住年数



(ウ) 就業状況

就業状況は、「無職」が38.9%と最も多く、次いで「常勤雇用（役員を含む）」が24.5%、「自営業・自由業」が16.1%などとなっている。

図表 43 就業状況



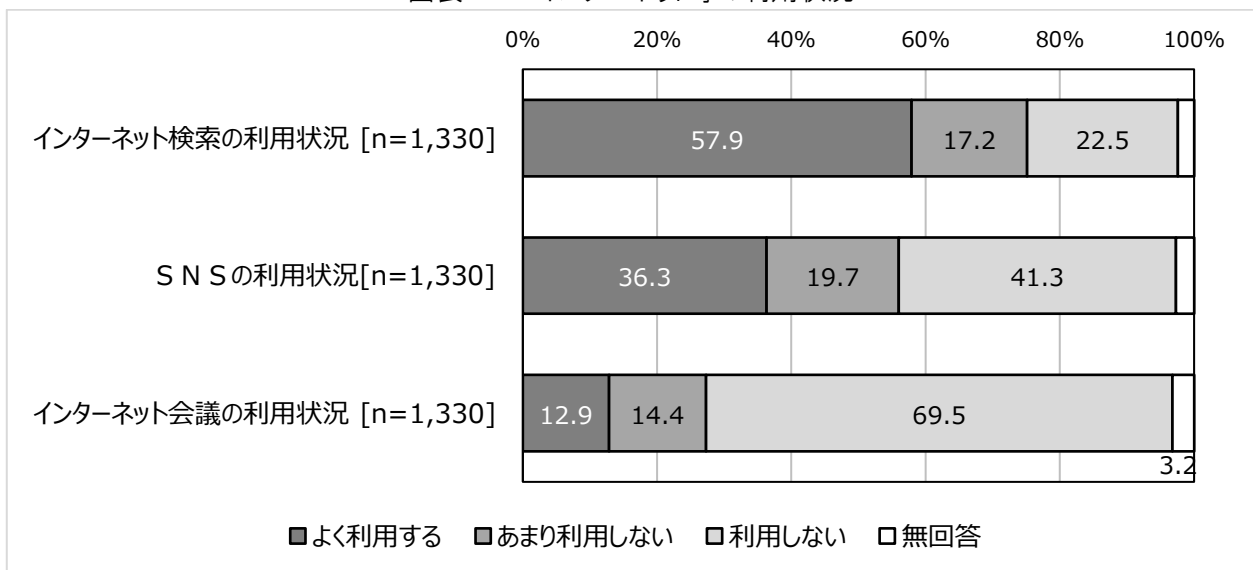
(エ) インターネット等の利用状況

インターネット検索の利用状況は、「よく利用する」が57.9%と最も多く、次いで「利用しない」が22.5%、「あまり利用しない」が17.2%となっている。

SNSの利用状況は、「利用しない」が41.3%と最も多く、次いで「よく利用する」が36.3%、「あまり利用しない」が19.7%となっている。

インターネット会議の利用状況は、「利用しない」が69.5%と最も多く、次いで「あまり利用しない」が14.4%、「よく利用する」が12.9%となっている。

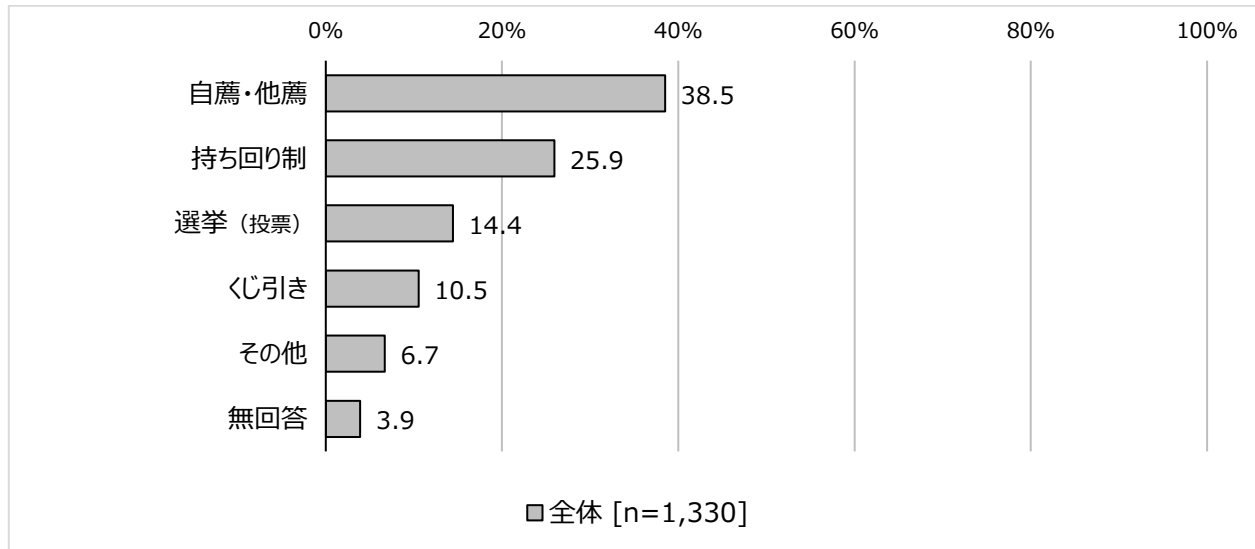
図表 44 インターネット等の利用状況



## ②代表の選出方法（問 33）

代表の選出方法は、「自薦・他薦」が38.5%と最も多く、次いで「持ち回り制」が25.9%、「選挙（投票）」が14.4%などとなっている。

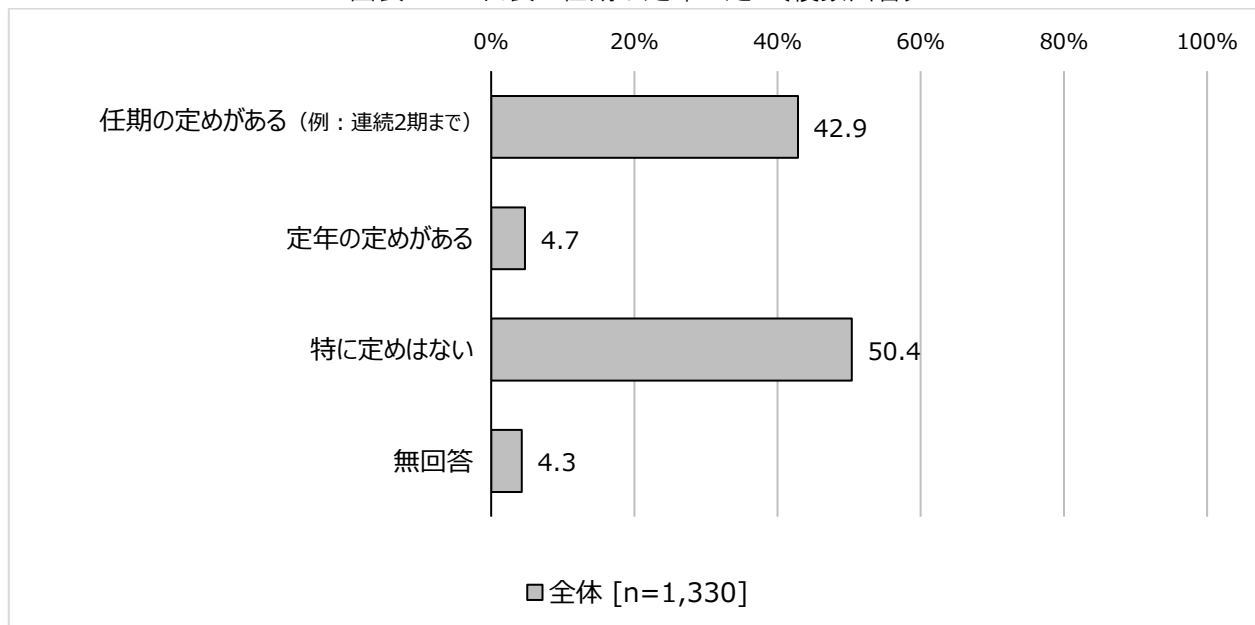
図表 45 代表の選出方法



## ③ 代表の任期や定年の定め（問 34）

代表の任期や定年の定めは、「特に定めはない」が50.4%と最も多く、次いで「任期の定めがある（例：連続2期まで）」が42.9%、「定年の定めがある」が4.7%などとなっている。

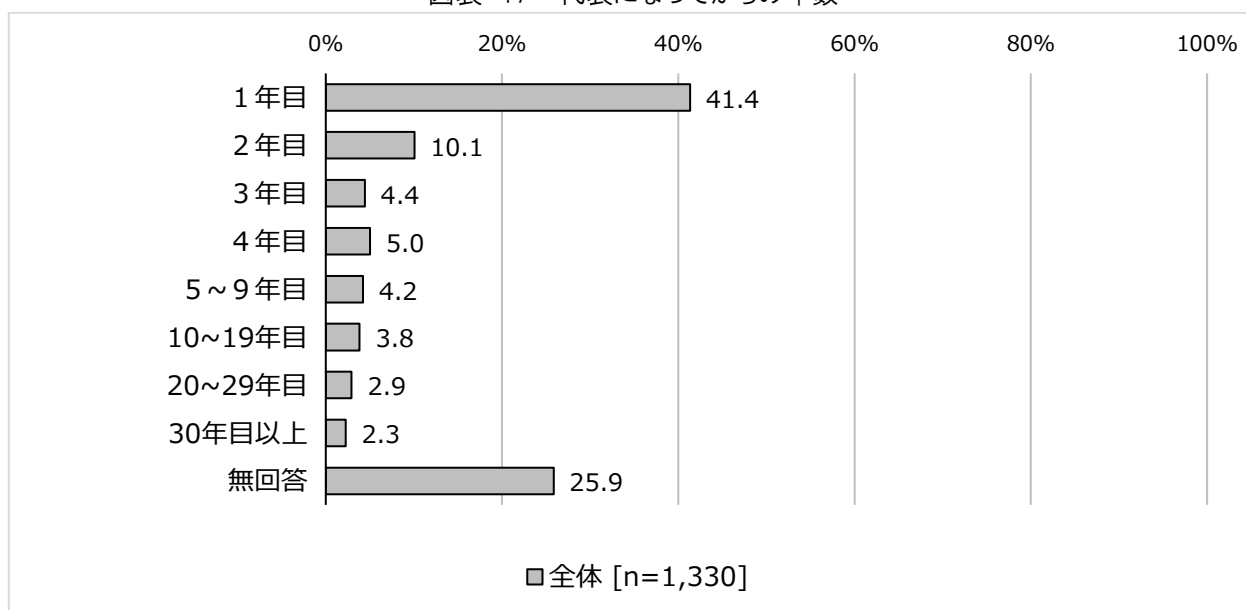
図表 46 代表の任期や定年の定め〔複数回答〕



#### ④代表になってからの年数（問 35）

代表になってからの年数は、「1年目」が41.4%と最も多く、次いで「2年目」が10.1%、「4年目」が5.0%などとなっている。

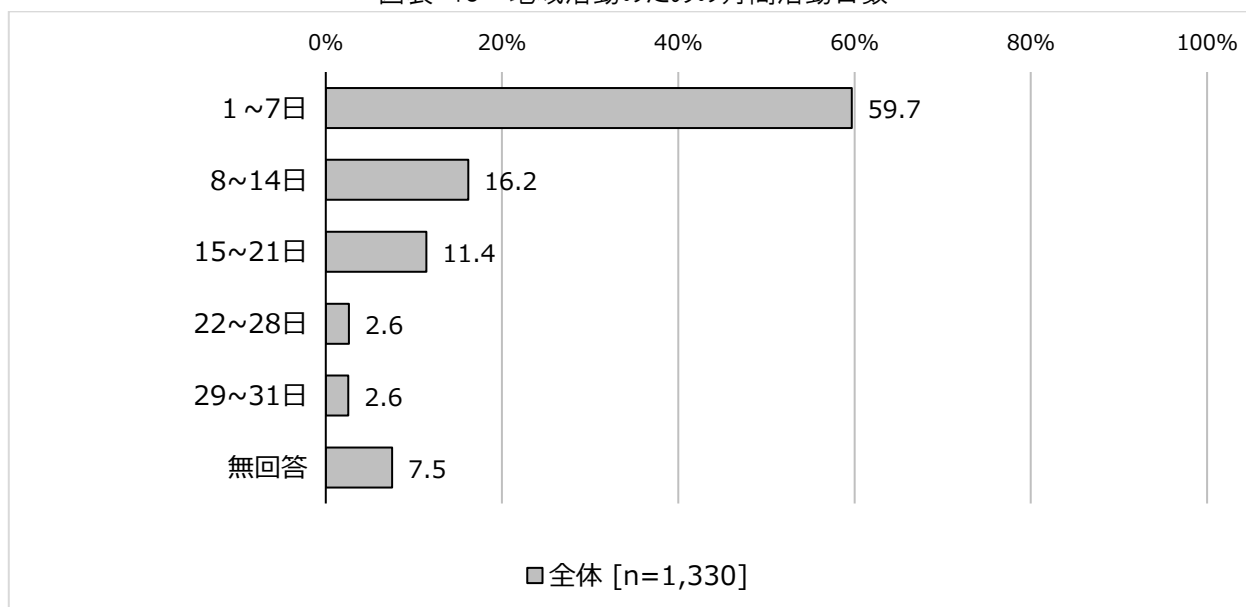
図表 47 代表になってからの年数



#### ⑤ 地域活動のための月間活動日数（問 38）

地域活動のための月間活動日数は、「1~7日」が59.7%と最も多く、次いで「8~14日」が16.2%、「15~21日」が11.4%などとなっている。

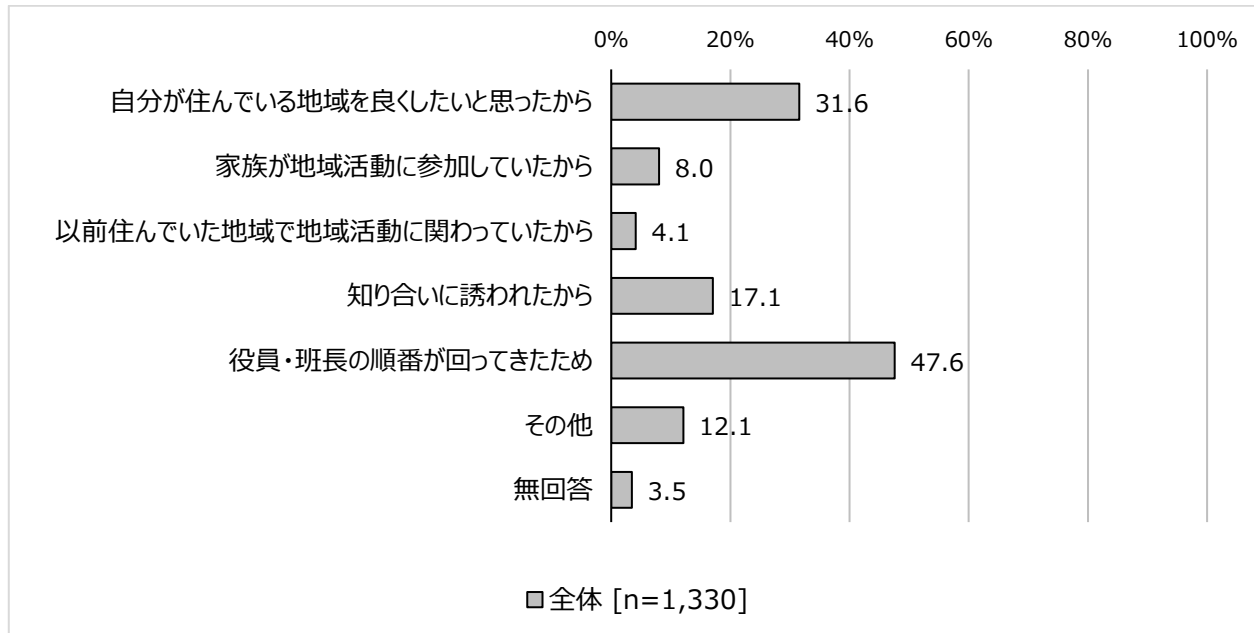
図表 48 地域活動のための月間活動日数



## ⑥地域活動の担い手として参加したきっかけ（問 36）

地域活動の担い手として参加したきっかけは、「役員・班長の順番が回ってきたため」が47.6%と最も多く、次いで「自分が住んでいる地域を良くしたいと思ったから」が31.6%、「知り合いに誘われたから」が17.1%などとなっている。

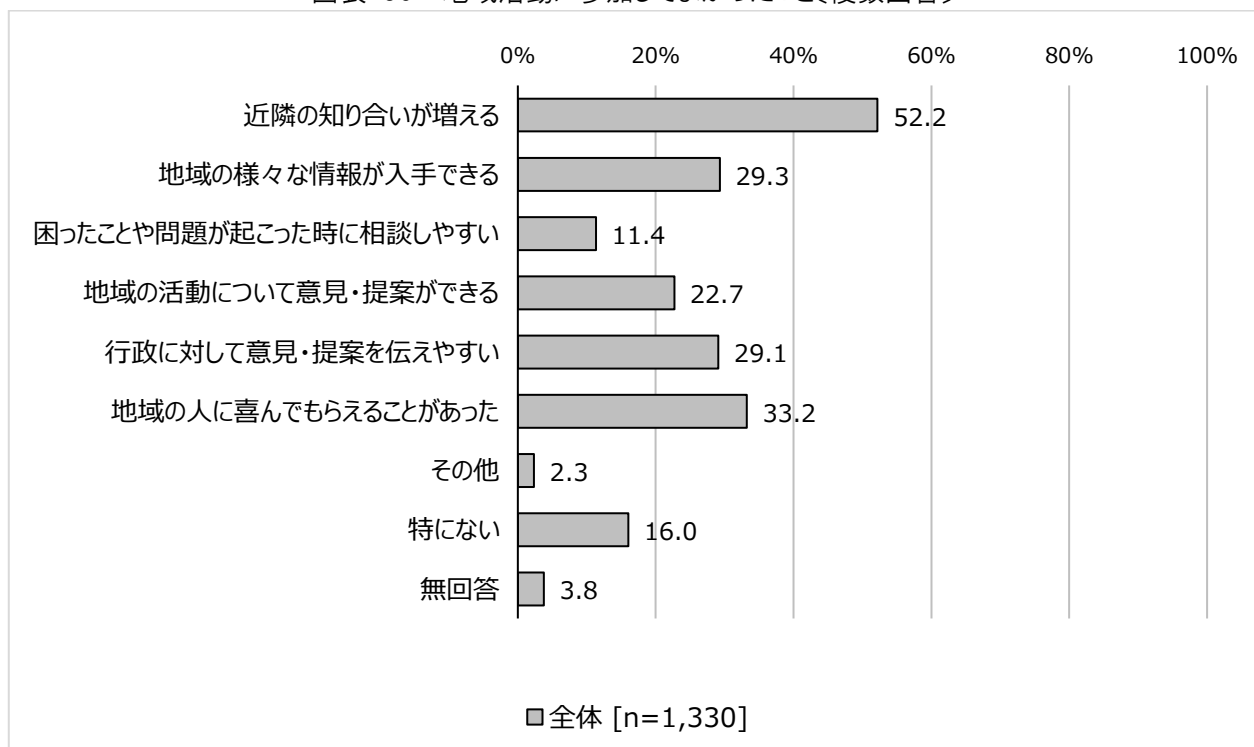
図表 49 地域活動の担い手として参加したきっかけ〔複数回答〕



## ⑦ 地域活動に参加してよかったこと（問 37）

地域活動に参加してよかったことは、「近隣の知り合いが増える」が52.2%と最も多く、次いで「地域の人に喜んでもらえることがあった」が33.2%、「地域の様々な情報が入手できる」が29.3%などとなっている。

図表 50 地域活動に参加してよかったこと〔複数回答〕

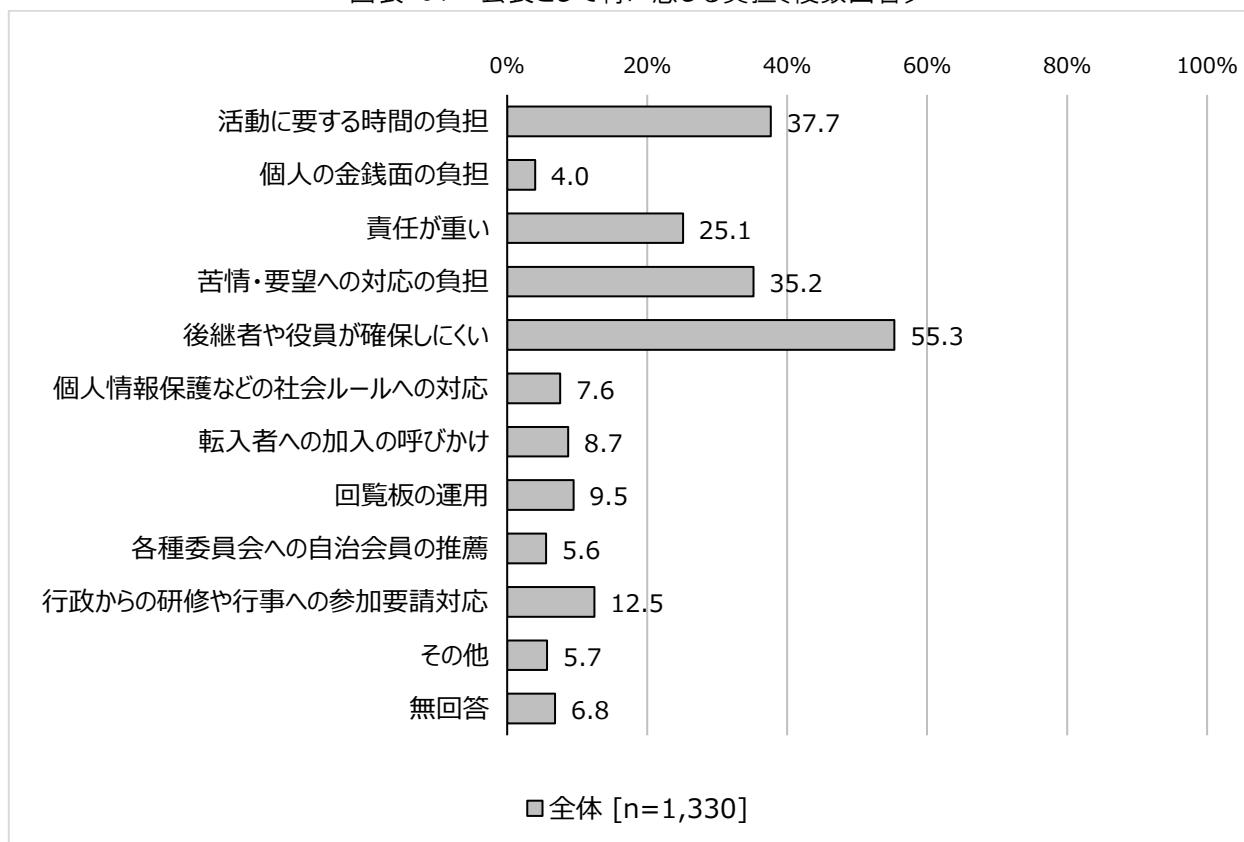




## ⑧会長として特に感じる負担（問 39）

会長として特に感じる負担は、「後継者や役員が確保しにくい」が55.3%と最も多く、次いで「活動に要する時間の負担」が37.7%、「苦情・要望への対応の負担」が35.2%などとなっている。

図表 51 会長として特に感じる負担〔複数回答〕



## (11) 自由意見（問 28）

### ①自治会加入の促進や退会防止での工夫

区分	主なご意見
加入促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・転入者に自治会加入をすすめている。</li> <li>・転入世帯に自治会活動に協力していただけるように熱意を伝えている。</li> <li>・自治会加入について、会長はじめ役員が説明している。</li> <li>・転入者、新規入居者があった場合に、住宅のオーナーから連絡を頂き、自治会の会則、ごみ出しの案内を持って自治会への加入のお願いに訪問している。</li> <li>・新たに入居された方へごみ捨てルールや神戸市の情報などを提供をして、自治会加入活動を行っている。</li> <li>・転入居者に1日でも早く自治会加入や組織の説明をしている。</li> <li>・新規転入者に対して自治会加入をよびかけるチラシを配布している。</li> <li>・自治会加入お願いのチラシを作成した。</li> <li>・転入世帯に対して、会の規約・活動内容・会費の用途について説明する。</li> <li>・アパートを管理する不動産会社と連携を強化して、加入者を増加した。</li> <li>・ワンルームマンションが建設されたら、空室があっても管理会社に全戸分加入してもらおうようにしている。</li> <li>・新しく建設されたマンションに自治会の設立を進めている。</li> <li>・新規マンション建設時に行政と連携し、建設企業に対して自治会加入を勧誘している。</li> <li>・新築マンションが建設されたら管理会社と自治会加入について協議している。</li> <li>・集合住宅の建設が増加したため、管理会社と協議を行い、住者に会費徴収とごみ収集ルールを説明するように要請した。</li> <li>・「自治会に加入しませんか」等のパンフレットを作成し、全世帯に配付した。新築マンション等に積極的に呼びかけをしている。</li> <li>・新規マンション説明会に参加し、入会の取組みに努めている。</li> <li>・朝の見守り活動（小・中学生の登校時）に、自治会活動への参加を呼びかけている。市民花壇を婦人会とともに世話し、同時に自治会活動をPRしている。</li> <li>・年度の初めに、未加入世帯に加入の声かけを行った。</li> </ul>
退会防止	<ul style="list-style-type: none"> <li>・80才以上の高齢者だけの家は、役員を免除している。</li> <li>・役員や班長の負担感から退会することが多いため、高齢、介護、障がい、子育て等でその役割を引き受けられない世帯には助け合いの精神で免除するようガイドラインを定めて会員に協力を呼びかけた。</li> <li>・退会防止のため、会費を下げた。</li> <li>・一定年齢や障がい等により、役員、当番等を免除している。</li> <li>・自治会費を集金する際に、自治会よりごみ袋を配布している。</li> <li>・退会する人を説得する。</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自治会加入の強制は行わず、自主性にまかせている。退会も同様である。</li> </ul>

## ②運営での工夫

区分	主なご意見
意義・役割	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自治会に入っていて良かったと思えるような自治会を目指したい。</li> <li>・新型コロナウイルス感染拡大防止のため活動はほぼ中止にしている。自治会が集まることもなくなり、きずながほどけかかっている。来年度の活動がうまくできるか心配である。</li> </ul>
企画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会員アンケートを行い、活動の変更・廃止をした。</li> <li>・自分達の住んでいる地域に何を望んでいるか、どうありたいかを把握するためにアンケート調査を実施した。</li> <li>・現状の活動を維持し、継続できない新規事業は行わないことにしている。会員の負担を増やさないことが自治会を安定して運営することにつながると考えている。</li> <li>・廃止しても良いことと復活させる方が良いことについて、役員会で話し合い、取り組み内容を見直している。</li> </ul>
活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あいさつをよびかけている。</li> <li>・しばらく顔を見ない人に声をかけるようにしている。お互いに声をかけあう。</li> <li>・普段話をしない人とかわり、様々な事に役員が耳を傾けるようにしている。</li> <li>・高齢者の見守りのため、民生委員と連携し「向こう3軒両隣活動」を実施している。</li> <li>・団地のまわりに花壇を作り、花づくりを通してのコミュニケーション活性化を図っている。</li> <li>・バス停を清掃している。</li> <li>・従来別々に活動していた河川愛護、地域用水路の清掃、神社の樹木の伐採を同一日に実施し参加者負担を軽減した。</li> <li>・防犯灯の設置に取り組んでいる。</li> <li>・災害時は地域で助け合うことが大切なので、防災に力を入れている。</li> <li>・地域住民の防災意識の向上のため、洪水・防災の出前授業を初めて開催した。</li> <li>・地域検定に取り組んでいる。</li> <li>・耐久性、安全性、利便性のすぐれたごみ収納庫を自治会オリジナルで作成して多くのステーションに設置していく。</li> <li>・敬老の粗品配布に加えて、小学校入学・中学校卒業生へのお祝い（図書券）をしている。</li> <li>・亡くなられた方への香典の提供はあるが、出産祝いがなかったため、若い世代にもメリットがあるように出産祝いを来年度から提供するようにしている。</li> </ul>
体制確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>・役員の任期を一年とし、順番に役員が回るようにしている。</li> <li>・新しい住民の方を積極的に役員に登用することで活性化を図っている。</li> <li>・できるだけ若い方に活動に参加を呼びかけている。</li> <li>・特別な事情のある方の役員免除についてのルールを検討している。</li> <li>・役員負担の軽減のため、部会を越えてのサポート体制をつくった。</li> <li>・担当者は1名だけにせず、誰かがバックアップできる体制とした。やれることは担当してもらおうが、出来ないときはNOと言えることを活動方針とした。</li> <li>・自治会内の班を細分化して、できるだけ近隣居住者との顔見知りになる機会を多くした。</li> <li>・自治会費の集金やごみ当番を輪番制にしている。</li> </ul>
組織運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>・役員会で全員発言する機会を設けている。</li> <li>・自治会、役員会議の開催日より1週間前迄に議事内容を書面にて役員各位に配布することで、開催当日にスピーディーに会議ができるようにした。</li> <li>・毎月の定例会での議事録を回覧している。あわせて意見を記入できるようにしている。</li> <li>・役員には仕事を持っている方や他の役割を兼任されている方もあり、役員の打ち</li> </ul>

区分	主なご意見
	<p>合わせの時間が自由にもてないので、毎月1回の公園清掃の後で必ず打ち合わせの連絡会を持つようにしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・会長が担う業務を減らし、仕事の差が少ない分担としたので、担当決めにくじ引きに全員が参加できるようになった。</li> <li>・全ての業務をゼロベースで見直し、負担の大きなものを軽くした。既存のやり方から変えたくない方々への説明に考慮して取り組んだ。</li> <li>・役員負担の軽減のため、ラジオ体操やクリーン作戦での飲料の購入を取りやめた。</li> <li>・会議や行事を減らしている。</li> <li>・自治会役員として自治会運営のための講習会に参加している。</li> <li>・自治会役員初任者講習を受講している。</li> <li>・自治会長の職務マニュアルを作成した。</li> <li>・デジタルを活用した運営をしている。</li> <li>・SNSを使って常に全員が情報共有できるようにした。会長以外にも相談できる体制とした。</li> <li>・業務の引継ができるようにクラウドサービスを利用し書類データを共有している。</li> <li>・役員・班長の業務負担軽減のため、全世帯配布の資料を希望者にはメールで配布する方法に移行していくための準備をしている。</li> <li>・外部委託により、共益費と家賃を一括して徴収している。</li> <li>・役員業務やゴミステーション清掃の委託を検討している。</li> <li>・一斉清掃活動や見守り立ち当番などの自治会活動は任意であることを前提として、身体的・家庭の事情等による免除制度を設けている。</li> </ul>
連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学との協働によりイベントを実施した。</li> <li>・地域内の5つの自治会と6つの団体が、地域の会館で地域活動の情報共有のための会議を毎月している。</li> </ul>
広報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・役員会（月一回）の議事録を会員に回覧し、自治会の意義、活動を周知している。</li> <li>・自治会が何をしているのかを見えやすくする。</li> <li>・自治会の広報紙に、自治会の活動の方向性やねらいを書くようにしている。</li> <li>・毎月広報を発行し、きめ細やかな情報発信をしている。</li> <li>・活動（掲示板の新調、敬老の祝配布等）の都度回覧を作成している。</li> <li>・回覧板を月2回に減らした。</li> <li>・回覧をメールで配信している。</li> <li>・SNSを利用し、非会員も登録・閲覧可能にしている。回覧板と併用している。</li> <li>・回覧板にかわって、SNSのオープンチャットを利用している。</li> <li>・会員以外の世帯に対して、クリーンステーション管理の実情や自治会活動の現状等を啓発している。</li> </ul>

### ③コロナ禍において新たに取り組んだこと

区分	主なご意見
活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染防止のため行事をとりやめたり、縮小したりした。</li> <li>・夏は子供まつり、秋は高齢者のイベントと参加する対象者を分けた。</li> <li>・給食を配食に変更した。</li> <li>・ワクチン接種など、地域にとって必要な情報を共有している。</li> <li>・単身世帯の自宅療養者に対して、食料品等の買い出しや配布をした。</li> <li>・掲示板ではなくオープンチャットを用いて広報をした。</li> <li>・集会所に消毒液、体温測定機を設置し、利用者に連絡先を記入してもらった。</li> <li>・商品券やマスクを全戸に配付した。</li> <li>・コロナ見舞金（一世帯5万円）を配布した。</li> </ul>

区分	主なご意見
組織運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総会を中止した。</li> <li>・書面による総会及び決議を実施した。</li> <li>・書面により決算報告や活動報告などを行った。</li> <li>・会議を減らした。</li> <li>・役員会の開催を月1回から原則2ヶ月に1回とした。</li> <li>・マスク着用だと声が聞きづらいので、ワイヤレスマイクをレンタルした。</li> <li>・回覧でなく一戸ずつのポスティングに変更した。</li> <li>・回覧板の回覧方式を変更した（対面→ドアノブに吊るす）</li> <li>・コロナ支援のため町会費を減額した。</li> <li>・自治会費を減額した。</li> <li>・コロナ禍で活動を縮小しているため自治会費を徴収していない。</li> <li>・会合ごとに参加者にマスクを5枚配布している。</li> </ul>

■ **令和4年度 神戸市内地域組織基礎調査**

**自治会 調査結果報告書**

(連絡先)

神戸市地域協働局地域活性課 (地域コミュニティ担当)

電話 : 078-322-5170 (内線 2262)      FAX : 078-322-6133

電子メール    [community@office.city.kobe.lg.jp](mailto:community@office.city.kobe.lg.jp)

(調査委託先) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社

令和4年度 神戸市内地域組織基礎調査

**NPO法人**

調査結果報告書

令和5年3月

神戸市





## 【目次】

<b>(1) 調査概要</b> .....	<b>1</b>
① 調査の目的 .....	1
② 調査対象 .....	1
③ 調査方法等 .....	1
④ 調査の対象と回収状況 .....	1
⑤ 調査結果の表示方法 .....	1
<b>(2) 団体の活動</b> .....	<b>2</b>
① 主な活動分野（問2） .....	2
② 具体的な活動内容（問2） .....	3
③ 主な活動地域（問3） .....	8
④ 活動に携わっている人数（問4） .....	9
⑤ 活動に携わっている人の年齢の特徴（問5） .....	10
⑥ 事務局職員（スタッフ）（問6） .....	10
⑦ 主な収入源（問7） .....	11
⑧ 直近年度の決算の収益額の規模（問8） .....	11
⑨ 団体の活動頻度（問9） .....	12
<b>(3) 利用施設と集まりの開催状況</b> .....	<b>12</b>
① 定期的に利用している施設（問10） .....	12
② 集まりの状況（主な利用対象者と開催頻度）（問10） .....	13
③ 利用可能であれば新たに利用したいと考えている施設（問11） .....	13
<b>(4) デジタル技術の活用</b> .....	<b>15</b>
① デジタル技術の活用状況と今後の活用意向（問14） .....	15
② デジタル技術活用のために市に求める支援（問15） .....	16
③ デジタル技術活用のために参加したい講習会（問16） .....	16
<b>(5) 他団体との連携</b> .....	<b>17</b>
① 他団体との連携の状況（問18） .....	17
② 他団体との連携にあたって発揮できる強み（問19） .....	18
③ 他団体と連携した取組事例（問20） .....	18
④ 他団体と連携して実現したいこと（アイデア）（問21） .....	19
<b>(6) 活動を進めていくための課題</b> .....	<b>20</b>
① コロナ禍による活動への影響（問12） .....	20
② コロナ禍での活動で苦労していること（問13） .....	21
③ 活動を進めていくための課題（人材面）（問17①） .....	22
④ 活動を進めていくための課題（運営面）（問17②） .....	22
⑤ 活動への利用者の参加状況の課題（問17③） .....	23
<b>(7) 今後の活動に向けて</b> .....	<b>23</b>
① 活動の現状についての満足度（問22） .....	23

② 団体が担う役割の今後についての考え（問23） .....	24
③ 団体の活動を活発にしていくために必要なこと（問24） .....	24
④ NPO支援に関わる神戸市の取り組みの認知状況や利用状況（問26） .....	25
⑤ 市に相談したいことや支援を希望すること（問27） .....	26
<b>(8) 代表の活動状況.....</b>	<b>26</b>
① 代表（回答者）の状況（問34） .....	26
② 代表の任期や定年の定め（問28） .....	27
③ 代表になってからの年数（問29） .....	28
④ 次期代表の育成の見通し（問30） .....	28
⑤ 活動を始めたきっかけ（問31） .....	29
⑥ 活動してよかったと思うこと（問32） .....	29
⑦ 団体の今後のあり方についての考え(問33) .....	30
<b>(9) 自由意見 .....</b>	<b>31</b>
① 新たな活動者の確保や運営での工夫（問25） .....	31
② コロナ禍において新たに取り組んだこと（問25） .....	31

(資料) 調査票

## (1) 調査概要

### ① 調査の目的

神戸市では、おおむね3年ごとに、市内で活動されている地域組織のみなさまの活動実態及び課題などを把握するためアンケート調査を実施している。

前回の調査（令和元年度）以降、新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、対面での活動が制限されたり、感染防止対策が必要となるなど、地域活動の実施にあたっては様々な工夫をされるとともに、様々な地域課題への対応や、デジタル技術の活用等、新たな取組にもチャレンジされていると考えられる。そこで、地域組織の活動に携わっている市民の取り組みや感じていることを把握し、今後の施策に活用する。

### ② 調査対象

下記の団体を対象とする。

	概要	備考
NPO法人	特定非営利活動促進法（NPO法）により法人格を付与された団体で、福祉、環境、まちづくり等さまざまな分野の社会貢献活動を行っている。	神戸市が認証しているNPO法人を対象とした。

### ③ 調査方法等

調査方法	調査対象団体の代表者に調査票を郵送配付し、郵送で回収した。
調査期間	令和4年10月11日（火）～11月11日（金）

### ④ 調査の対象と回収状況

	発送数	未着数	有効発送数	有効回収数	回収率
全市	747	31	715	298	41.7%
東灘区	95	2	93	37	39.8%
灘区	58	2	56	24	42.9%
中央区	196	15	181	58	32.0%
兵庫区	45	3	42	13	31.0%
北区	90	2	88	39	44.3%
長田区	67	1	66	28	42.4%
須磨区	54	1	53	18	34.0%
垂水区	74	3	71	37	52.1%
西区	68	2	66	35	53.0%
不明				9	

### ⑤ 調査結果の表示方法

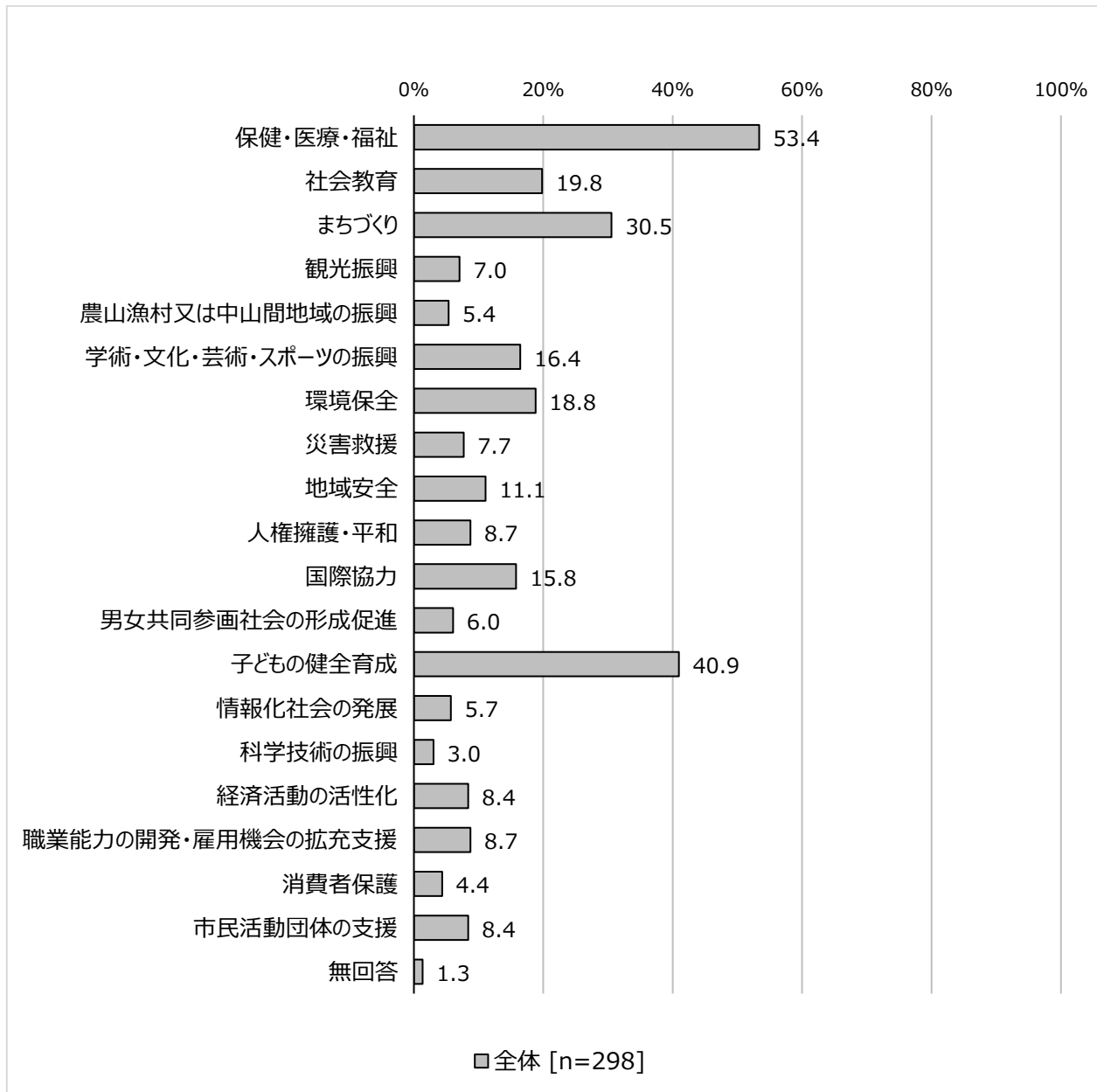
- ・比率は、小数点第2位を四捨五入し、小数点第1位までの百分率（%）で表しています。このため、合計が100%にならない場合もあります。
- ・各設問のサンプルサイズは、“n=●”として記載しています。
- ・〔複数回答〕とある設問は、2つ以上の選択肢を回答することが可能な設問です。このため、各回答の合計比率が100%を超える場合があります。

## (2) 団体の活動

### ①主な活動分野（問2）

主な活動分野は、「保健・医療・福祉」が53.4%と最も多く、次いで「子どもの健全育成」が40.9%、「まちづくり」が30.5%などとなっている。

図表 1 主な活動分野〔複数回答〕



## ②具体的な活動内容（問2）

具体的な活動内容として、次のような活動があげられた。

図表 2 具体的な活動内容

活動分野	具体的な活動内容（例）
保健・医療・福祉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・衛生教育用絵本の出版</li> <li>・アグリセラピー講座</li> <li>・化粧品に対する正しい知識・使い方の教育</li> <li>・摂食障害や依存症当事者のつながり作り</li> <li>・酒害に悩む本人、家族の救済</li> <li>・市民の精神保健福祉の向上と共生社会の構築に関わる活動</li> <li>・医療支援、医療情報提供、医療相談</li> <li>・慢性疾患に関する情報提供と教育講座開催（糖尿病教室等）</li> <li>・難病患者会・家族会のサポート・情報発進</li> <li>・心臓病患者と家族に対する相談支援、医療相談会など</li> <li>・さい帯血の採取、保存、提供、及びその普及啓発</li> <li>・各病態別メニュー開発と提案（地域のレストラン等とコラボ）</li> <li>・イベントでの救護活動・応急手当て普及活動</li> <li>・訪問看護</li> <li>・ホームホスピス</li> <li>・ひとりぐらし、準ひとりぐらし高齢者のふれあい給食</li> <li>・お困りごとサポート（生活支援）</li> <li>・高齢者支援（ゴミ出し、庭木等の手入れ）</li> <li>・高齢者の社会参加をデジタルで支援</li> <li>・高齢者の老後のくらしに関する相談会</li> <li>・介護予防</li> <li>・認知症予防教室</li> <li>・介護保険サービス事業</li> <li>・障害福祉サービス事業</li> <li>・視覚障がい児への生活支援や学習支援</li> <li>・児童館運営</li> <li>・学童保育</li> <li>・保育事業</li> <li>・兄弟児のためのイベント開催</li> </ul>
社会教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アルコール依存症についての正しい知識普及</li> <li>・青少年に対するアルコールの知識普及</li> <li>・ヤングケアラー、若者ケアラーの支援</li> <li>・化粧品に対する正しい知識・使い方の教育</li> <li>・認知症カフェ（ほほえみ茶房）</li> <li>・犬やネコのおつかいのわからない飼い主さんへの教育</li> <li>・ボランティアで外国人に日本語を教える</li> <li>・交流分析理論を用いたコミュニケーションスキルアップ教育</li> <li>・高校生を対象としたワークショップ</li> <li>・中小企業、高校、大学等での教育支援（講演・講義）</li> <li>・子育て中の保護者に対する社会活動支援</li> <li>・寺子屋塾（技術者勉強会）</li> <li>・震災体験学習受入</li> <li>・発災の瞬間に自分の命を守る防災知識を身につける防災演習ゲームの実施</li> </ul>

活動分野	具体的な活動内容（例）
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然学校の開催</li> <li>・大人、シニア世代のスポーツ活動の場を提供</li> <li>・巡回映画会の開催</li> <li>・金融リテラシー行動活動</li> <li>・地域交流イベントの開催</li> <li>・東南アジア・南アジアで絵本の配布</li> <li>・働く人の権利に関する啓発活動（HP・ニュース）</li> </ul>
まちづくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域イベント企画・開催支援（音響・映像など）</li> <li>・地域ブランドの開発と普及</li> <li>・地域交流スペース</li> <li>・地域交流の場づくり</li> <li>・地域福祉カフェ</li> <li>・マンション団地の運営支援</li> <li>・分譲マンションの支援</li> <li>・老朽団地における団地再生支援</li> <li>・近畿地方における港湾・空港の歴史と文化を市民に広報する活動</li> <li>・エネルギーをキーワードにした地域での取組支援</li> <li>・ラストワンマイルの取り組み</li> <li>・国内被災地域のまちづくり支援（地域団体への支援）</li> <li>・被災地における復興まちづくり支援</li> </ul>
観光振興	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光振興による地方創生の企画・立案・運営支援</li> <li>・観光イベントやモニターツアーの企画進行</li> <li>・地元の特産物の紹介パンフの作成やセミナー</li> <li>・日本食材を含む漢方健康食品の共同開発</li> <li>・キャンプ</li> <li>・訪日客を増やす活動</li> <li>・介護付旅行</li> </ul>
農山漁村又は中山間地域の振興	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業（野菜栽培）</li> <li>・特産品開発等</li> <li>・県産米の流通</li> <li>・農業体験</li> <li>・農村、山林での子供を対象とした体験活動</li> <li>・農村定住企業に向けた空き家の調査</li> <li>・オーガニック・ライフ事業</li> <li>・結婚支援活動を通じての男女共同参画社会の形成促進</li> <li>・大学と伝統行事への参加</li> <li>・伝統文化の保存・発展の支援</li> </ul>
学術・文化・芸術・スポーツの振興	<ul style="list-style-type: none"> <li>・芸術と科学の情報交換</li> <li>・食と健康の科学的情報に関する啓発普及事業</li> <li>・グローバルなアカデミアの視点を持ち、社会課題解決を行う人材育成</li> <li>・歴史的遺産（建築物）の調査・評価</li> <li>・アートギャラリーの運営</li> <li>・書写書道に関する研修会</li> <li>・展覧会、アートイベント等開催</li> <li>・仏教美術作品（仏像・仏画等）の展覧</li> <li>・絵画の研修</li> <li>・障害者のアート・音楽活動</li> </ul>

活動分野	具体的な活動内容（例）
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽演奏会</li> <li>・中国音楽を広める</li> <li>・農村歌舞伎</li> <li>・和太鼓教室</li> <li>・映画の上映</li> <li>・映画関連のイベント</li> <li>・映画資料の収集・保存</li> <li>・日本の伝統食材や地元の食材を使った料理セミナー</li> <li>・プログラミング教室</li> <li>・スポーツを通じての地域スポーツの振興</li> <li>・学童軟式野球全国大会の運営</li> <li>・中学生を対象としたバスケットボール教室</li> <li>・フットサルの普及、強化</li> <li>・ラグビーチームの運営、スポーツ環境の提供</li> <li>・海洋スポーツの振興</li> <li>・日・韓青少年スポーツ交流</li> </ul>
環境保全	<ul style="list-style-type: none"> <li>・里山公園ボランティア</li> <li>・森林ボランティア（放置された森林の整備）</li> <li>・里山における環境調査（環境省、自然保護協会、新聞社）</li> <li>・里地里山活動</li> <li>・地域の緑化活動</li> <li>・コミュニティー通路に花壇を設置して花を植える</li> <li>・緑化・エコ関連の商品開発・コンサルティング</li> <li>・林相整備で生物多様性の復活</li> <li>・六甲山での植樹、海外での植樹</li> <li>・近畿地方の沿岸域環境の保全と創造に関する業務</li> <li>・尾上緑化の研究</li> <li>・マングローブ植林</li> <li>・太陽光発電所の設置運営</li> <li>・再生可能エネルギーの普及活動</li> <li>・省エネ診断</li> <li>・SDGsと省エネの取組み</li> <li>・余剰食品の有効活用</li> <li>・産廃物の発生抑制への取組（プラ、食ロス）</li> <li>・温暖化防止基金の募金・運営事業</li> <li>・企業向けの環境保全活動への支援</li> <li>・町のクリーン作戦の展開</li> <li>・ゴミステーションの管理</li> <li>・まちネコ活動</li> <li>・行き場のないペットの保護と里親さがし</li> <li>・環境保護に関する技術開発・供与</li> <li>・子ども向けの環境学習の企画・運営</li> <li>・大人向けの環境学習の企画・運営</li> <li>・児童館出前エコ教室</li> </ul>
災害救援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国内外の被災地支援（主に学校対象、行政機関、コミュニティ団体）</li> <li>・災害地域の自立支援</li> <li>・ペット防災にかかせない道具の推奨と動物避難所の開始</li> </ul>

活動分野	具体的な活動内容（例）
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ボランティア資格や組織の運営</li> <li>・ 年末夜間パトロール</li> <li>・ 貧困国での災害時の緊急支援</li> </ul>
地域安全	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高齢者見守り活動</li> <li>・ 高齢者のゴミ出しを兼ねた安否確認</li> <li>・ 応急手当での普及活動</li> <li>・ 交差点の安全確保の為の連絡</li> <li>・ マンションでの防災訓練等の支援</li> </ul>
人権擁護・平和	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 障害者の権利擁護</li> <li>・ 障害者の人権擁護活動、障害者のエンパワメント</li> <li>・ 成年後見</li> <li>・ 少数民族の子どもの差別解消</li> <li>・ 電話による相談活動</li> </ul>
国際交流	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国際交流促進活動</li> <li>・ 姉妹ヨットクラブとの定期的な交流</li> <li>・ 友好交流演奏会の開催</li> <li>・ 在日外国人との交流事業</li> <li>・ 在日外国人の居場所づくり</li> <li>・ 外国人親子教室開催協力</li> <li>・ 外国人に対する日本語支援</li> <li>・ 多言語環境の促進（翻訳、通訳、多言語企画）</li> <li>・ 外国の学校へ日本語補助教員を派遣</li> <li>・ 海外の孤児の自立支援</li> <li>・ アジアのコミュニティ防災、防災教育推進支援</li> <li>・ 日本で使用されていない中古船舶をアジア諸国へ提供</li> </ul>
男女共同参画社会の形成促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 結婚支援活動を通じたの振興</li> <li>・ 人材育成</li> <li>・ 相談・関係機関への紹介</li> <li>・ 出張託児サービス</li> <li>・ 介護</li> </ul>
子どもの健全育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ こども食堂</li> <li>・ こどもの居場所</li> <li>・ 離乳食の作り方講座</li> <li>・ 学習支援</li> <li>・ 子どもの育成相談</li> <li>・ 学童保育</li> <li>・ 児童館</li> <li>・ 放課後学習支援</li> <li>・ おもちゃ病院</li> <li>・ はみがき教室</li> <li>・ 食育イベント開催等</li> <li>・ 野外活動</li> <li>・ 野外活動施設の管理運営とキャンプ事業</li> <li>・ 小中学生のスポーツ教室活動を通じたの健全育成</li> <li>・ フードパントリー</li> <li>・ 工作を通じた環境教育</li> <li>・ 教員向けセミナー、学習会の開催</li> </ul>



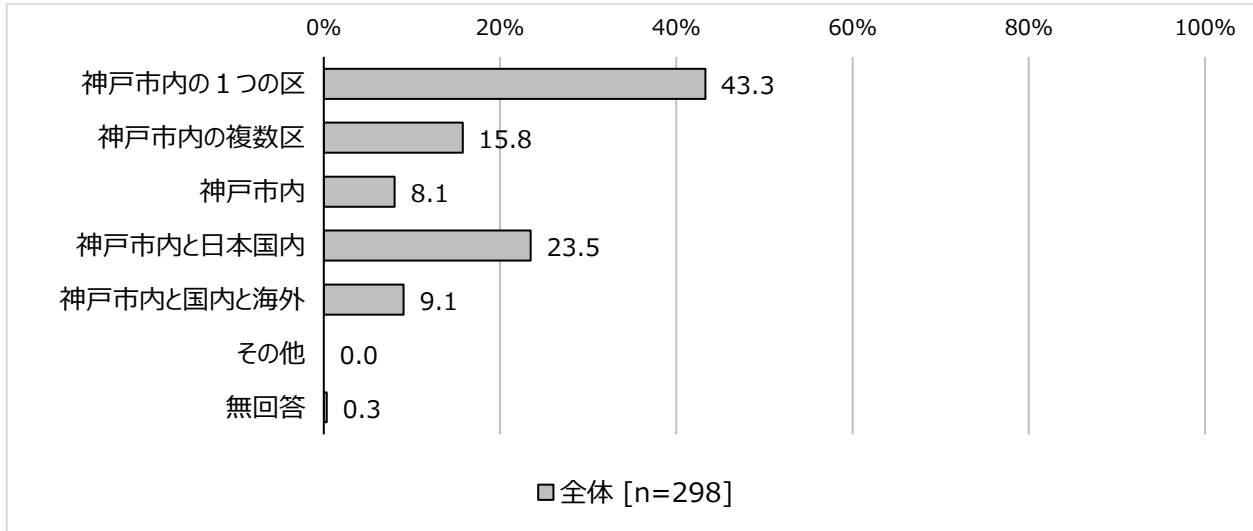
活動分野	具体的な活動内容（例）
情報化社会の発展	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パソコン操作、オンライン会議の使い方支援</li> <li>・プログラミング教室</li> <li>・ホームページ、フェイスブックでの情報発信</li> <li>・メディアリテラシー力の向上を目指す活動</li> <li>・中小企業のIT化支援</li> </ul>
科学技術の振興	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験教室</li> <li>・食品の安全性と食餌投与を可能とする食べものに係る学術的開発研究事業</li> <li>・自動走行への取り組み</li> <li>・中小企業の経営、事業、社員教育、生産管理販路開拓等支援</li> <li>・防災技術の振興</li> </ul>
経済活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・需要と供給実態の市場傾向調査と知的所有権取得などに係る関連事業</li> <li>・地元リフォーム業者への情報提供、勉強会開催</li> <li>・中小企業における省エネビジネスの推進</li> <li>・中小企業の経営支援</li> <li>・駐輪場の管理委託事業</li> <li>・売れ残りパンのナイトセール</li> </ul>
職業能力の開発・雇用機会の拡充支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリアカウンセリング</li> <li>・インターシップ活動</li> <li>・児童養護施設を出た子ども達への職業体験や定着サポート</li> <li>・障害者のための就労支援</li> <li>・病院、介護施設への就職</li> <li>・外国での日本語学校、介護学校の開校</li> </ul>
消費者保護	<ul style="list-style-type: none"> <li>・消費者学級の開催</li> <li>・啓発セミナーの開催</li> <li>・差止請求活動</li> </ul>
市民活動団体の支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まちづくり団体・個人の活動支援</li> <li>・マンション管理組合の活動支援</li> <li>・各NPO団体に関する会計補助</li> <li>・世代結び事業（地域団体のネットワーク作り）</li> <li>・地域活動支援の人材育成</li> <li>・地域活動団体の立ち上げ、運営サポート、人材養成講座の実施</li> <li>・助成事業/寄付文化の醸成・啓発</li> </ul>

### ③主な活動地域（問3）

#### (7)主な活動地域

主な活動地域は、「神戸市内の1つの区」が43.3%と最も多く、次いで「神戸市内と日本国内」が23.5%、「神戸市内の複数区」が15.8%などとなっている。

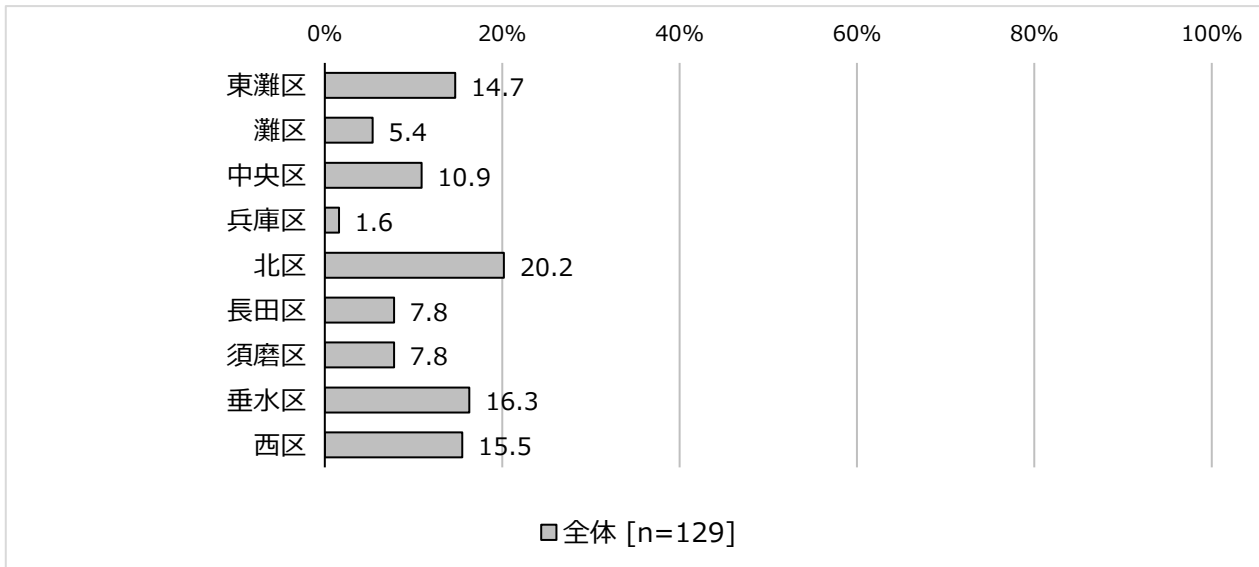
図表 3 主な活動地域



#### (i) 神戸市内の1つの行政区で活動しているNPO法人の活動地域

神戸市内の1つの行政区で活動しているNPO法人（129団体）の活動地域は、「北区」が20.2%と最も多く、次いで「垂水区」が16.3%、「西区」が15.5%などとなっている。

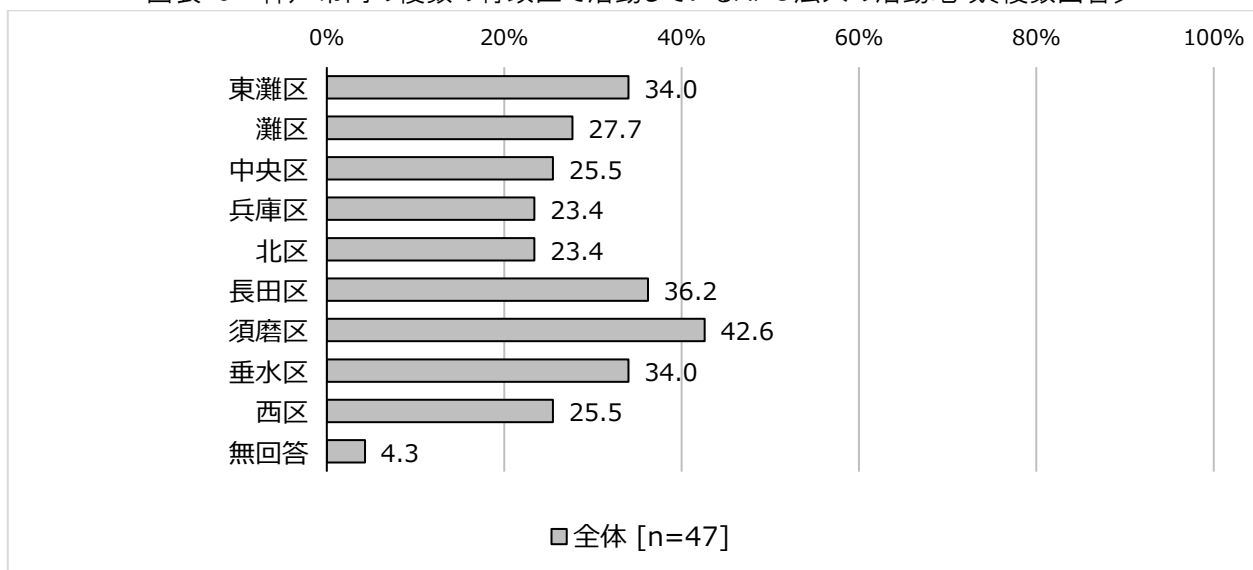
図表 4 神戸市内の1つの行政区で活動しているNPO法人の活動地域



(ウ) 神戸市内の複数の行政区で活動しているNPO法人の活動地域

神戸市内の複数の行政区で活動しているNPO法人(47団体)の活動地域は、「須磨区」が42.6%と最も多く、次いで「長田区」が36.2%、「東灘区」と「垂水区」が34.0%などとなっている。

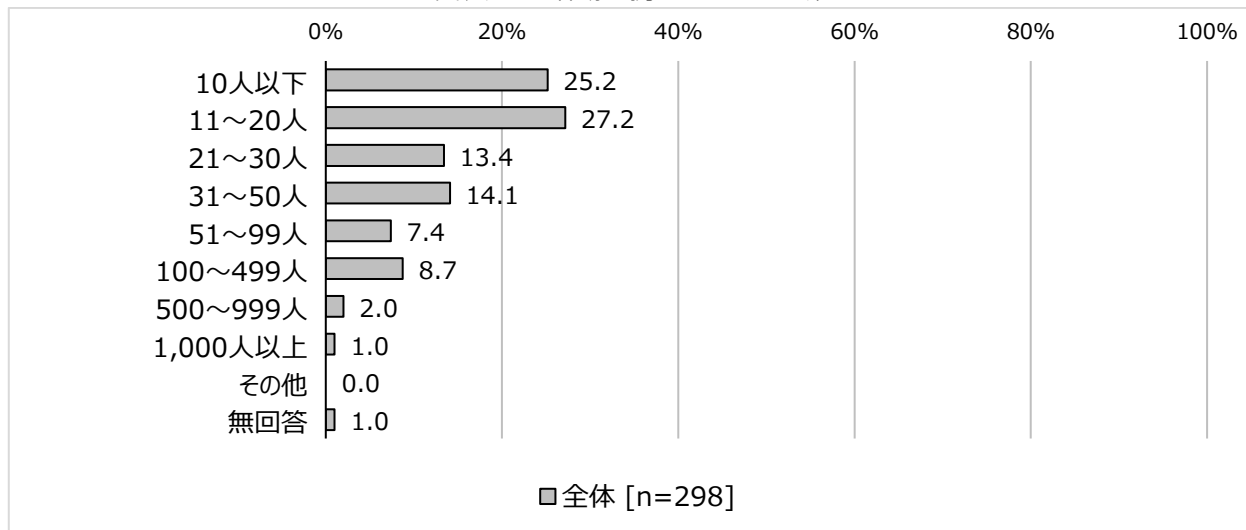
図表 5 神戸市内の複数の行政区で活動しているNPO法人の活動地域〔複数回答〕



④ 活動に携わっている人数 (問4)

活動に携わっている人数は、「11~20人」が27.2%と最も多く、次いで「10人以下」が25.2%、「31~50人」が14.1%などとなっている。

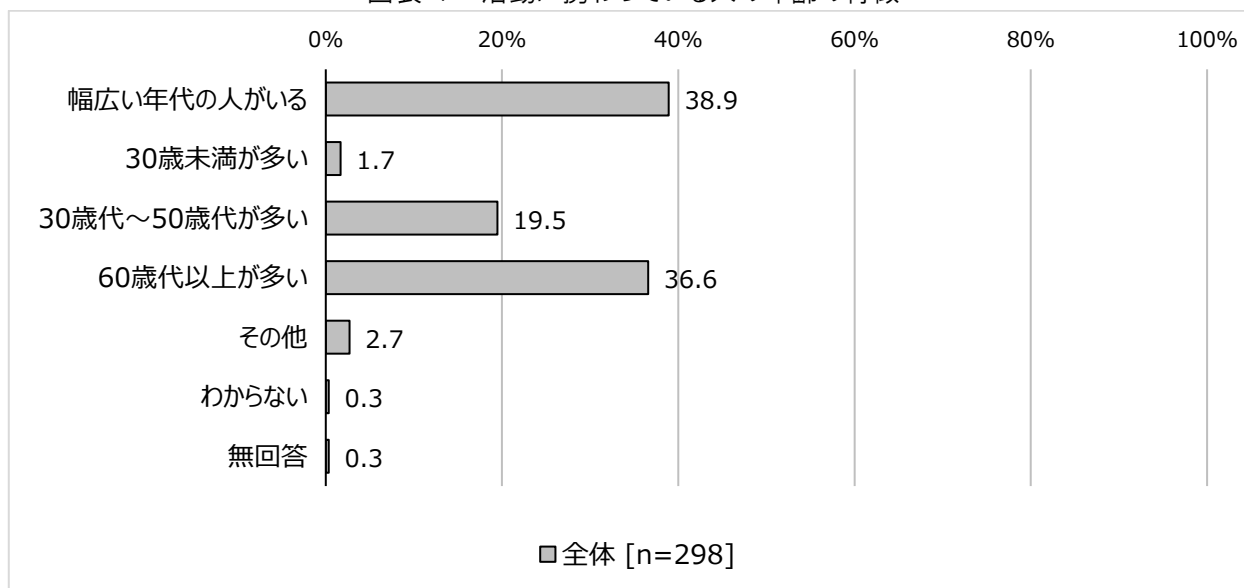
図表 6 活動に携わっている人数



### ⑤ 活動に携わっている人の年齢の特徴（問5）

活動に携わっている人の年齢の特徴は、「幅広い年代の人がいる」が38.9%と最も多く、次いで「60歳代以上が多い」が36.6%、「30歳代～50歳代が多い」が19.5%などとなっている。

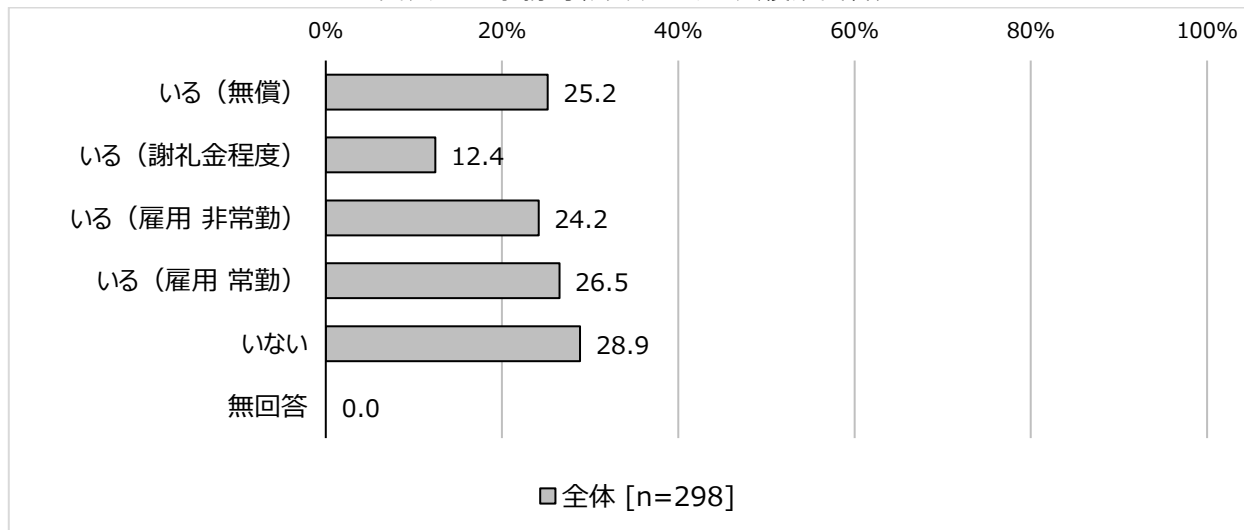
図表 7 活動に携わっている人の年齢の特徴



### ⑥ 事務局職員（スタッフ）（問6）

事務局職員(スタッフ)は、「いない」が28.9%と最も多く、次いで「いる(雇用 常勤)」が26.5%、「いる(無償)」が25.2%などとなっている。

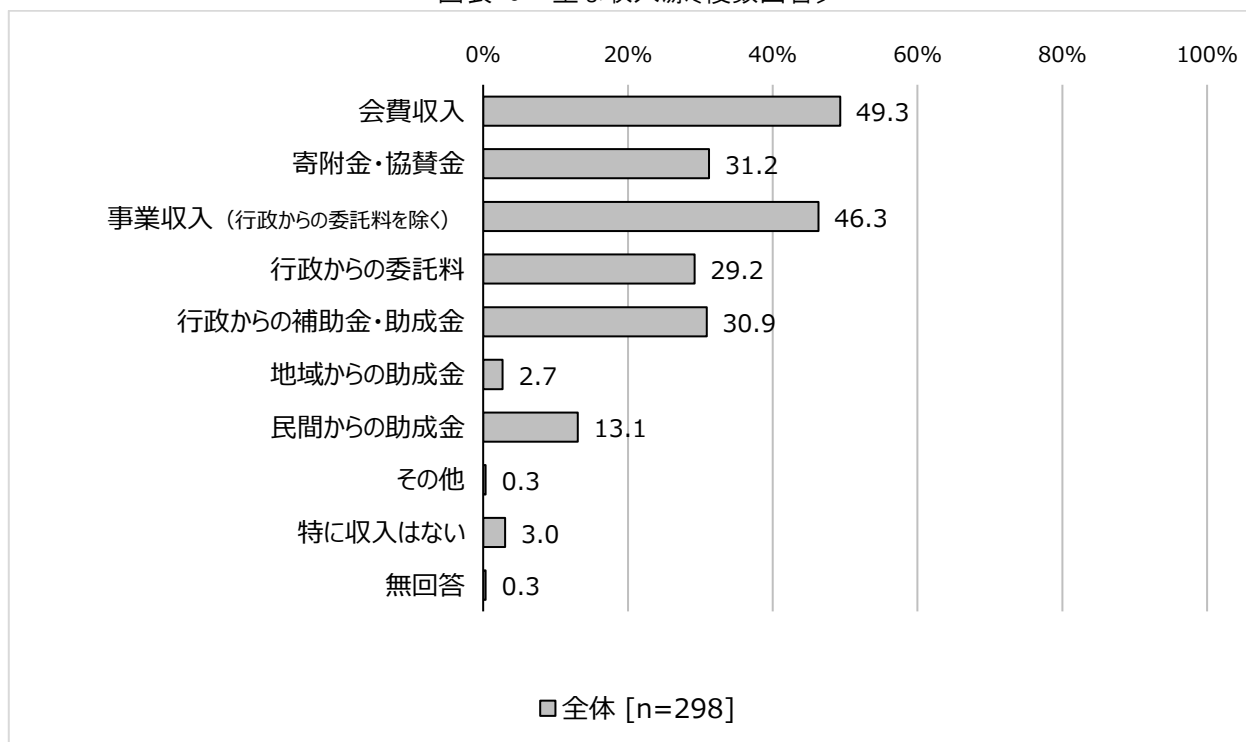
図表 8 事務局職員(スタッフ)[複数回答]



### ⑦ 主な収入源（問 7）

主な収入源は、「会費収入」が49.3%と最も多く、次いで「事業収入（行政からの委託料を除く）」が46.3%、「寄附金・協賛金」が31.2%などとなっている。

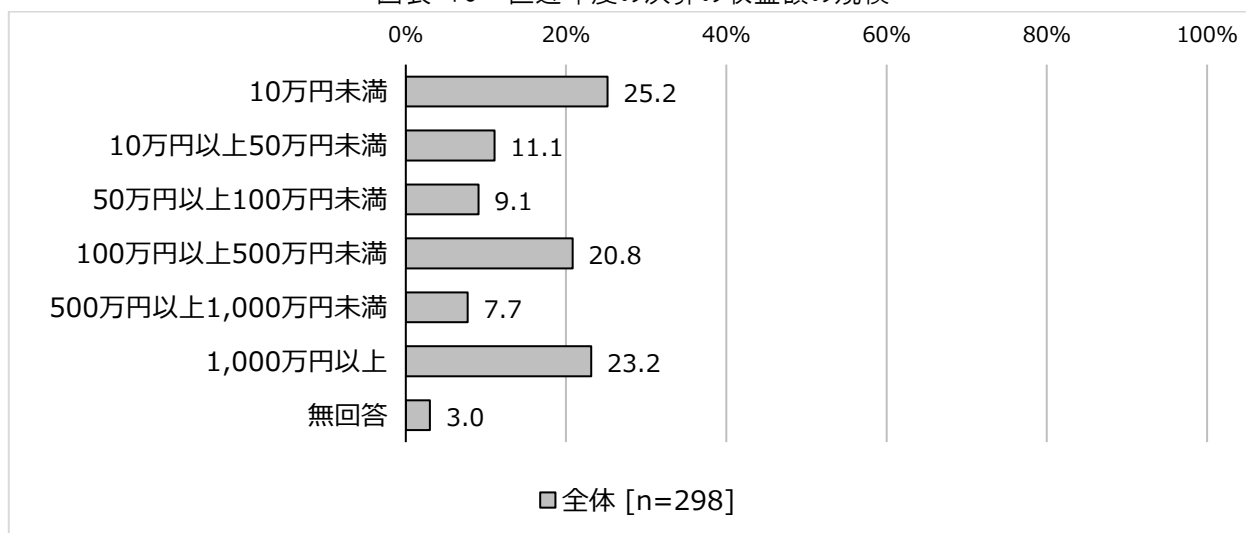
図表 9 主な収入源〔複数回答〕



### ⑧ 直近年度の決算の収益額の規模（問 8）

直近年度の決算の収益額の規模は、「10万円未満」が25.2%と最も多く、次いで「1,000万円以上」が23.2%、「100万円以上500万円未満」が20.8%などとなっている。

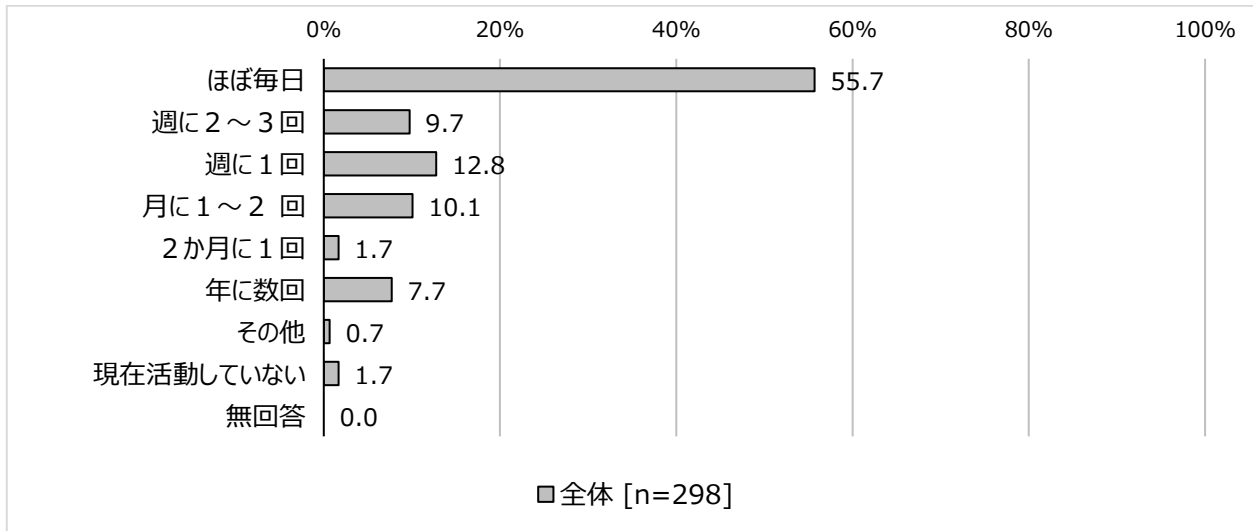
図表 10 直近年度の決算の収益額の規模



### ⑨ 団体の活動頻度（問9）

団体の活動頻度は、「ほぼ毎日」が55.7%と最も多く、次いで「週に1回」が12.8%、「月に1～2回」が10.1%などとなっている。

図表 11 団体の活動頻度



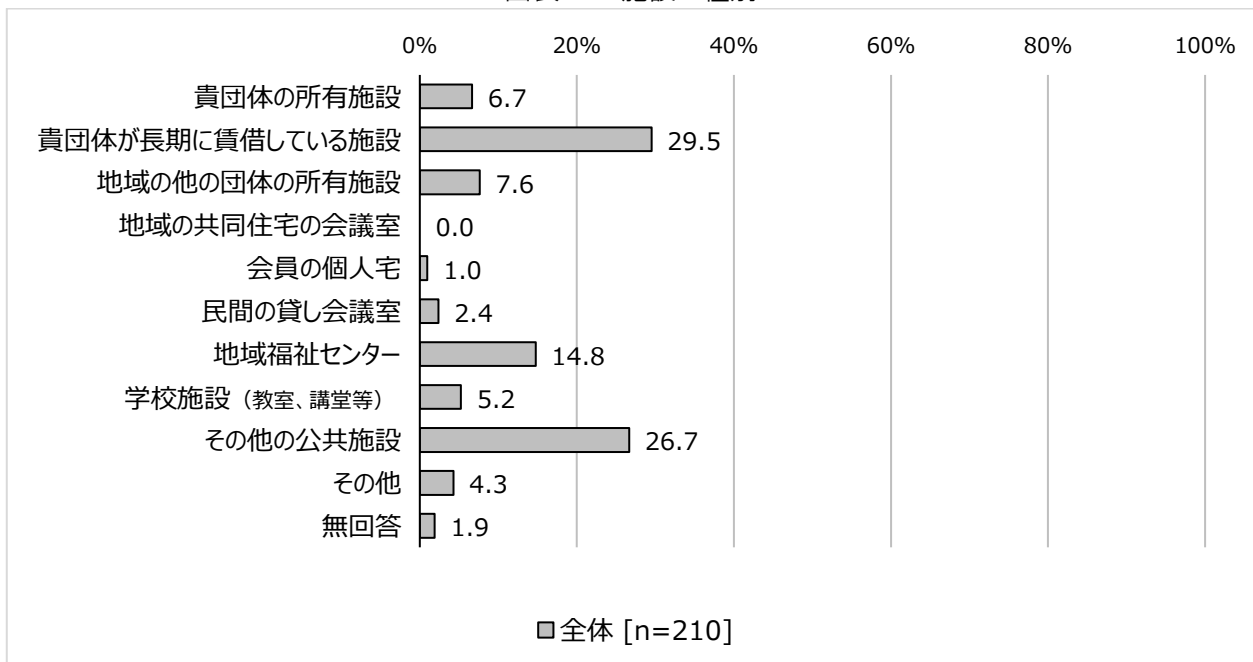
### (3) 利用施設と集まりの開催状況

#### ①定期的に利用している施設（問10）

NPO法人が定期的に利用している施設として210施設の回答があった。

施設の種別は、「貴団体が長期に賃借している施設」が29.5%と最も多く、次いで「その他の公共施設」が26.7%、「地域福祉センター」が14.8%などとなっている。

図表 12 施設の種別



## ② 集まりの状況（主な利用対象者と開催頻度）（問 10）

定期的に開催している集まりとして332件の回答があった。

主な利用対象者は、「どなたでも」が104件と最も多く、月1回の開催の集まりが多くなっている。次いで、「子ども」を対象とする集まりが61件で、月5回以上の開催の集まりが多くなっている。

図表 13 集まりの状況(主な利用対象者と開催頻度)

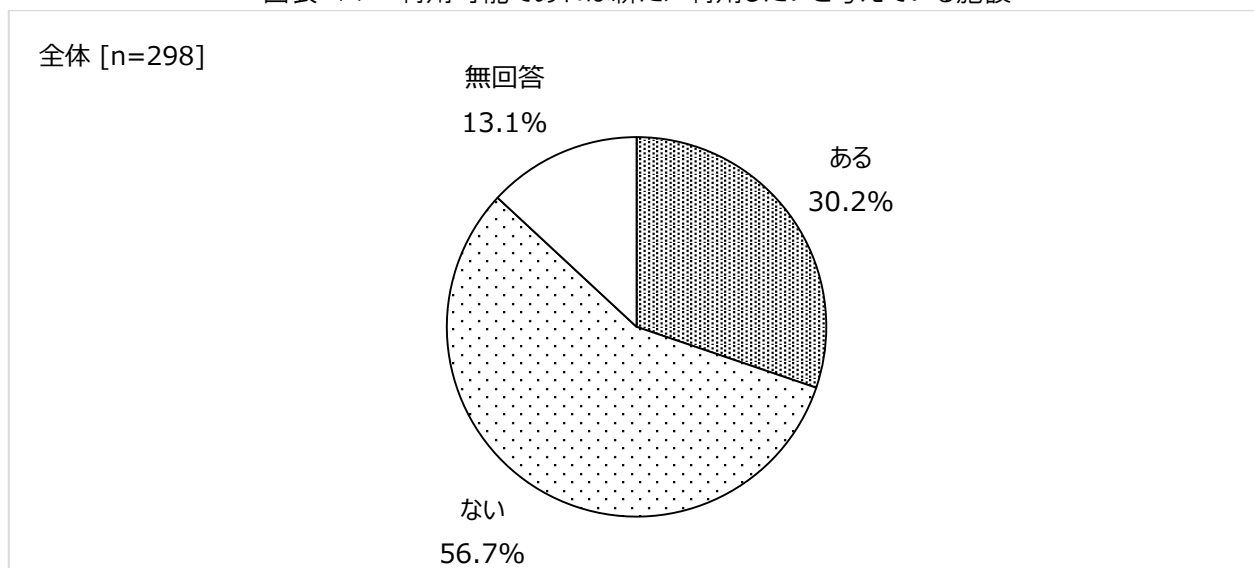
主な利用対象	合計	開催頻度（月当たりの開催日数）						
		月1回未満	月1回	月2回	月3回	月4回	月5回以上	無回答
合計 [n=332]	332	13	86	27	7	56	110	33
	100.0	3.9	25.9	8.1	2.1	16.9	33.1	9.9
どなたでも [n=104]	104	3	33	13	4	10	26	15
	100.0	2.9	31.7	12.5	3.8	9.6	25.0	14.4
子ども [n=61]	61	2	9	2	0	6	39	3
	100.0	3.3	14.8	3.3	0.0	9.8	63.9	4.9
親子 [n=37]	37	0	9	3	1	9	11	4
	100.0	0.0	24.3	8.1	2.7	24.3	29.7	10.8
高齢者 [n=59]	59	4	11	7	2	27	6	2
	100.0	6.8	18.6	11.9	3.4	45.8	10.2	3.4
その他 [n=54]	54	3	21	2	0	1	21	6
	100.0	5.6	38.9	3.7	0.0	1.9	38.9	11.1
無回答[n=17]	17	1	3	0	0	3	7	3
	100.0	5.9	17.6	0.0	0.0	17.6	41.2	17.6

## ③利用可能であれば新たに利用したいと考えている施設（問 11）

### (7)新たに利用したいと考えている施設

利用可能であれば新たに利用したいと考えている施設は、「ある」が30.2%、「ない」が56.7%となっている。

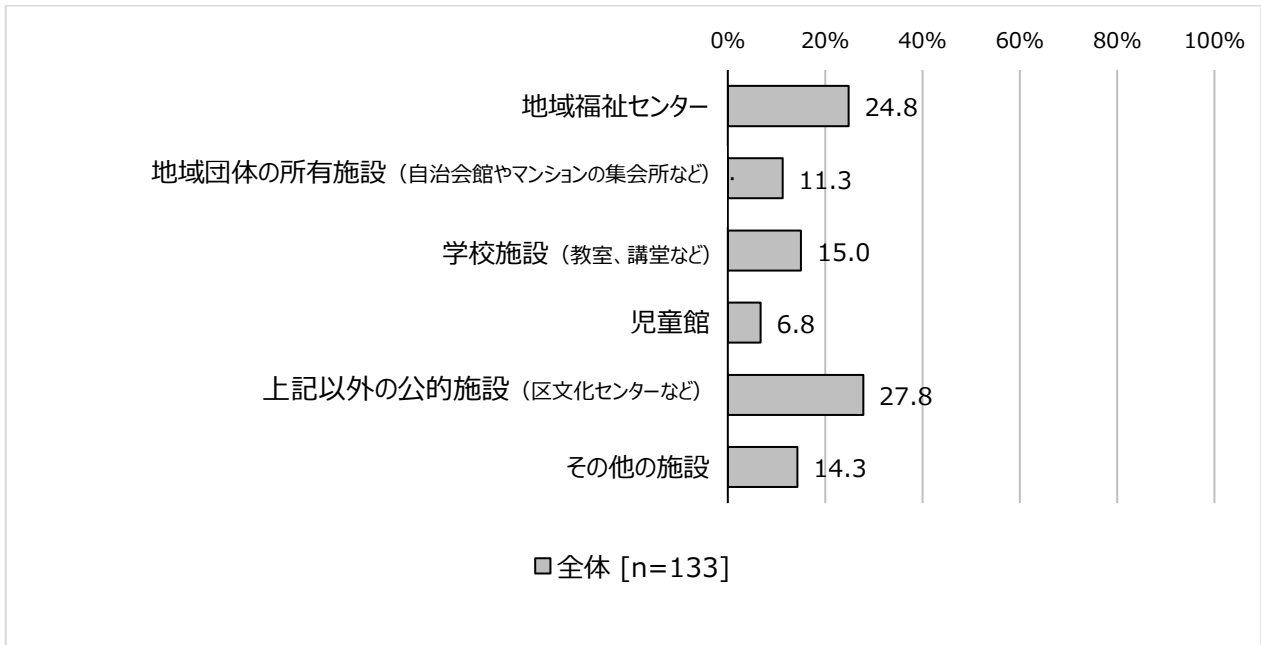
図表 14 利用可能であれば新たに利用したいと考えている施設



(イ) 新たに利用したいと考えている施設の種別

利用可能であれば新たに利用したいと考えている施設と回答のあった施設（133施設）の種別は、「公的施設（区文化センターなど）」が27.8%と最も多く、次いで「地域福祉センター」が24.8%などとなっている。

図表 15 利用可能であれば新たに利用したいと考えている施設の種別〔複数回答〕



(ウ) 新たに利用したいと考えている施設で考えている活動内容

今後、利用可能であれば新たに利用したいと考えている施設において考えている活動として、次のような活動があげられた。

図表 16 新たに利用したい施設で考えている活動内容

利用したい施設	考えている活動内容 (例)
地域福祉センター	地域の方々との交流イベント、1人ぐらしの方の交流、子ども食堂、子育て、学習支援、学童保育、こどもの居場所づくり、保護者会、クリスマス会、多文化共生 (外国のお菓子づくりなど)、体操、趣味活動、ペット相談会、就活セミナー、料理会、多世代食堂、映画会、プログラミング教室、応急手当普及活動、ボランティア交流会、研修
地域団体の所有施設	地域の方々との交流、スポーツ教室、折り紙教室、踊り、コーラス、調理、こども・若者の居場所づくり、スマホ教室、ペット相談会、研修会
学校施設	講演、昔あそびなど交流事業、紙芝居、動物とふれあえるイベント、音楽活動 (コンサート)、ドローンリテラシー講座、バスケットボール教室、プール遊び、競泳、野球教室、放課後学習、学童保育、こども居場所づくり、校内フリースクール、こども食堂、放課後外国籍子ども向け補講 (母国語による)
児童館	百人一首、こども食堂、学習支援、学童保育
公的施設	作品展、ダンス練習、幼児教室、子ども向けの環境学習、こども食堂、学習支援、フードバンクの倉庫、高齢者対象の運動会、視覚障がいの理解啓発のイベント、応急手当普及活動、マンション管理組合対象の相談会やセミナー、教師向け学習会、外国籍の方の集団就職セミナー、ボランティア活動の定例会、会議、講演、研修
その他	クリスマス会等各種イベント、こども食堂、寺子屋塾、学習支援、児童の野外活動、保護犬のふれあい会、障がい児をもつ家族の交流会、応急手当普及活動、会議



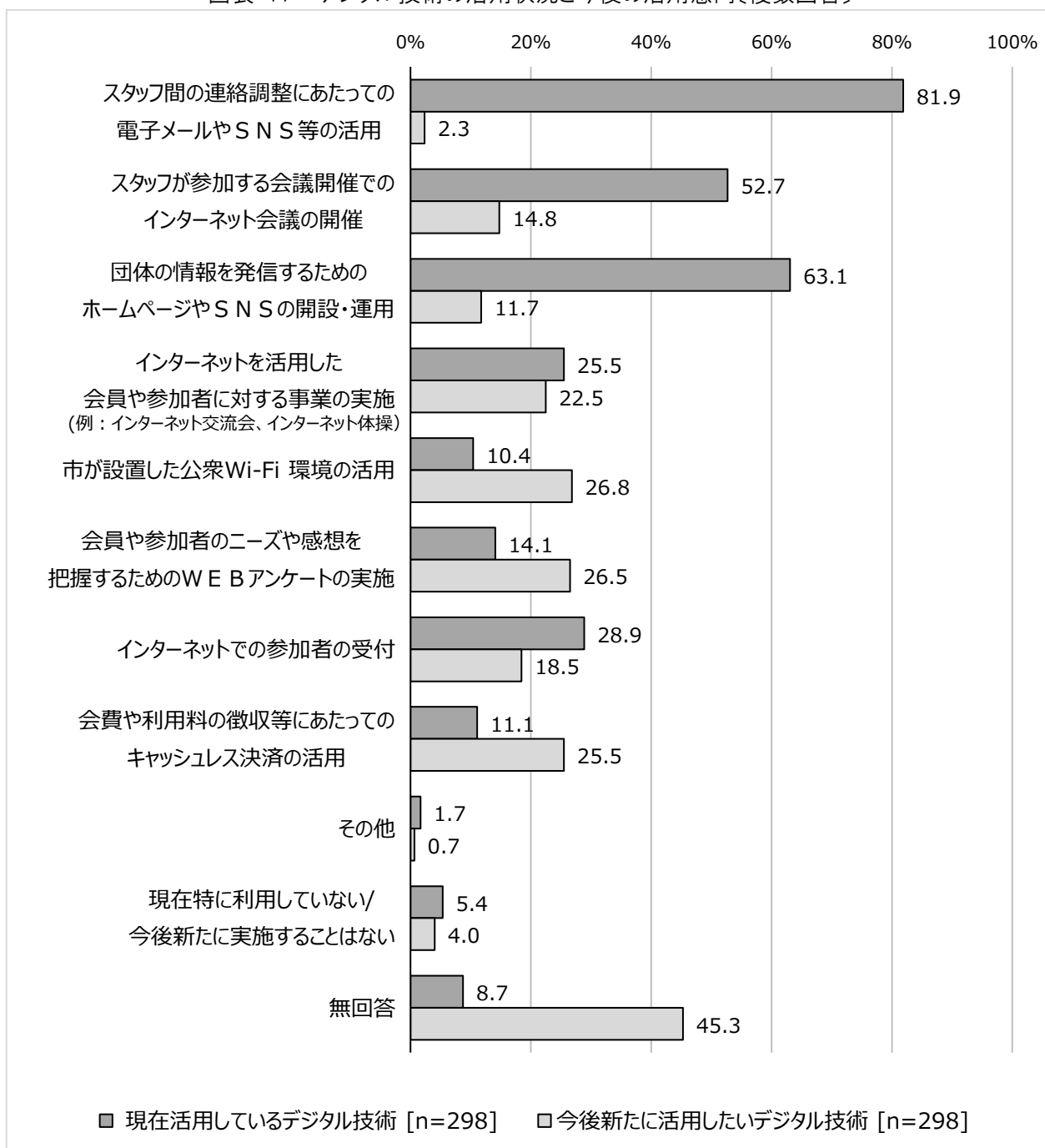
## (4) デジタル技術の活用

### ① デジタル技術の活用状況と今後の活用意向（問 14）

現在活用しているデジタル技術は、「スタッフ間の連絡調整にあたっての電子メールやSNS等の活用」が81.9%と最も多く、次いで「団体の情報を発信するためのホームページやSNSの開設・運用」が63.1%、「スタッフが参加する会議開催でのインターネット会議の開催」などが52.7%となっている。

今後新たに活用したいデジタル技術は、「市が設置した公衆Wi-Fi 環境の活用」が26.8%と最も多く、次いで、「会員や参加者のニーズや感想を把握するためのWEBアンケートの実施」が26.5%、「会費や利用料の徴収等にあたってのキャッシュレス決済の活用」が25.5%などとなっている。

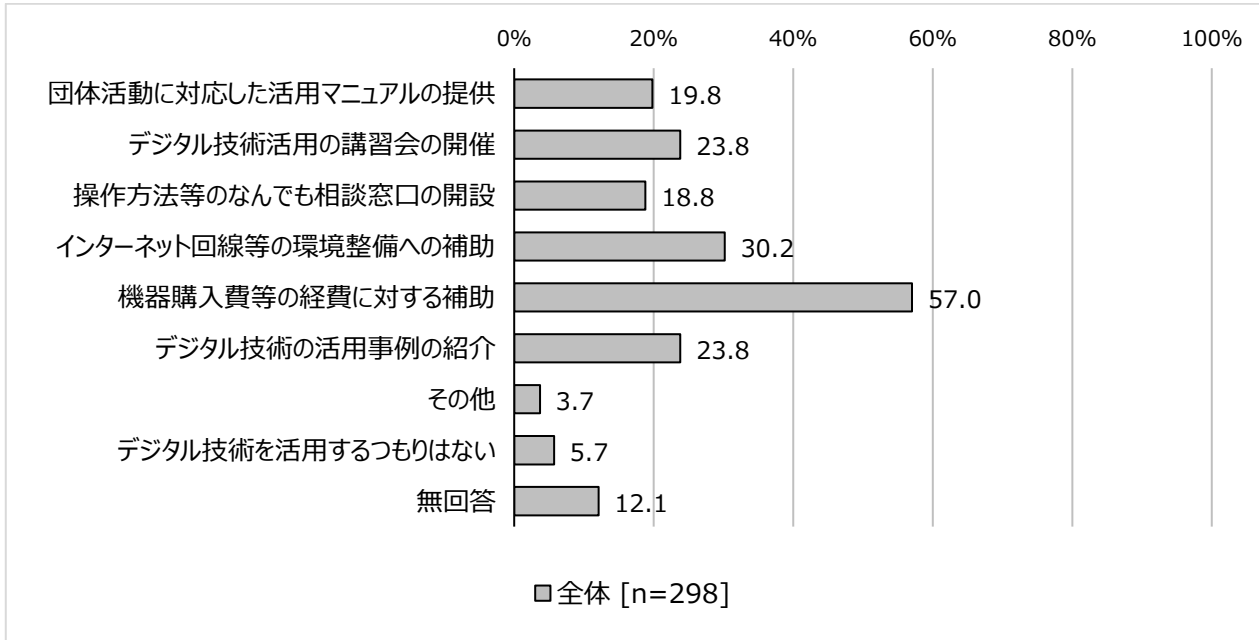
図表 17 デジタル技術の活用状況と今後の活用意向〔複数回答〕



## ② デジタル技術活用のために市に求める支援（問 15）

デジタル技術活用のために市に求める支援は、「機器購入費等の経費に対する補助」が57.0%と最も多く、次いで「インターネット回線等の環境整備への補助」が30.2%、「デジタル技術活用の講習会の開催」と「デジタル技術の活用事例の紹介」が23.8%などとなっている。

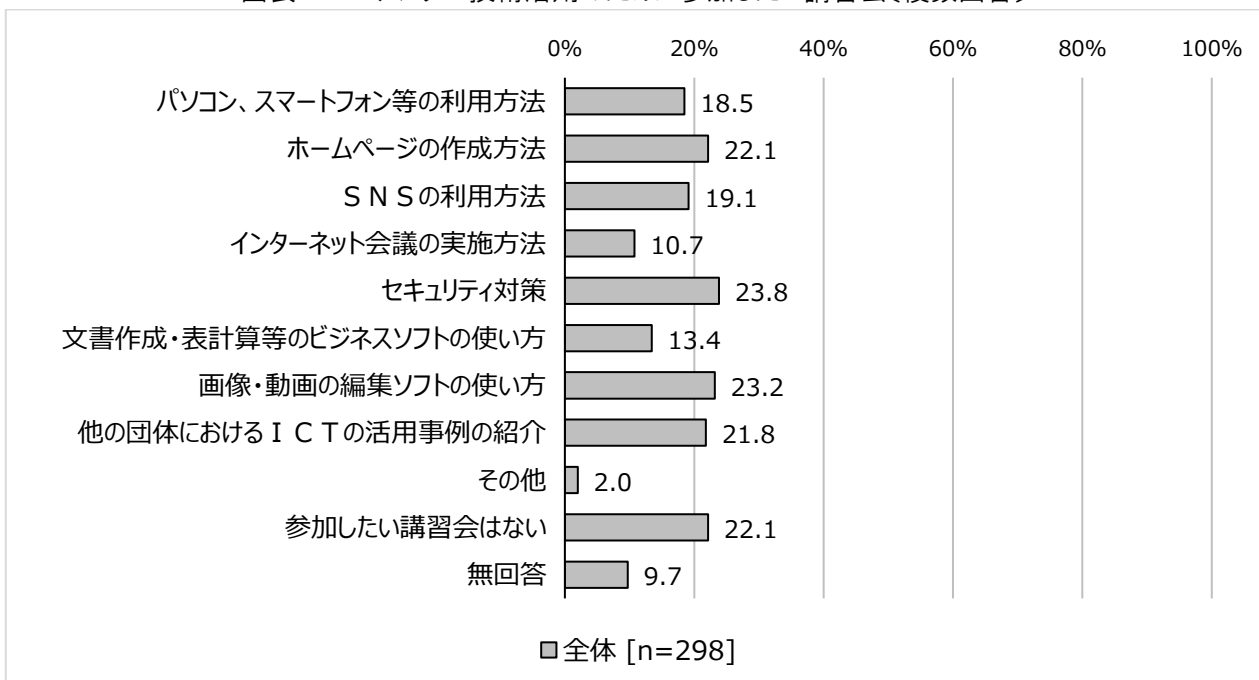
図表 18 デジタル技術活用のために市に求める支援〔複数回答〕



## ③ デジタル技術活用のために参加したい講習会（問 16）

デジタル技術活用のために参加したい講習会は、「セキュリティ対策」が23.8%と最も多く、次いで「画像・動画の編集ソフトの使い方」が23.2%、「ホームページの作成方法」と「参加したい講習会はない」が22.1%などとなっている。

図表 19 デジタル技術活用のために参加したい講習会〔複数回答〕



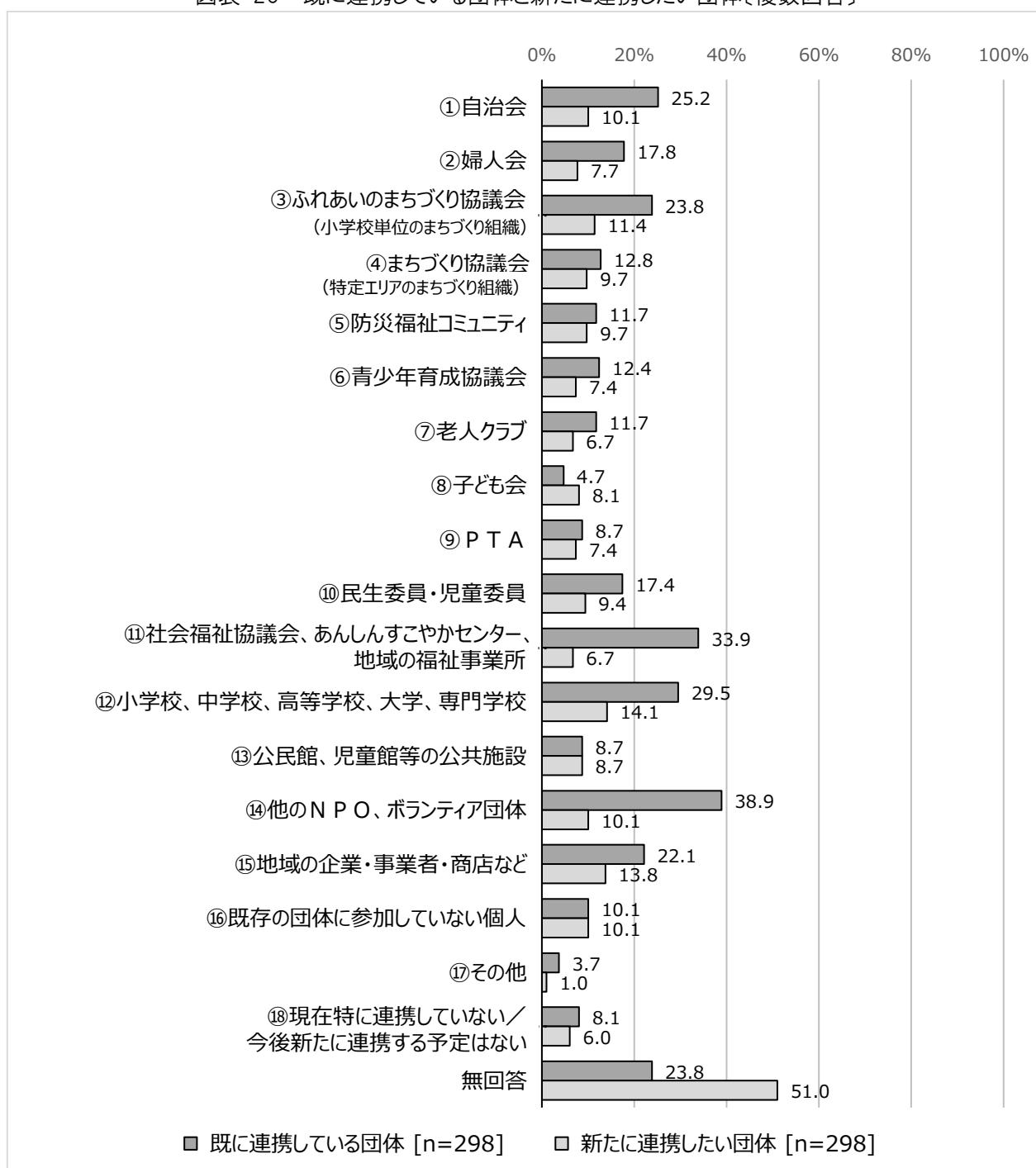
## (5) 他団体との連携

### ①他団体との連携の状況（問 18）

既に連携している団体は、「⑭他のNPO、ボランティア団体」が38.9%と最も多く、次いで「⑪社会福祉協議会、あんしんすこやかセンター、地域の福祉事業所」が33.9%、「⑫小学校、中学校、高等学校、大学、専門学校」が29.5%などとなっている。

新たに連携したい団体は、「⑫小学校、中学校、高等学校、大学、専門学校」が14.1%と最も多く、次いで「⑮地域の企業・事業者・商店など」が13.8%、「③ふれあいのまちづくり協議会」が11.4%などとなっている。

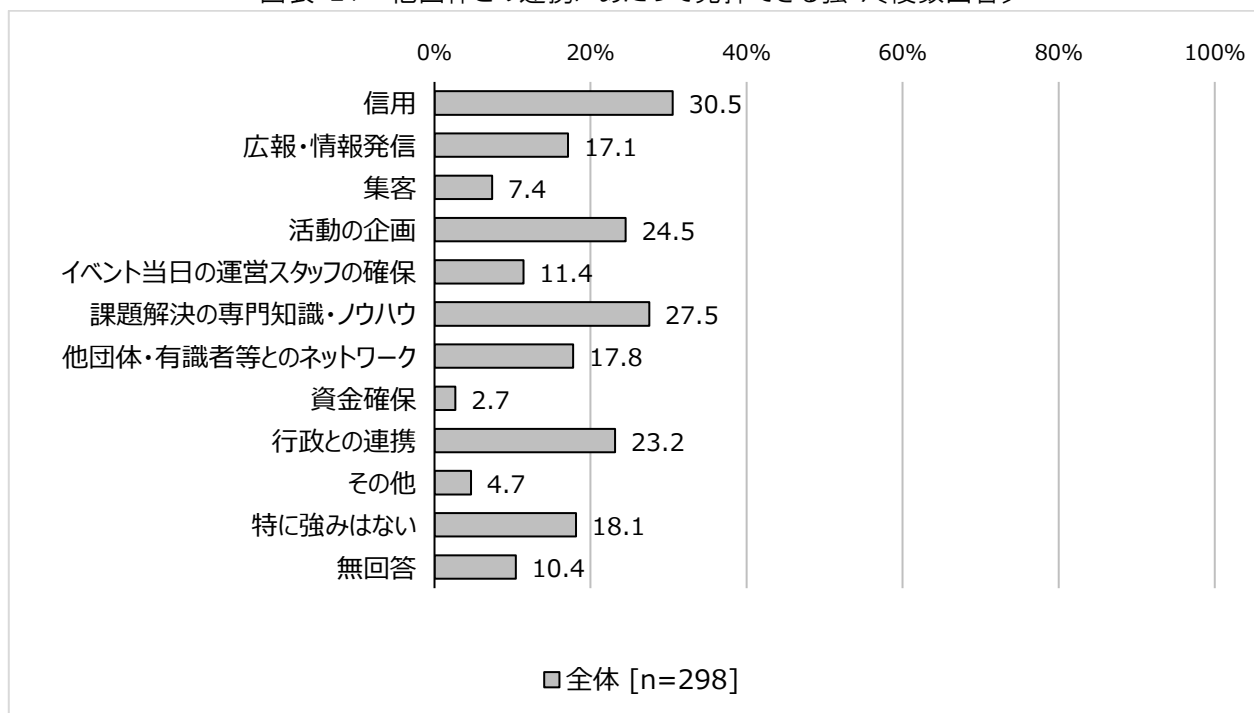
図表 20 既に連携している団体と新たに連携したい団体〔複数回答〕



## ②他団体との連携にあたって発揮できる強み（問 19）

他団体との連携にあたって発揮できる強みは、「信用」が30.5%と最も多く、次いで「課題解決の専門知識・ノウハウ」が27.5%、「活動の企画」が24.5%などとなっている。

図表 21 他団体との連携にあたって発揮できる強み〔複数回答〕



## ③他団体と連携した取組事例（問 20）

他団体と連携した取組として、次のような取組事例があげられた。

図表 22 他団体と連携した取組事例

連携先	連携内容（例）
自治会	お祭り、文化祭、認知症予防活動、防災学習、地域清掃
婦人会	民踊春まつり、介護予防教室、消費者学級、新聞エコバッグ教室、エコサークル
ふれまち協	夏まつり、文化祭、ハロウィン、クリスマス会、もちつき、ふれあい喫茶、料理教室、子育て支援、学童保育の長期休み（夏休み等）の昼食提供、おもちゃ病院、クッキーケーキ販売を通じた障害理解、交通安全教室、避難訓練、難病患者への災害支援、イルミネーション、野菜販売
まちづくり協議会	プログラミング教室、清掃活動
防災福祉コミュニティ	防災訓練
青少年育成協議会	夏まつり、盆踊りの練習、クリスマス会、七夕など伝統的行事、交通安全教室、メディアセミナー
老人クラブ	輪投げ、グラウンドゴルフ大会
子ども会	スポレク事業
民生・児童委員	夏まつり、クリスマス会、子育て交流、WEBでのひろば開催、交通安全教室、研修講師

連携先	連携内容（例）
社協、福祉施設等	フードドライブ、農園作業、黒枝豆収穫体験、アート企画、児童館巡回支援、成年後見制度の普及・相談、共同販売バザー、福祉自主製品販売会、募金百貨店プロジェクトへの参加、保護犬ふれあい会、施設へ入所される方のペットの保護、ごみ出し困難世帯の紹介、特例子会社立ち上げの経験からの助言、こども相談における専門職とのネットワーク作り、ボランティアグループの立ち上げ支援、勉強会
学校	園児との交流、絵本の配布、ふれあい給食への児童・園児の参加、盆おどりの講習、学童保育、近隣小学校の自然観察教育、野菜販売、トライやるウィークの受け入れ、インターンの受け入れ、国内外の様々な地域の学校をつないだオンライン交流会、ビオトープ、バタフライガーデンの造成、自然体験、伝統行事への参加、国際交流会、多文化共生についての講義・ワークショップ・インターシップの受入、地域コミュニティ道路の美化、地域資源を生かした地域活性化事業、職員研修での講師
公民館、児童館等	給食サービス、出前エコ講座
他のNPO等	絵本の配布、WEBでのひろば開催、お困りごと・家事援助、成年後見制度の普及・相談、公園の運営・設備およびイベント、炭焼き窯の製作・設置、防災動画へのバリアフリー字幕の作成協力、外国人労働者の相談、東日本大震災の支援活動、チャリティーウォーク
事業者・商店	体力測定会、フードドライブ、ゴミ出し困難世帯の紹介、環境保全活動の支援、経営の情報交換、契約書の確認、自動走行・ラストスマイルなどの実証実験、商品パッケージの開発（ユニバーサルデザイン）

#### ④ 他団体と連携して実現したいこと（アイデア）（問 21）

他団体と今後連携して実現したいこと（アイデア）として次のような回答があげられた。

図表 23 他団体と連携して実現したいこと(アイデア)

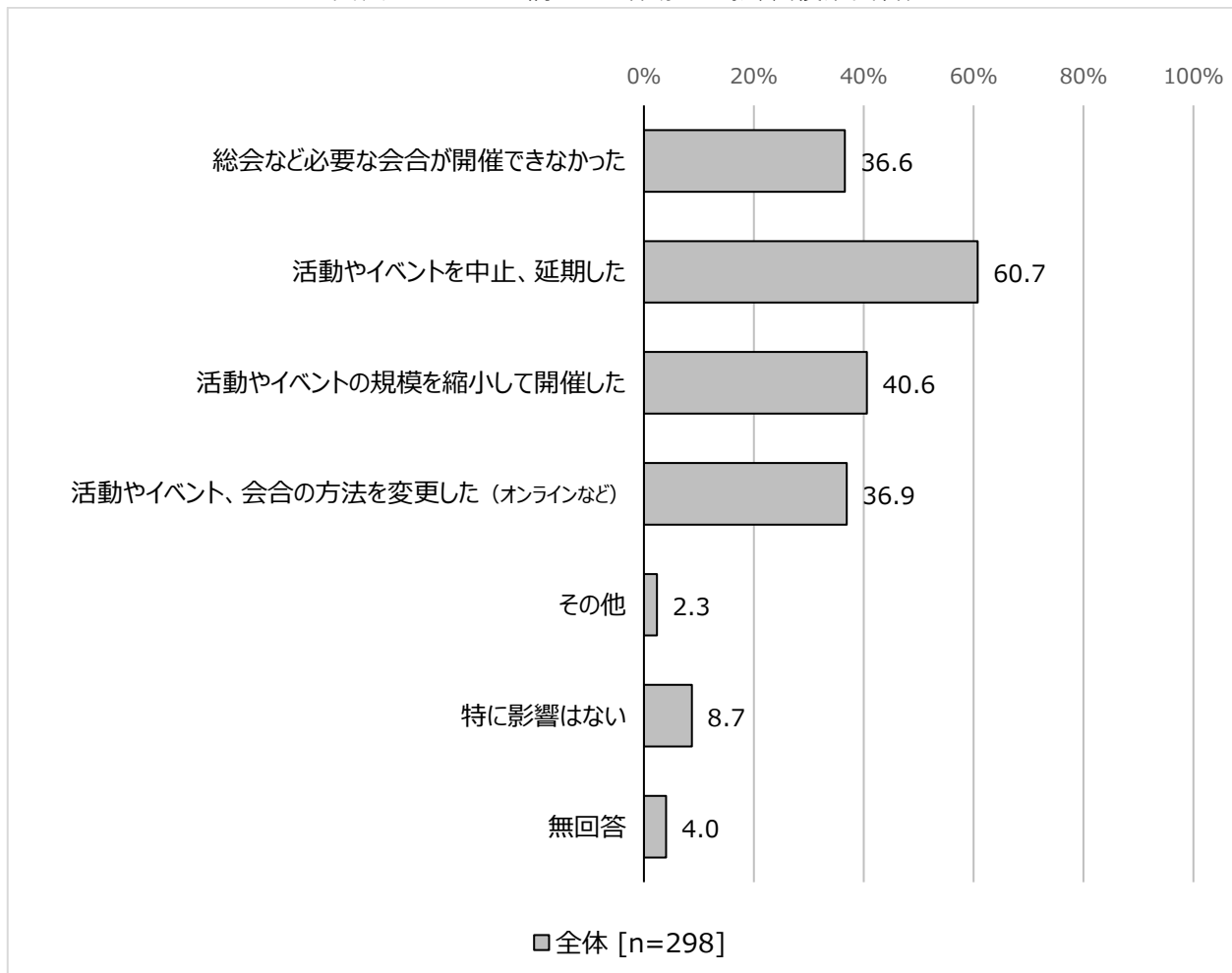
連携したい相手	連携して実現したいこと（アイデア）（例）
自治会	お祭り、セミナー開催、多文化共生、防災学習、里山整備、動画へのバリアフリー字幕の追加、クッキーケーキ販売を通じた障害理解
ふれまち協	メディカルアロマを使った健康づくり、居場所づくり、防災食の備蓄、災害時の難病への理解、AEDの普及、地域福祉センターの管理
まちづくり協議会	イベント
老人クラブ	フレイル教室、グランドゴルフ大会
子ども会	軽度の障害児、とじこもりの子どものための居場所づくり
民生・児童委員	ふれあい教室、地域外国人居住者への意識調査
社協、福祉施設等	絵本の出版と配布、子どもの貧困、障害児童デイ、障がいをもつ子どもへの療育的プログラム、強度行動障害への対応研修、地域福祉の視点の中に外国人住民を組み入れる
学校	子どもの学習支援、学校での「こども食堂」開催、再エネの普及、ゴミ出しサポート、通学前のボランティア、若い大学生のアイデアでイベントを開催、さい帯血バンクの活動紹介、メンタルヘルス教育
公民館、児童館等	伝統文化教室
NPO等	絵本の出版と配布、お困りごとや家事援助の協力、フレイル教室の開催、竹の利用・炭焼き
事業者・商店	トライやる・ウィーク受入先の拡充、男性の家事育児の参画、防災学習、地域運営支援アプリの開発
個人	写真展、学校の居場所のボランティア

## (6) 活動を進めていくための課題

### ① コロナ禍による活動への影響（問 12）

コロナ禍による活動への影響は、「活動やイベントを中止、延期した」が60.7%と最も多く、次いで「活動やイベントの規模を縮小して開催した」が40.6%、「活動やイベント、会合の方法を変更した(オンラインなど)」が36.9%などとなっている。

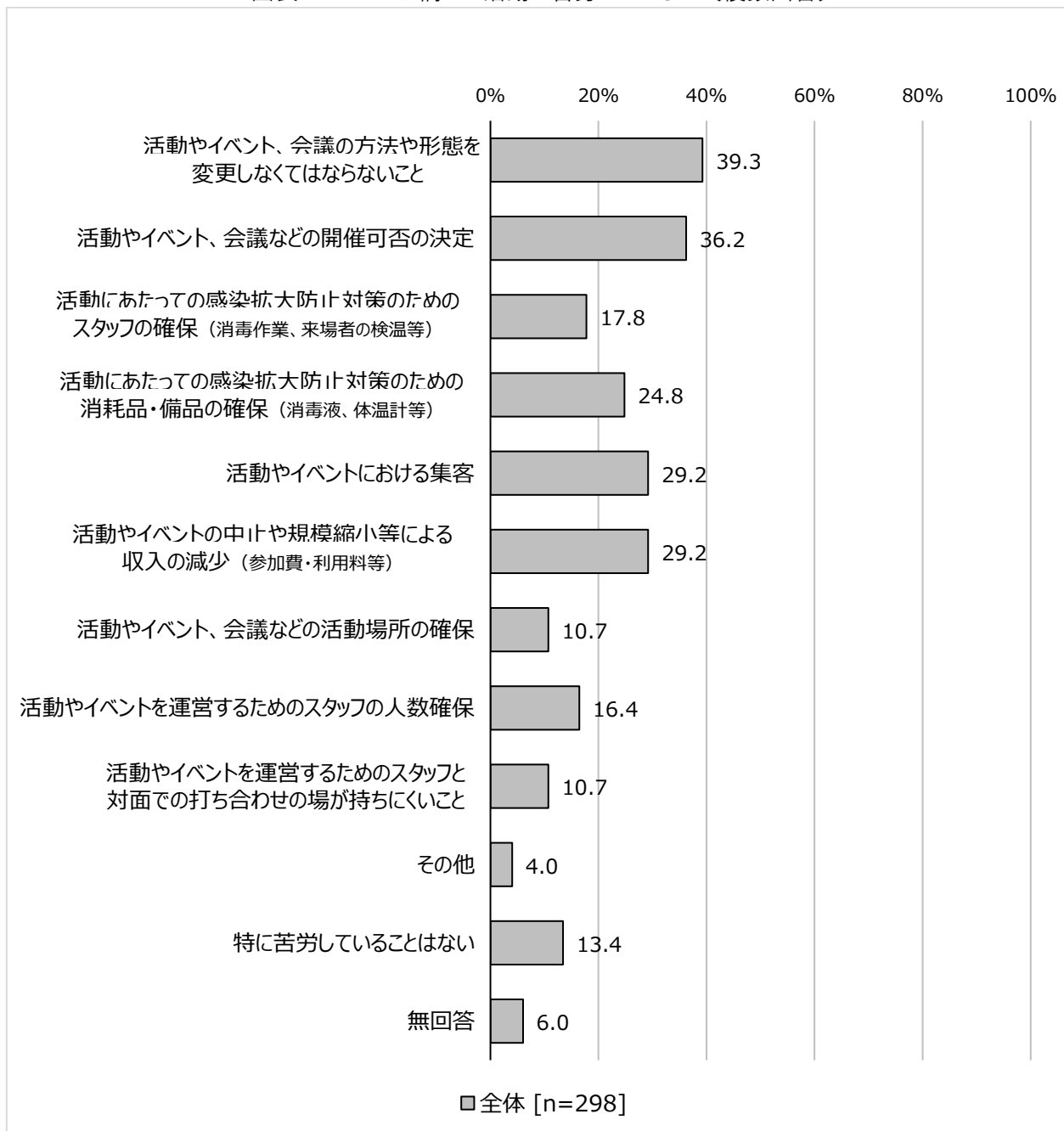
図表 24 コロナ禍による活動への影響〔複数回答〕



## ②コロナ禍での活動で苦労していること（問 13）

コロナ禍での活動で苦労していることは、「活動やイベント、会議の方法や形態を変更しなくてはならないこと」が39.3%と最も多く、次いで「活動やイベント、会議などの開催可否の決定」が36.2%、「活動やイベントにおける集客」と「活動やイベントの中止や規模縮小等による収入の減少（参加費・利用料等）」が29.2%などとなっている。

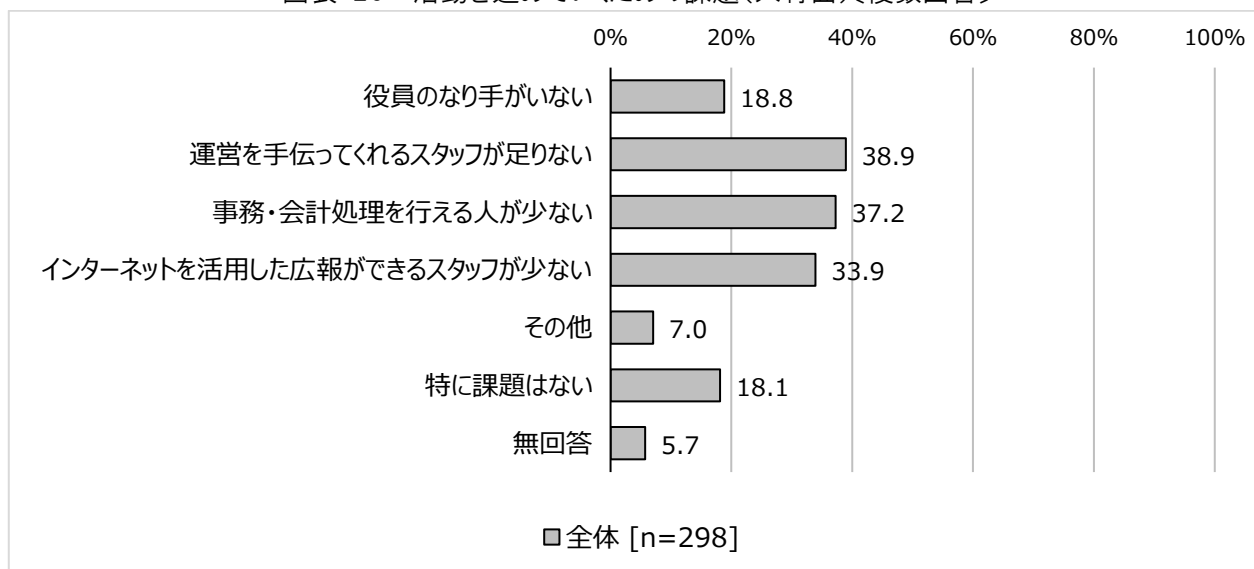
図表 25 コロナ禍での活動で苦労していること〔複数回答〕



### ③活動を進めていくための課題（人材面）（問 17①）

活動を進めていくための課題（人材面）は、「運営を手伝ってくれるスタッフが足りない」が38.9%と最も多く、次いで「事務・会計処理を行える人が少ない」が37.2%、「インターネットを活用した広報ができるスタッフが少ない」が33.9%などとなっている。

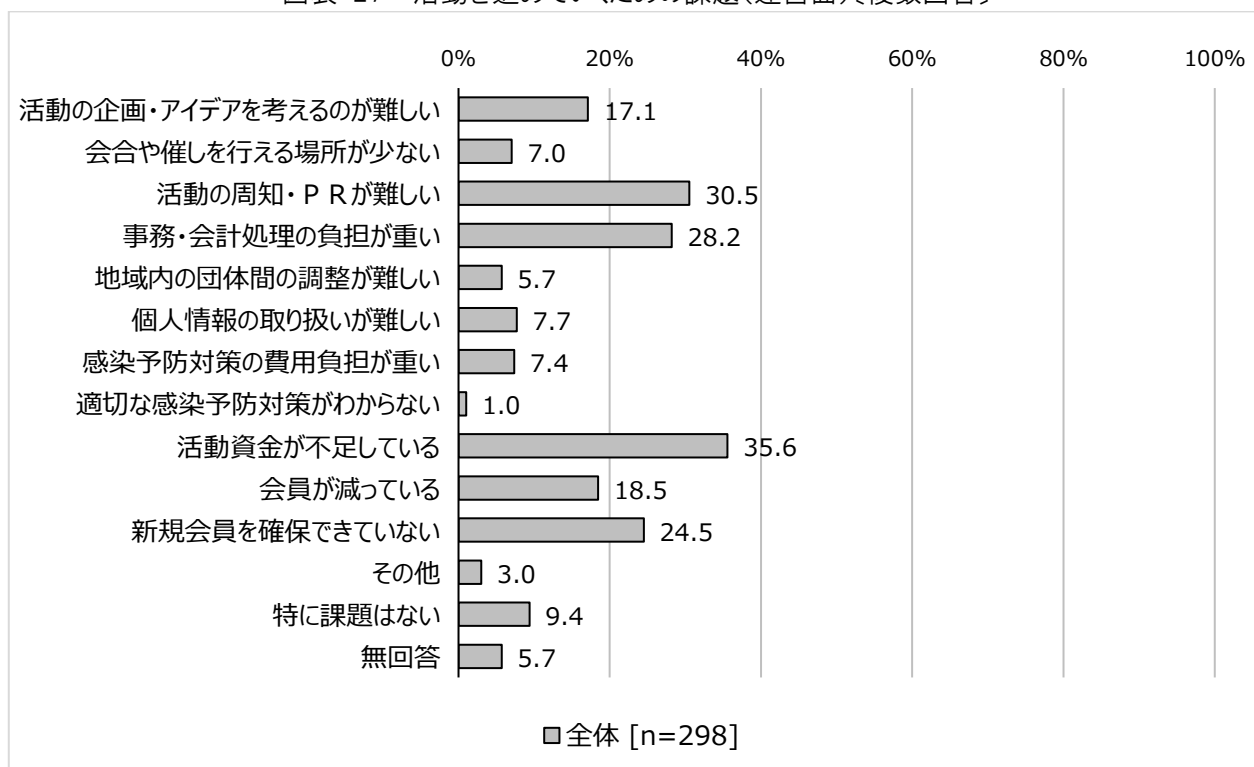
図表 26 活動を進めていくための課題（人材面）〔複数回答〕



### ④活動を進めていくための課題（運営面）（問 17②）

活動を進めていくための課題（運営面）は、「活動資金が不足している」が35.6%と最も多く、次いで「活動の周知・PRが難しい」が30.5%、「事務・会計処理の負担が重い」が28.2%などとなっている。

図表 27 活動を進めていくための課題（運営面）〔複数回答〕

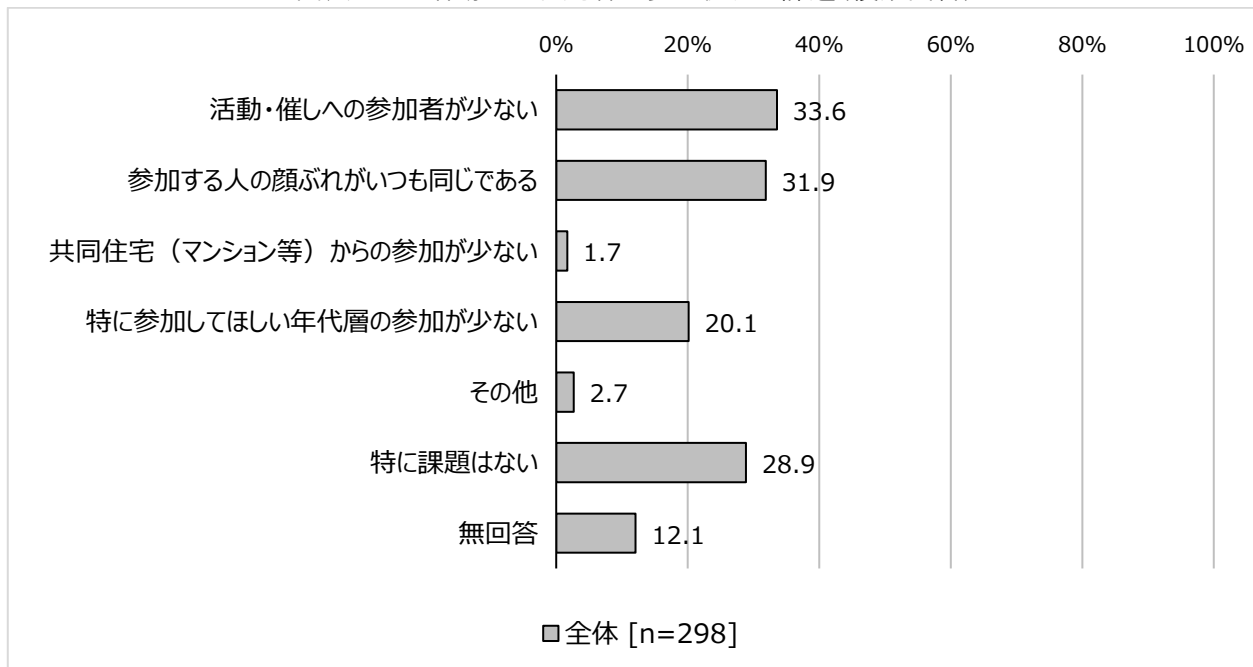




### ⑤活動への利用者の参加状況の課題（問 17③）

活動への利用者の参加状況の課題は、「活動・催しへの参加者が少ない」が33.6%と最も多く、次いで「参加する人の顔ぶれがいつも同じである」が31.9%、「特に課題はない」が28.9%などとなっている。

図表 28 活動への利用者の参加状況の課題〔複数回答〕

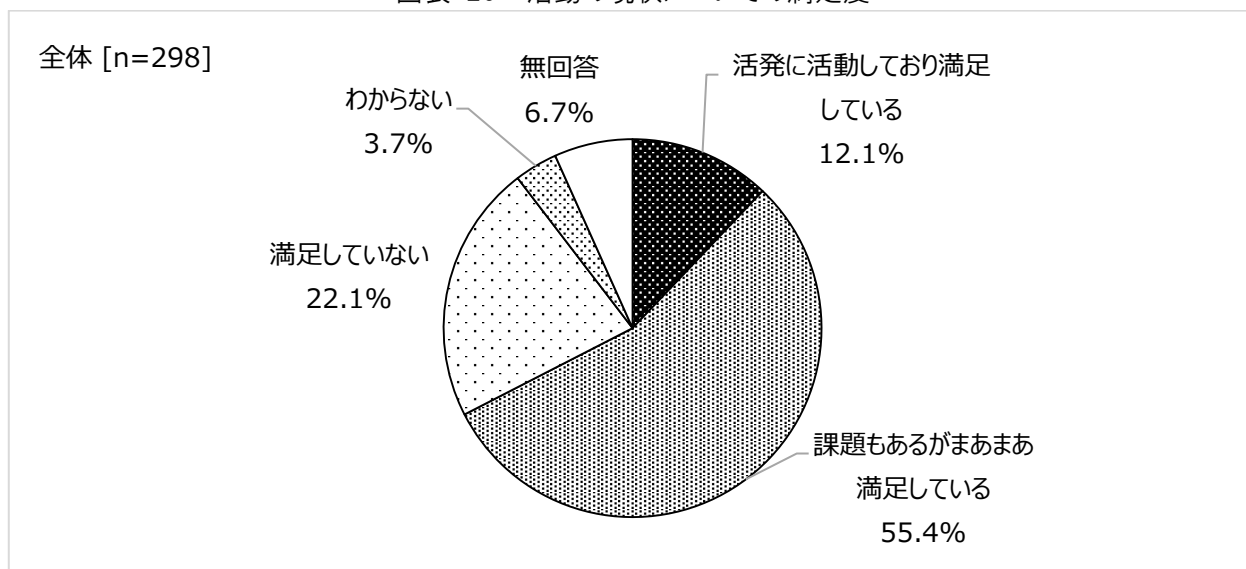


## (7) 今後の活動に向けて

### ①活動の現状についての満足度（問 22）

活動の現状についての満足度は、「課題もあるがまあまあ満足している」が55.4%と最も多く、次いで「満足していない」が22.1%、「活発に活動しており満足している」が12.1%などとなっている。

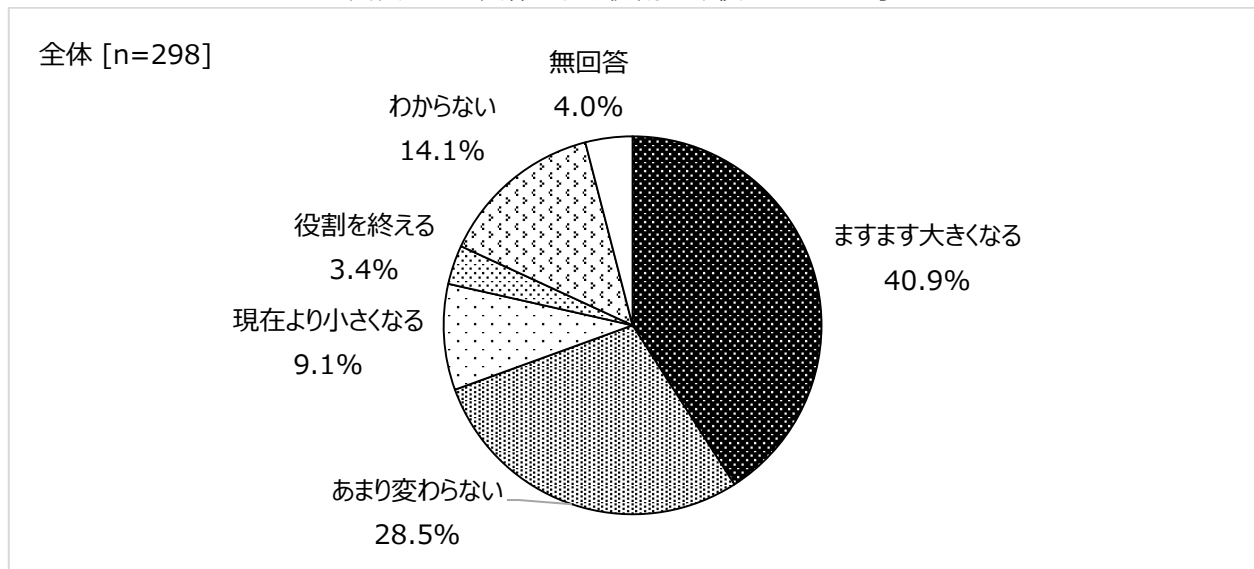
図表 29 活動の現状についての満足度



## ② 団体が担う役割の今後についての考え（問 23）

団体が担う役割の今後についての考えは、「ますます大きくなる」が40.9%と最も多く、次いで「あまり変わらない」が28.5%、「わからない」が14.1%などとなっている。

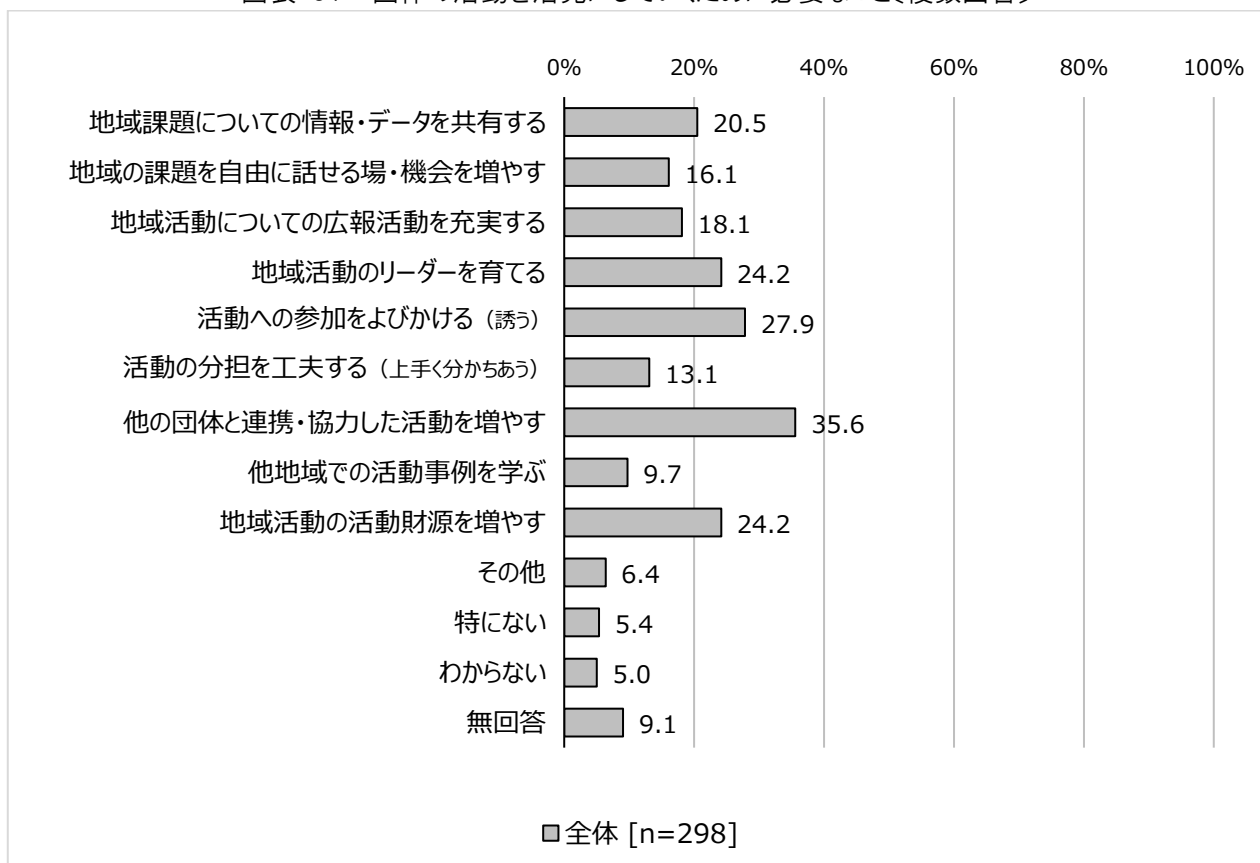
図表 30 団体が担う役割の今後についての考え



## ③ 団体の活動を活発にしていくために必要なこと（問 24）

団体の活動を活発にしていくために必要なことは、「他の団体と連携・協力した活動を増やす」が35.6%と最も多く、次いで「活動への参加をよびかける（誘う）」が27.9%、「地域活動のリーダーを育てる」と「地域活動の活動財源を増やす」が24.2%などとなっている。

図表 31 団体の活動を活発にしていくために必要なこと〔複数回答〕



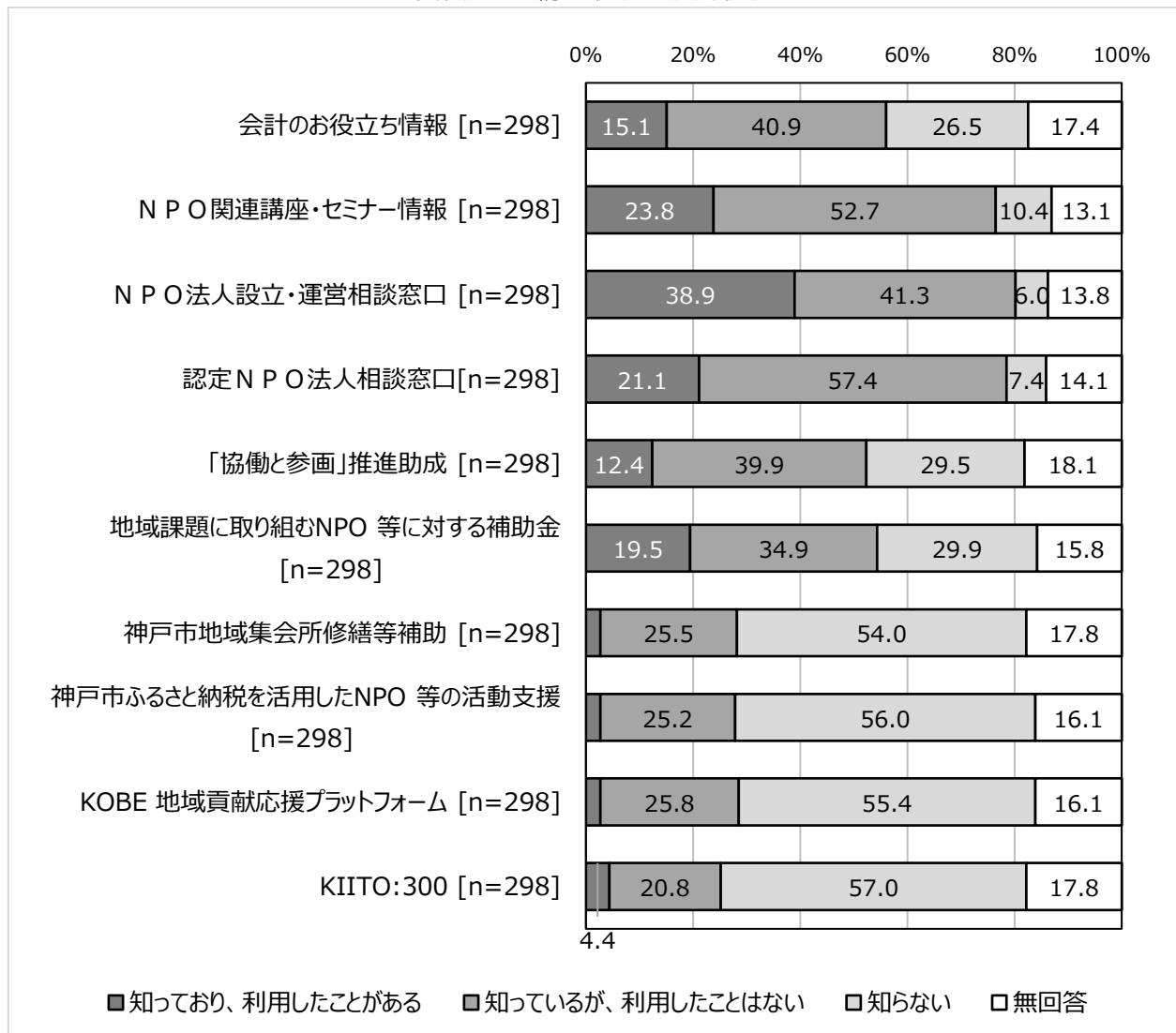
#### ④ NPO 支援に関わる神戸市の取り組みの認知状況や利用状況（問 26）

NPO支援に関わる神戸市の取り組みの認知状況や利用状況は、「知っており、利用したことがある」の割合が高いのは「NPO法人設立・運営相談窓口」の38.9%となっている。

「知っているが、利用したことはない」の割合が高いのは「認定NPO法人相談窓口」の57.4%となっている。

一方、「知らない」の割合が高いのは、「KIITO:300」や「神戸市ふるさと納税を活用したNPO等の活動支援」、「KOBE 地域貢献応援プラットフォーム」、「神戸市地域集会所修繕等補助」などで50%を上回っている。

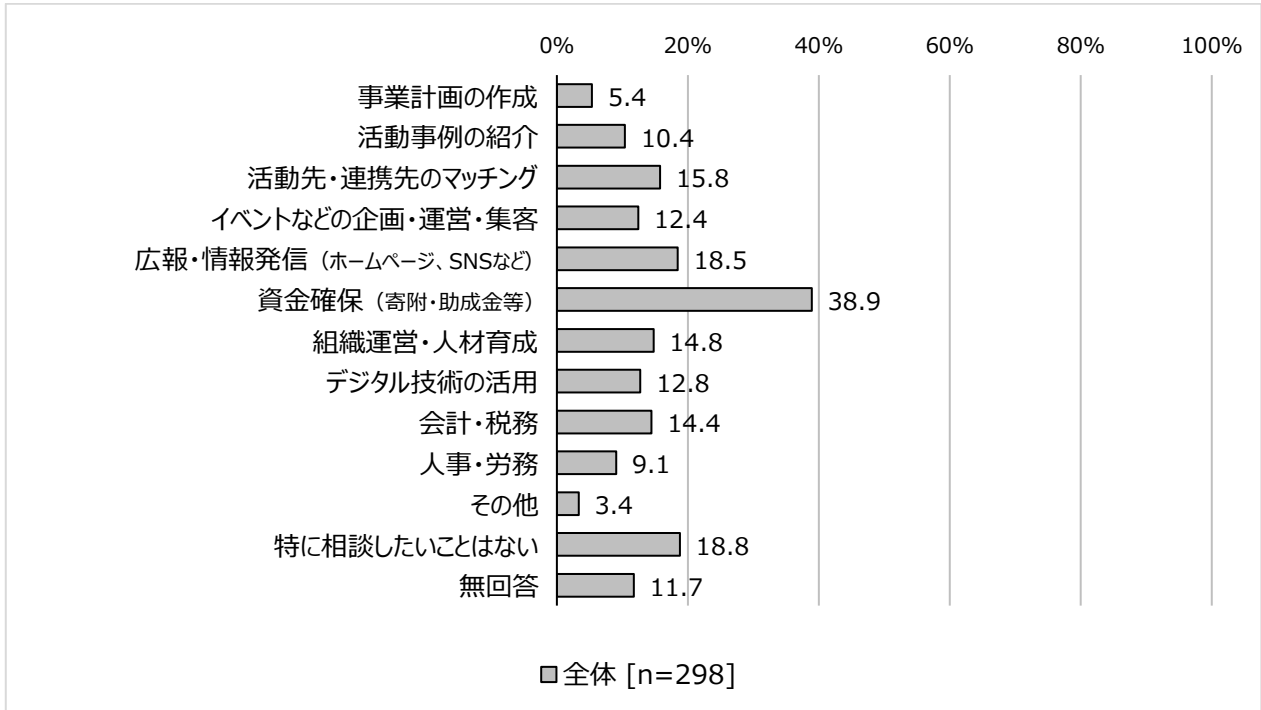
図表 32 認知状況や利用状況



### ⑤市に相談したいことや支援を希望すること（問 27）

市に相談したいことや支援を希望することは、「資金確保（寄附・助成金等）」が38.9%と最も多く、次いで「特に相談したいことはない」が18.8%、「広報・情報発信（ホームページ、SNSなど）」が18.5%などとなっている。

図表 33 市に相談したいことや支援を希望すること〔複数回答〕



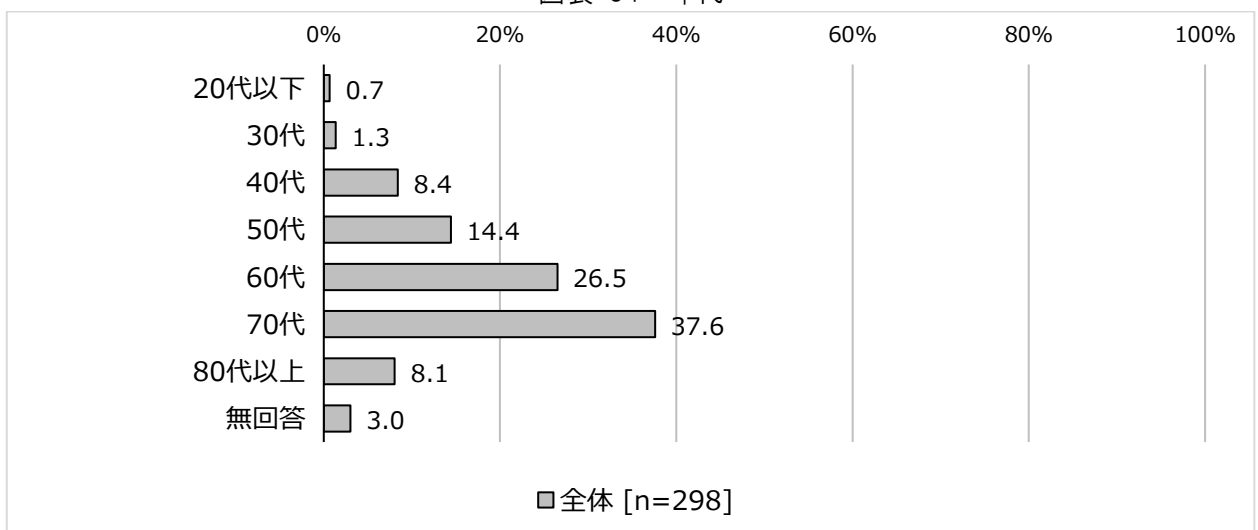
## (8) 代表の活動状況

### ①代表（回答者）の状況（問 34）

#### (7)年代

年代は、「70代」が37.6%と最も多く、次いで「60代」が26.5%、「50代」が14.4%などとなっている。

図表 34 年代



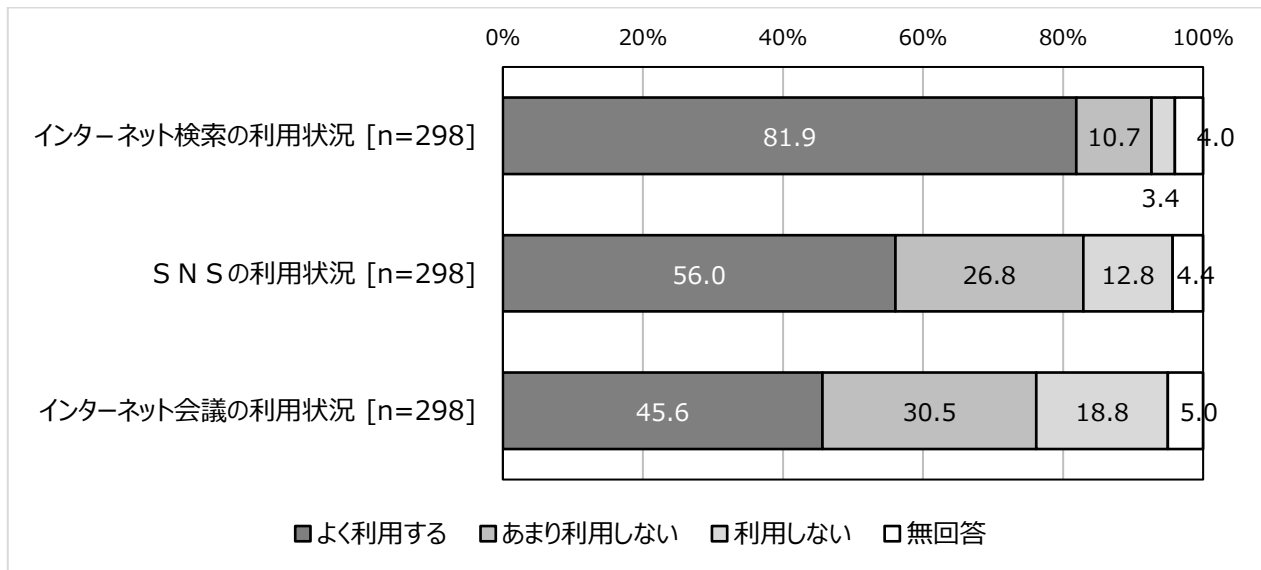
(4) インターネット等の利用状況

インターネット検索の利用状況は、「よく利用する」が81.9%と最も多く、次いで「あまり利用しない」が10.7%、「利用しない」が3.4%となっている。

S N Sの利用状況は、「よく利用する」が56.0%と最も多く、次いで「あまり利用しない」が26.8%、「利用しない」が12.8%となっている。

インターネット会議の利用状況は、「よく利用する」が45.6%と最も多く、次いで「あまり利用しない」が30.5%、「利用しない」が18.8%となっている。

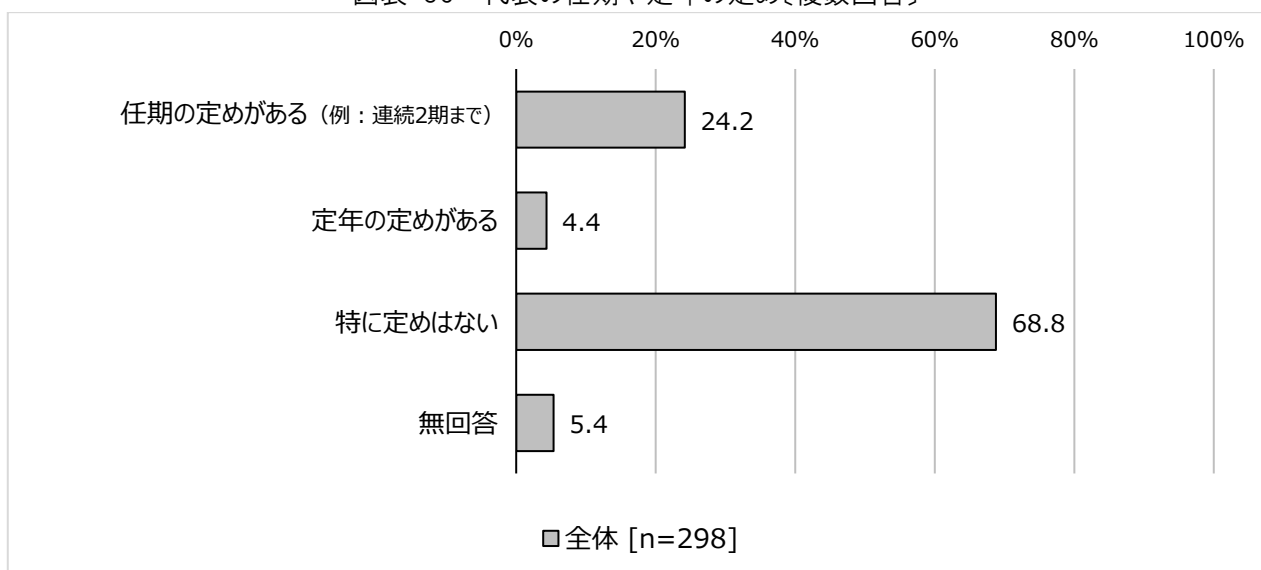
図表 35 インターネット等の利用状況



② 代表の任期や定年の定め（問 28）

代表の任期や定年の定めは、「特に定めはない」が68.8%と最も多く、次いで「任期の定めがある（例:連続2期まで）」が24.2%などとなっている。

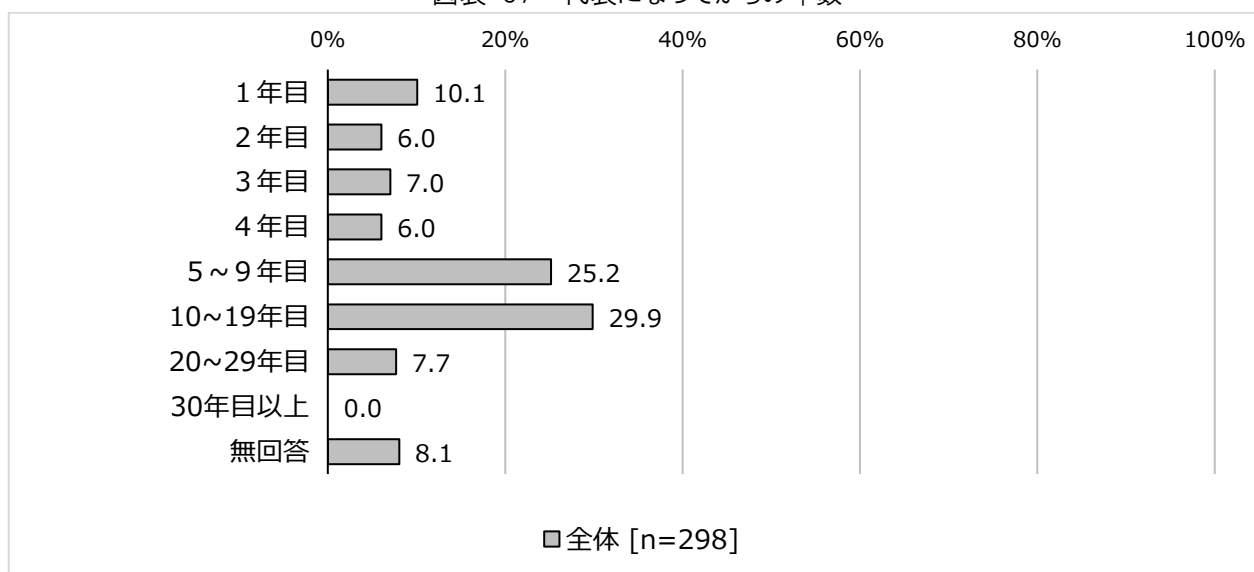
図表 36 代表の任期や定年の定め〔複数回答〕



### ③ 代表になってからの年数（問 29）

代表になってからの年数は、「10～19年目」が29.9%と最も多く、次いで「5～9年目」が25.2%、「1年目」が10.1%などとなっている。

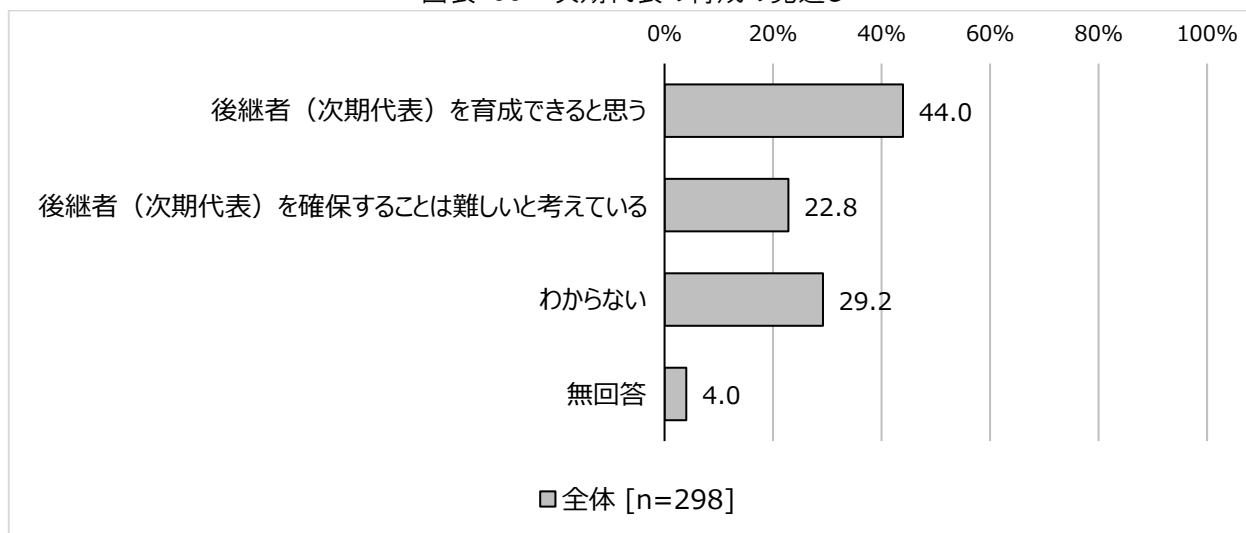
図表 37 代表になってからの年数



### ④ 次期代表の育成の見通し（問 30）

次期代表の育成の見通しは、「後継者（次期代表）を育成できると思う」が44.0%と最も多く、次いで「わからない」が29.2%、「後継者（次期代表）を育成することは難しいと考えている」が22.8%となっている。

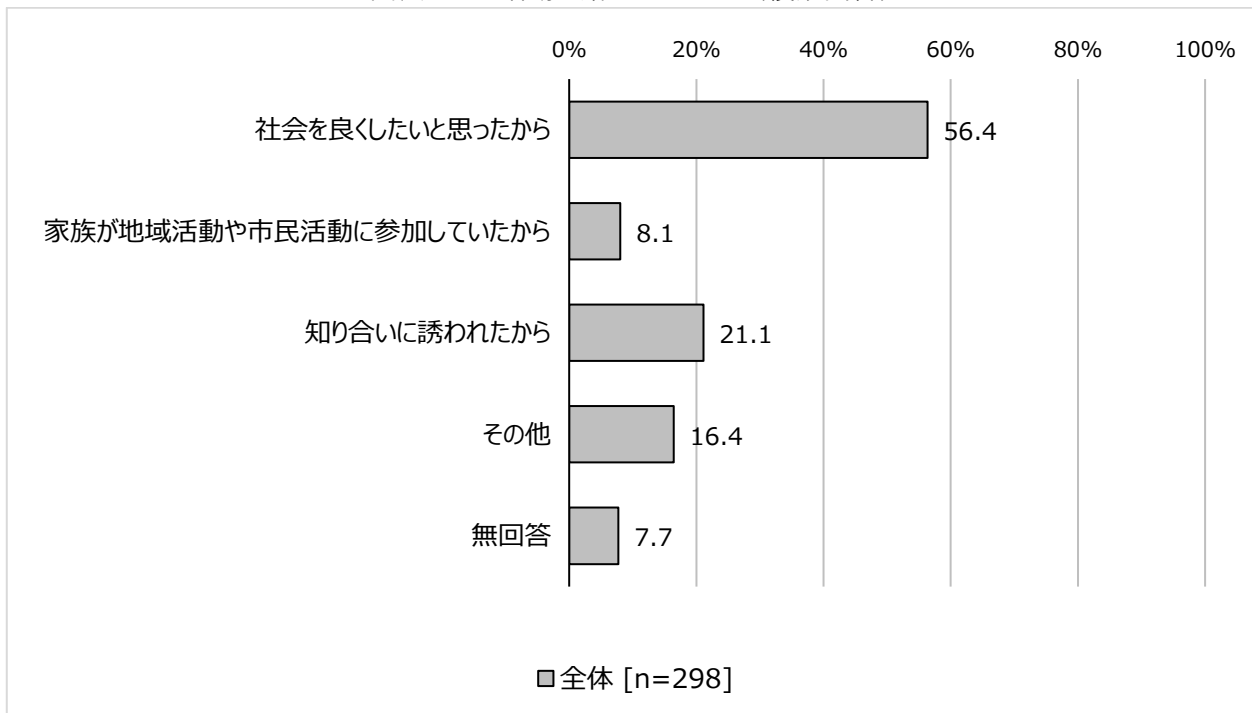
図表 38 次期代表の育成の見通し



### ⑤ 活動を始めたきっかけ（問 31）

活動を始めたきっかけは、「社会を良くしたいと思ったから」が56.4%と最も多く、次いで「知り合いに誘われたから」が21.1%、「その他」が16.4%などとなっている。

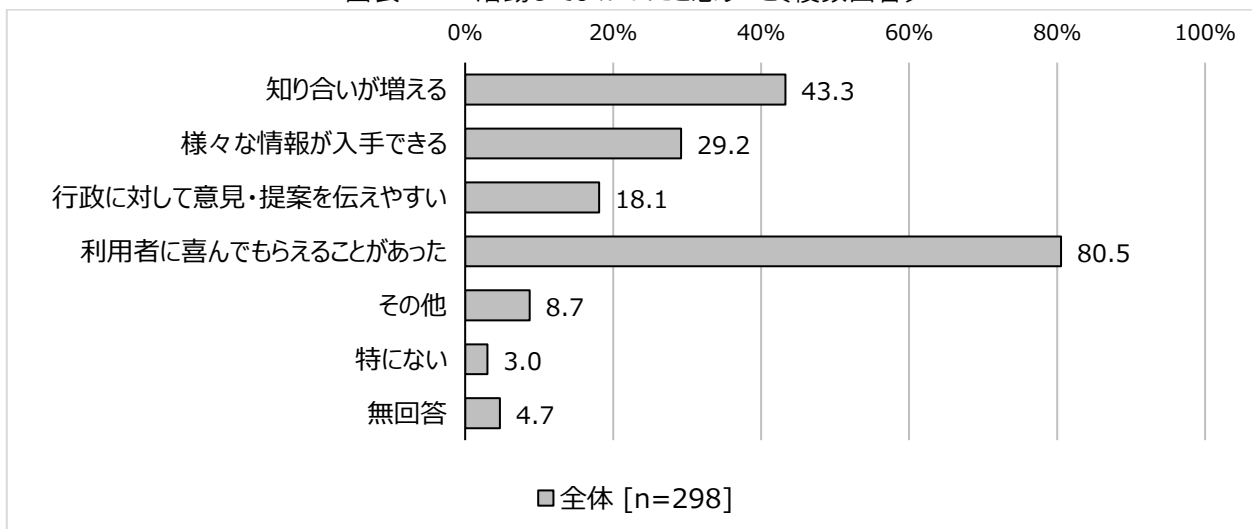
図表 39 活動を始めたきっかけ〔複数回答〕



### ⑥ 活動してよかったと思うこと（問 32）

活動してよかったと思うことは、「利用者に喜んでもらえることがあった」が80.5%と最も多く、次いで「知り合いが増える」が43.3%、「様々な情報が入手できる」が29.2%などとなっている。

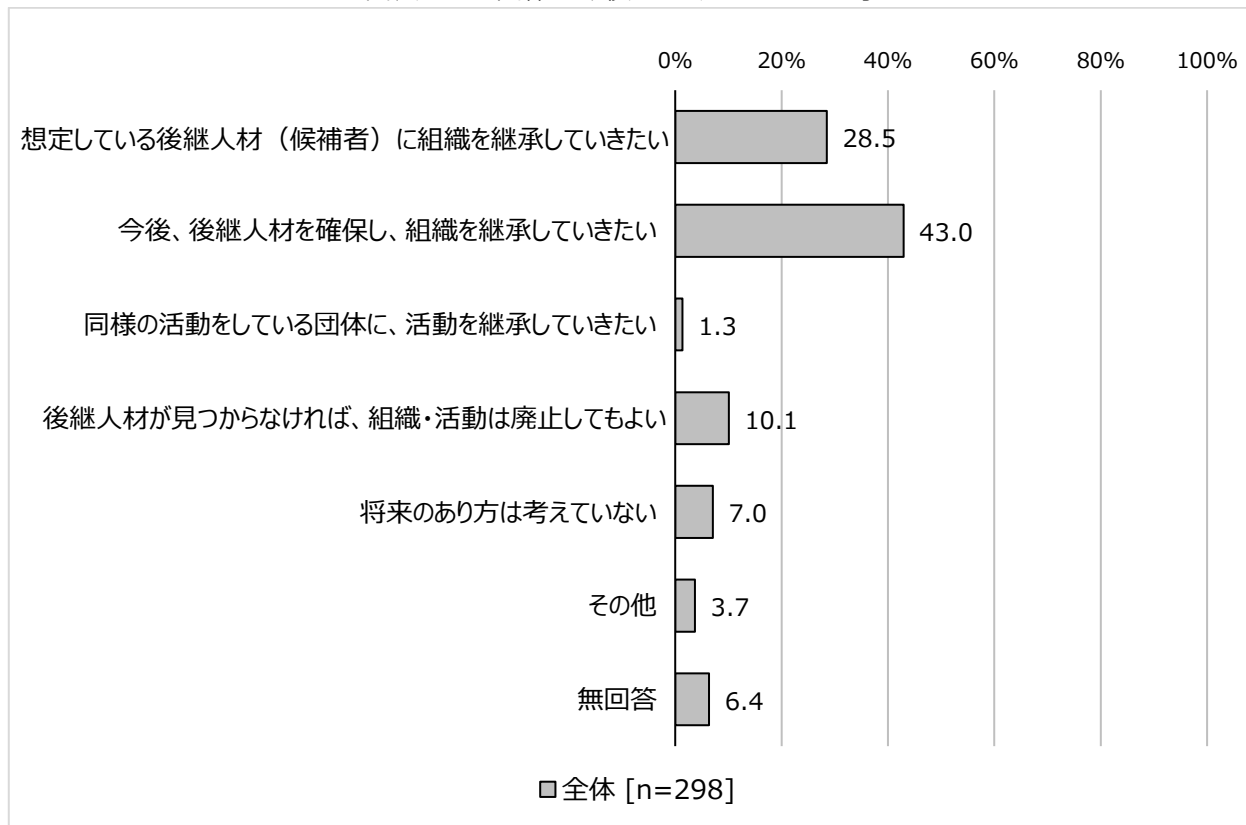
図表 40 活動してよかったと思うこと〔複数回答〕



### ⑦団体の今後のあり方についての考え(問 33)

団体の今後のあり方についての考えは、「今後、後継人材を確保し、組織を継承していきたい」が43.0%と最も多く、次いで「想定している後継人材(候補者)に組織を継承していきたい」が28.5%、「後継人材が見つからなければ、組織・活動は廃止してもよい」が10.1%などとなっている。

図表 41 団体の今後のあり方についての考え





## (9) 自由意見

### ①新たな活動者の確保や運営での工夫（問 25）

区分	主なご意見
企画	・子育て支援の活動内容を見直し、人気の高い内容に精選した。
活動	・補助金を活用してつけもの工房を作り、商品を販売した。 ・民泊に登録した。
体制確保	・ボランティア希望の方をスタッフとしてむかえ、ある程度まとまった時間、内容をお任せするようにしている。大学生インターンにも活動の中心的な部分に参加してもらっている。 ・オンラインとSNS、メール利用で会報作成などを遠方の仲間にお願ひできた。 ・定年退職者の男性に理事及び事務局として参画してもらったことにより、事務に関する業務（特に経理）に係わる時間が減った。 ・自然環境の保全活動に関心があり、体力と意欲のある人に協力をお願ひしている。 ・ハローワークと協力して高齢者（特に電気技術者）の参加を要請している。 ・学生スタッフを確保した。 ・後継者の育成に少しずつ取り組んでいる。
組織運営	・事業ごとの担当者会議を定例化し、話し合いながら進めた。 ・SNSで情報・連絡を共有している。 ・発注業務等のオンライン化や、店頭支払いでの電子マネーを導入した。
連携	・大学のゼミ等と協働した。
財源	・補助金を活用した。 ・助成金を活用した。 ・NPO法人となり、各種の助成金を受け易くなり、活動がやり易くなった。 ・大学の森の整備や簡易施設の維持管理で収入を確保している。
広報	・広報紙を全戸に配布した。 ・SNSを通じて行事を広報した。
その他	・会員確保（増加）のために一部会費を免除した。

### ②コロナ禍において新たに取り組んだこと（問 25）

区分	主なご意見
活動	・1回の参加人数を少なくし、密を回避した。 ・活動時間を半日に短縮した。 ・コロナ禍でも個別対応で実施できる場所と時間を設けた。 ・コロナ禍でも、活動を止めなかったことが信用になった。 ・コロナ禍で、急に生活困窮に陥った世帯への直接の食支援。 ・グループ活動を個別対応に変更した。 ・コロナ禍になり、高齢者の引きこもりが多くなったので、電話をかけたりして、センター行事にきてもらうようにした。 ・常設のコミュニティスペースを開設した。 ・屋外での活動に力を入れた。 ・屋外の活動を増やした。 ・オンラインでのイベントを企画した。 ・活動のオンライン化を進めたことにより、活動参加者が国内外から多く集まった。 ・ホームページの充実やテレビ電話を活用した。 ・会員間の情報共有に取り組んだ。

区分	主なご意見
組織運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンライン会議を利用した。</li> <li>・オンラインの活用とクラウドを活用した情報共有をした。</li> <li>・ネットによる情報配信の取り組みをより充実させた。</li> <li>・コロナ感染の防止器具（ピンマイク、CO<sub>2</sub>計測器、体温計、フェイスシールド）を購入した。</li> <li>・コロナ検査実施を実施した。</li> <li>・消毒、検温をした。</li> <li>・民間、自治体等の助成金、補助金を活用した。</li> </ul>



■ **令和4年度 神戸市内地域組織基礎調査**

**NPO法人 調査結果報告書**

(連絡先)

神戸市地域協働局地域活性課 (地域コミュニティ担当)

電話 : 078-322-5170 (内線 2262)      FAX : 078-322-6133

電子メール    [community@office.city.kobe.lg.jp](mailto:community@office.city.kobe.lg.jp)

(調査委託先) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社